

**武蔵村山市ひとり親家庭等
ニーズ調査報告書**

平成 31 年 3 月

武蔵村山市

目次

1	調査の概要	1
1	1. 調査の目的	1
2	2. 調査の概要	1
3	3. 報告書を読むにあたっての注意点	1
2	2 結果の概要	2
1	1. 回答者の状況	2
2	2. 家族構成	2
3	3. 養育費と面会交流	3
4	4. 住居の状況	3
5	5. 就労の状況	4
6	6. 資格の取得	5
7	7. 収入	5
8	8. 子どもの状況	5
9	9. 困りごとや悩みごと	6
6	10. 支援制度の認知と利用意向、情報の入手方法	6
7	11. まとめと課題	7
3	3 調査結果の詳細	8
1	1. 回答者の状況	8
8	(1) 年齢・世帯	8
9	(2) 同居している子どもや家族等	9
11	(3) 居住年数と居住地区	11
13	(4) ひとり親家庭になってからの年数	13
14	(5) ひとり親家庭になった理由	14
14	(6) 養育費の状況	14
16	(7) 面会交流の状況	16
17	(8) 住まいの状況	17
21	2. 就労の状況	21
21	(1) ひとり親家庭になったときの仕事の状況	21
26	(2) 現在の仕事の状況	26
32	(3) 仕事についての今後の意向	32
36	3. 資格の取得状況と意向	36
36	(1) 現在もっている資格	36
38	(2) 今後とりたい資格	38
40	4. 仕事と生活とのバランス	40

(1) 子どもと過ごす時間	40
(2) 子どもとの関わり	40
(3) 必要な家事や家の用事.....	41
(4) 自分の自由な時間	41
(5) 世帯別の、仕事と生活とのバランス	42
5. 収入.....	43
(1) 社会保障給付金及び公的年金.....	43
(2) 世帯の収入源	49
6. 子どもの状況.....	53
(1) 小学校入学前の子ども	53
(2) 小・中学生の子ども	54
(3) 中学校卒業後の子ども	56
7. 困りごとや悩みごと	57
(1) 自身の困りごと	57
(2) 子どもに関する悩みごと	59
(3) 困りごとや悩みごとの相談先.....	60
8. 支援制度の認知と利用意向	61
(1) 相談・窓口	61
(2) 手当・資金	64
(3) 医療費の助成	67
(4) 子育て支援事業.....	69
(5) 生活	73
(6) 仕事.....	75
(7) 公営住宅.....	78
(8) マイナポータル.....	79
(9) 情報の入手方法.....	85
9. 主な自由意見.....	86
(1) 事業・制度全般.....	86
(2) 窓口・相談・手続き	86
(3) 就労・仕事と子育て	86
(4) 諸手当・諸費用・経済的問題.....	87
(5) 住宅・地域の環境	87
(6) 子ども・子育て・教育.....	87
(7) 生活全般・健康.....	88
【参考資料】 使用した調査票.....	89

1 調査の概要

1. 調査の目的

ひとり親家庭への支援など、市の子どもに関する計画づくりの参考とするため、ひとり親家庭等の生活状況やニーズの把握を目的として調査を実施したものです。

2. 調査の概要

- 調査対象者：平成 30 年 9 月時点で児童育成手当受給資格をお持ちのかた
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：平成 30 年 10 月 19 日（金）～11 月 9 日（金）
- 回収状況：

発送数	1,107 件
回収数	348 件
回収率	31.4%

3. 報告書を読むにあたっての注意点

- 設問文には【単数回答】（1 つを選択）、【複数回答】（複数を選択）の別を付しています。
- グラフに付されている「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数（回答者数）を示しています。
- 図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記します。このため、すべての割合の合計が 100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、すべての割合の合計が 100%を超えることがあります。
- 図表の記載にあたり、調査票の質問文、選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0%」や 1%未満の数値表示を省略している場合があります。
- 世帯別のクロス集計では、母子家庭・父子家庭に絞ったクロス集計を行っているものがあります。

2 結果の概要

1. 回答者の状況

- ひとり親となった理由は、8割弱が「離婚」

ひとり親となった理由は、母子世帯で79.5%、父子世帯で78.6%が「離婚」と回答しています。【問7】

- ひとり親家庭の約84%は「母子家庭」

回答数348世帯のうち、母子世帯が292世帯(83.9%)、父子世帯が28世帯(8.0%)、配偶者に障害がある世帯が11世帯、養育者世帯が7世帯となっています。【問2】

- 母子世帯及び父子世帯ともに40代が最も多い

「母子世帯」「父子世帯」とも「40代」が最も多くなっており、「40代」及び「50代」の割合は「父子世帯」の方が「母子世帯」よりも高く、全体に父子世帯の方が保護者の年齢が高くなっています。【問1】

- 武蔵村山市での居住の理由では「親族」の存在が大きい

市への居住理由では「自分の親族がいるから」が27.3%、「自分の親族と一緒に住むから」が12.1%で、合わせて39.4%が親族の存在を居住理由にあげています。【問5-2】

2. 家族構成

- 12歳未満の子どもを養育している家庭が多い

養育している子どもは、母子世帯では、小学生(1~3年及び4~6年)が45.5%で最も多く、小学校入学前を合わせると70.5%となり約7割を占めています。父子世帯では、小学生(1~3年及び4~6年)が60.7%で最も多く、小学校入学前を合わせると、67.8%となっています。12歳未満の子どもを養育している家庭が多いことがわかります。【問3】

- 母子世帯の3割以上が親と同居

回答者本人(保護者)の親との同居の状況は、「母子世帯」で32.8%、父子世帯で21.4%が同居世帯となっています。【問4】

- ひとり親になった時期と同じ時期に武蔵村山市へ転入したかたの割合の平均が高い

ひとり親になった時期と武蔵村山市へ転入した時期が同時期であるかたの割合の平均が20.2%と高くなっています。ひとり親になってから武蔵村山市へ転入したかたの割合の平均は8.6%となっており、武蔵村山市に居住してからひとり親になったかたの割合の平

均は 12.4%となっています。問 5-2 の武蔵村山市へ居住した理由として、親族がいることが最も多かったことから、ひとり親になるとほぼ同じ時期に、親族を頼って転入してきた可能性が考えられます。【問 5・問 6】

3. 養育費と面会交流

- 養育費が支払われているかたは約 2 割、取り決めをしていないかたは約 4 割

養育費の受け取りについて、「支払われている（定期的 18.3%、不定期 1.7%）」が 20.0%で、「取り決めをしていない」が 38.8%となっています。【問 7-1】

- 母子世帯の 7 割以上が面会交流の取り決めをしていない

面会交流の取り決めの有無については、「していない」が 70.2%と最も多くなっており、母子世帯では 71.3%、父子世帯では 59.1%となっています。【問 7-2】

4. 住居の状況

- 母子世帯では賃貸住宅の居住が多く、父子世帯では自分の持ち家が多い

母子世帯では、民間の賃貸住宅が 32.5%で最も多く、次に、都営住宅・市営住宅が 27.4%で、賃貸住宅の割合が 59.9%となっています。父子世帯では、自分の持ち家が 53.6%で最も多くなっています。【問 8】

- 子ども 3 人以上では「自分の持ち家」が増える

住居の状況を子どもの人数別にみると、1 人、2 人では「自分の持ち家」が 20%台であるのに対し、3 人では 45.2%、4 人以上では 40.0%となっています。【問 9】

- 母子世帯では住まいにかかる費用の抑制がうかがえる

家賃・住宅ローンなど、住まいにかかる 1 か月の費用は、「6 万円以上 8 万円未満」が 22.1%と最も多くなっていますが、月 6 万円以上は父子世帯で割合が高くなっており、母子世帯の方がかかる費用の少ない住居に住む傾向がみられます。【問 10】

5. 就労の状況

- **85%以上が就労している**

母子世帯の 86.6%、父子世帯の 89.3%が就労しています。【問 13】

- **母親の働いていない理由は「求職中」「家事・育児」「健康不安」**

母子世帯の働いていない理由は、「求職中のため」「家事・育児のため」「自分の健康に不安があるため」がいずれも 20.6%で他の理由に比べて多くなっています。母子世帯の就労については、就労支援、子育て支援、健康保持の取組の必要性があると考えられます。【問 14】

- **母子世帯のほうが近隣で就労**

就労場所は多摩地区での就労が母子世帯、父子世帯ともに一番多くなっています。武蔵村山市内で働いているかたは、母子世帯の 4 割、父子世帯の 2 割となっており、母子世帯のほうが近隣で就労する傾向がみられます。【問 15】

- **母子世帯で多い就労形態は「パート・アルバイト」**

母子世帯ではパート・アルバイトが 49.8%と多く、次いで、正社員・正職員が 37.2%となっています。父子世帯では、正社員・正職員が 84.0%と多くなっています。【問 15-1】

- **父親のほうが就業時間が長い**

週あたりの平均就業時間は、母子世帯、父子世帯ともに、40 時間～50 時間が最も多くなっています。平均就業時間 51 時間以上は父子世帯で 32.0%、母子世帯で 6.3%となっており、父親の長時間の就労の状況がみられます。【問 15-3】

- **母子世帯では仕事を变えたい意向が高い**

現在の仕事について、母親では仕事を变えたい割合が 34.8%で、父親の 24.0%と比べて多く、父親では、今の仕事を続けたい割合が 76.0%で、母親の 63.6%と比べて多くなっています。【問 15-4】

- **仕事を变えたい大きな理由は「収入」**

仕事を变えたい理由について、「収入がよくない」が 55.1%で最も多く、「自分の健康状態がわるくなる」が 27.6%となっています。【問 15-5】

- **「仕事のため、子どもと過ごす時間が少ない」が約 8 割**

仕事と生活とのバランスについて「仕事のため、子どもと過ごす時間が少ない」と感じる回答は「よくある」が 39.1%、「ときどきある」が 39.1%となっています。【問 18】

6. 資格の取得

- 与りたい資格は「パソコン・OA 関係」が多く、「費用」と「時間」が取得の悩み

与りたい資格では、「パソコン・OA 関係」が 10.9%と最も多く、資格をとるにあたっての悩みや困りごとでは「費用がかかる」が 65.9%、「資格をとるための時間がない」が 57.3%で多くなっています。【問 17・問 17-1】

7. 収入

- 世帯の収入源では、76.4%が「勤労収入（パート等）」、12.1%が「養育費」

収入源は「勤労収入（パート等）」が 76.4%と最も多くなっており、「元配偶者等からの養育費」が 12.1%、「親族等からの支援」が 5.2%みられます。【問 20（1）】

- 母子世帯は父子世帯よりも 100～200 万円収入の低いかたが多い

社会保障給付金（児童育成手当等）や公的年金を除く、世帯全員の年間収入は、母子世帯では、100～200 万円未満が 30.5%で最も多く、父子世帯では、300～400 万円未満が 32.1%で最も多くなっています。母子世帯では、300 万円未満が 68.9%となっており、約 7 割を占めています。【問 20（2）】

8. 子どもの状況

- 子どもたちは「友だちと遊ぶ」に次いで「子どもだけで自宅にいる」

小・中学生の子どもの平日の放課後の過ごし方は「友だちと遊んでいる」が 30.7%と最も多く、土・日曜日や長期休暇中も同様に「友だちと遊んでいる」が 35.1%と最も多くなっています。次に多いのは「子どもだけで自宅にいる」で、平日の放課後は 29.0%、土・日曜日や長期休暇中は 32.2%となっています。【問 22・問 22-1】

- 子どもの学習支援は、3 割弱が「塾」、次いで「学校での補習」を望んでいる

子どもの学習支援については、「塾が必要」が 28.4%で最も多くなっており、「学校での補習」が 25.6%となっています。【問 22-2】

- 中学卒業後は「進学」が最多

中学校卒業後の子どもについては、「進学している」が 29.6%と最も多いのに対し、「働いている」は 2.0%となっています。働いている子どもは、全員が働くことを希望していましたが、このうち 1 名については、経済的な事情で働く必要があったと回答しています。【問 23・問 23-1】

9. 困りごとや悩みごと

- 困りごとで最も多いのは「家計のこと」

保護者自身の困りごとでは、「家計のこと」が55.2%と最も多くなっています。「家計のこと」の割合はすべての年代で最も多くなっており、「自分の健康のこと」や「親族の健康・介護のこと」は、年代が上がるにつれて多くなっています。【問 24】

- 子育て等の悩みごとは子どもの教育や学習

子育てや子どもとの関わりにおける悩みは、「子どものしつけ・教育」が41.1%で最も多くなっています。子どもについての悩みでも、「子どもの勉強・学力」が47.7%と最も多く、次いで、「子どもの進路（進学・就職）」が39.4%となっており、ひとり親の保護者が子どもの教育や学習に対し悩みを抱えていることがうかがえます。【問 25・問 26】

- 悩みごとを相談しないかたの7割弱は相談できる人がいない

悩みごとの相談相手は、「自分の親族」が53.2%と最も多くなっており、親族との近居・同居が居住理由で多かったことと合致しています。相談しないかたが11.2%みられ、そのかたの相談しない理由では「相談できる人がいない」が66.7%で最も多くなっています。【問 27・問 27-1】

10. 支援制度の認知と利用意向、情報の入手方法

- 仕事に関する支援制度では「ハローワーク」の認知度が最も高い

手当・資金及び医療費の助成に関する支援制度は、制度を知っているかたが多く認知度が高い状況にあります。一方で、子育て支援事業の支援制度のうち、子どもショートステイ事業や、育児支援ヘルパー事業は、制度の認知が進んでいない状況がみられました。また、仕事の支援制度ではハローワーク立川が「知っていた」64.9%で最も高くなっており、自立支援教育訓練や高等職業訓練に関する給付金、東京しごとセンター、東京都ひとり親家庭支援センターはあとなどは認知度が低くなっています。【問 28】

- 相談窓口の認知度は高いものの、自分が利用できる相談窓口がどこかわからないかたも少数いる

仕事で困っているかたは各種相談窓口について認知度が高い傾向にあります。一方で、39名のかたが困りごとをどこにも相談しないと回答しましたが、うち3名（7.7%）のかたが「どこで相談できるかわからない」と回答しています。困りごとを抱えており、各相談窓口の認知度は高い状況ですが、自分が利用できる相談窓口がどこかわからないかたも少数いる状況です。【問 28・問 27-1】

● 情報入手は現状・希望とも「市報」がトップ。今後はネット利用も望む

子どもに関する施策や行事などの情報の入手方法については、現在、市報で受け取っているかたが 74.1%で最も多く、今後受け取りたい方法も市報を選択したかたが 47.1%で最も多くなっています。情報入手経路における市報の役割が大きいことがわかります。今後受け取りたい方法では、ホームページ、SNS、メールといったネット利用を望む傾向もみられます。【問 29】

11. まとめと課題

ひとり親家庭の就労の形態は、父子家庭で「正社員・正職員」が約 8 割、母子家庭で「パート・アルバイト」が約 5 割となっており、年収の平均は母子家庭のかたが低くなっています。また、困っていることでは、母子家庭・父子家庭ともに「家計のこと」が最も多くなっています。

母子家庭の場合、ひとり親家庭になったことで働き始めるかたが 28.8%おり、就労先が決まるまでにかかった期間は「1 か月以内 (34.2%)」が多くなっています。生活のためにはすぐに仕事につかなければいけないという事情から、結果的に「パート・アルバイト」で働いている可能性があり、「収入」を理由に今後仕事を変えたいと考えるかたも母子家庭で多くなっています。また、母子家庭では、勤務時間、子育てへの理解、自宅に近いことや休みのとりやすさなどの職場環境も仕事選択の条件として求められています。

自身が望んでいる仕事や継続的・安定的に働いていける職場を見つけるために、就業相談窓口を利用する方法がありますが、就業相談窓口を知らないかたも一部みられるため、相談窓口の周知も必要と考えられます。

収入源については、勤労収入が約 76%と最も多く、次に、養育費が約 12%となっています。養育費の取り決めをしていないかたは約 4 割おり、面会交流については、約 7 割のかたが取り決めをしていない状況です。子どものために必要な事項であることから、離婚の場合は、ひとり親家庭となる前に取り決めを行っておくことが望ましいと考えられます。

子どもに関する悩みでは、子ども教育や学習の悩みが多く、放課後や休みの日を子どもたちだけで自宅で過ごしている割合は小・中学校とも約 3 割となっています。

これらの結果から、就労支援事業のほか、養育費や面会交流の制度等、市で行っている事業の周知等を含め、複合的に周知度を高めていくことがひとり親家庭の支援として求められる点であると考えられます。

3 調査結果の詳細

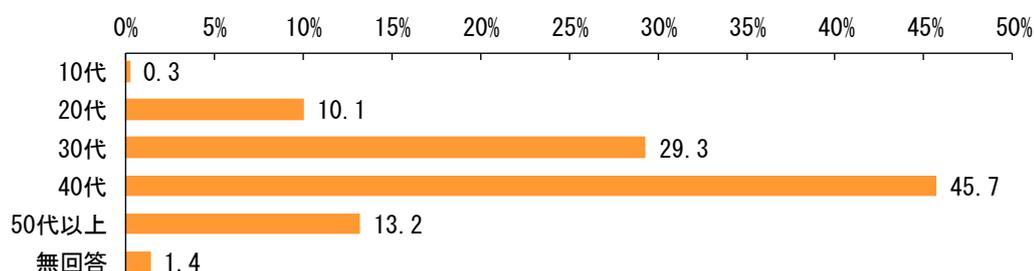
1. 回答者の状況

(1) 年齢・世帯

問1 あなたの年齢を教えてください【単数回答】

回答者の年齢は、「40代」が45.7%と最も多く、次いで「30代」が29.3%、「50代以上」が13.2%、「20代」が10.1%、「10代」が0.3%となっています。

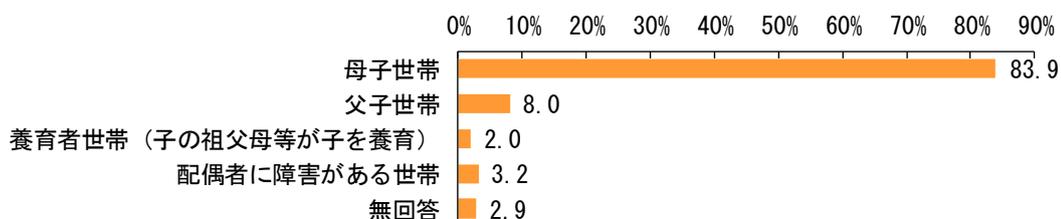
n=348



問2 世帯について教えてください【単数回答】

「母子世帯」が83.9%を占め、「父子世帯」が8.0%となっています。また「配偶者に障害がある世帯」が3.2%、「養育者世帯」が2.0%となっています。

n=348



【世帯別】 回答者の年齢

「母子世帯」「父子世帯」とも「40代」が最も多くなっています。「40代」及び「50代」の割合は「父子世帯」の方が「母子世帯」よりも高く、全体に父子世帯の方が保護者の年齢が高くなっています。

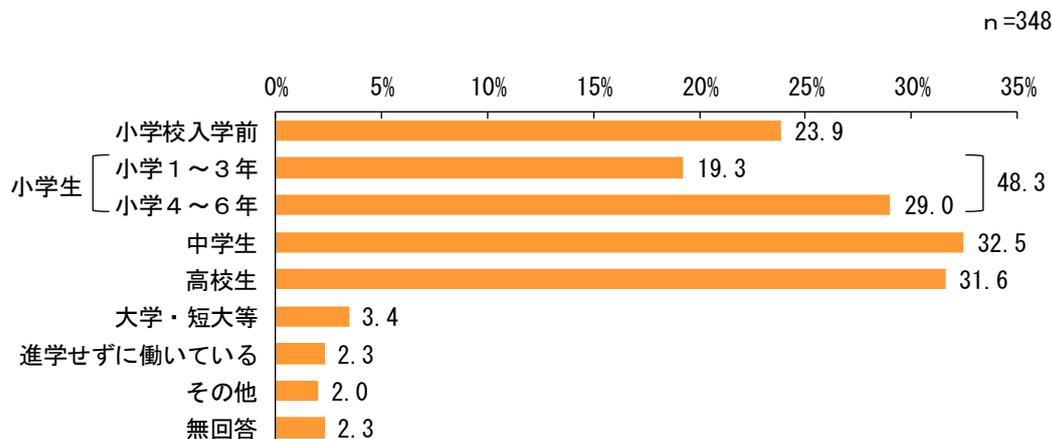
	回答数 (人)	10代	20代	30代	40代	50代以上	無回答
全体	348	0.3	10.1	29.3	45.7	13.2	1.4
母子世帯	292	0.3	12.0	30.8	45.2	11.3	0.3
父子世帯	28	0.0	0.0	21.4	60.7	17.9	0.0
養育者世帯	7	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0
配偶者に障害がある世帯	11	0.0	0.0	27.3	45.5	27.3	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位2位（母子・父子世帯のみ、無回答除く）。

(2) 同居している子どもや家族等

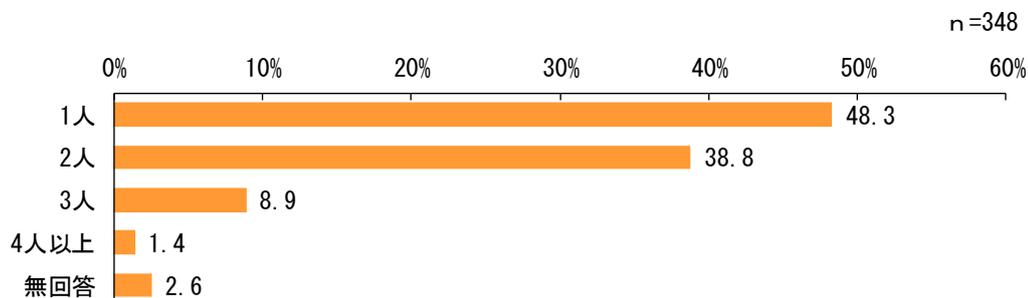
問3 同じ家で暮らしている、20歳未満のお子さんの、学年などと人数を教えてください
【複数回答】

「小学生」が48.3%（小学1～3年19.3%、小学4～6年29.0%）と最も多く、次いで「中学生」が32.5%、「高校生」が31.6%、「小学校入学前」が23.9%となっています。



同居している20歳未満の子どもの人数

同居している20歳未満の子どもの人数は「1人」が48.3%で最も多く、「2人」が38.8%となっています。



【世帯別】 同居している20歳未満の子ども

「母子世帯」では「小学生」が45.5%（小学1～3年17.1%、小学4～6年28.4%）と最も多く、「父子世帯」では「小学生」が60.7%（小学1～3年32.1%、小学4～6年28.6%）と最も多くなっています。「小学校入学前」の割合では、「父子世帯」の7.1%に対し「母子世帯」が25.0%と多くなっています。

回答者の年齢で50代以上が7割を超える「養育者世帯」で「小学生」が71.5%（小学1～3年28.6%、小学4～6年42.9%）で多くなっており、祖父母等が養育している場合でもこの先長く養育の必要がある層の存在がうかがえます。

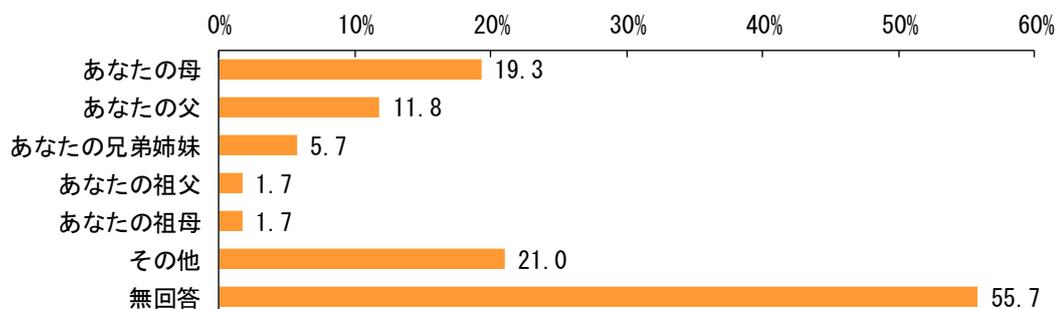
	回答数 (人)	小学校入 学前	小学 1～3年	小学 4～6年	中学生	高校生	大学・ 短大等	進学せず に働いて いる	その他	無回答
全体	348	23.9	19.3	29.0	32.5	31.6	3.4	2.3	2.0	2.3
母子世帯	292	25.0	17.1	28.4	33.6	33.6	3.4	2.7	2.4	1.4
父子世帯	28	7.1	32.1	28.6	35.7	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0
養育者世帯	7	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者に障害がある世帯	11	45.5	18.2	27.3	36.4	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位2位（母子・父子世帯のみ、無回答除く）。

問4 20歳未満のお子さん以外に、同じ家で暮らしているのはどなたですか【複数回答】

「あなたの母」が19.3%と最も多く、次いで「あなたの父」が11.8%、「あなたの兄弟姉妹」が5.7%、「あなたの祖父」が1.7%となっています（「その他」は除く）。

n=348



【世帯別】 20歳未満の子ども以外に同居している人

「あなたの父」と「あなたの母」を加えた、回答者本人（保護者）の親との同居の状況を見ると、「母子世帯」では32.8%（あなたの父12.3%+あなたの母20.5%）、父子世帯では21.4%（あなたの父10.7%+あなたの母10.7%）となっており、母子世帯の方が本人（保護者）の親との同居世帯が多く、全体の3割以上が同居母子世帯となっています。

	回答数 (人)	あなたの 父	あなたの 母	あなたの 祖父	あなたの 祖母	あなたの 兄弟姉妹	その他	無回答
全体	348	11.8	19.3	1.7	1.7	5.7	21.0	55.7
母子世帯	292	12.3	20.5	1.4	1.4	6.2	19.9	56.5
父子世帯	28	10.7	10.7	3.6	3.6	7.1	21.4	53.6
養育者世帯	7	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6
配偶者に障害がある世帯	11	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	36.4	45.5

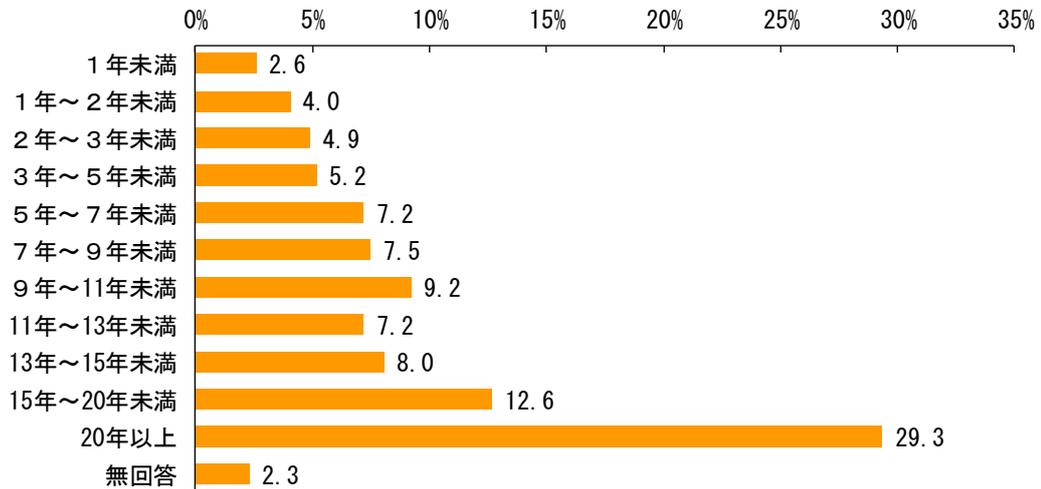
※網掛けのセルは横軸の上位2位（母子・父子世帯のみ、無回答除く）。

(3) 居住年数と居住地区

問5 居住年数【単数回答】

回答者の居住年数は、「20年以上」が29.3%と最も多く、次いで「15年～20年未満」が12.6%、「9年～11年未満」が9.2%、「13年～15年未満」が8.0%、「7年～9年未満」が7.5%となっています。

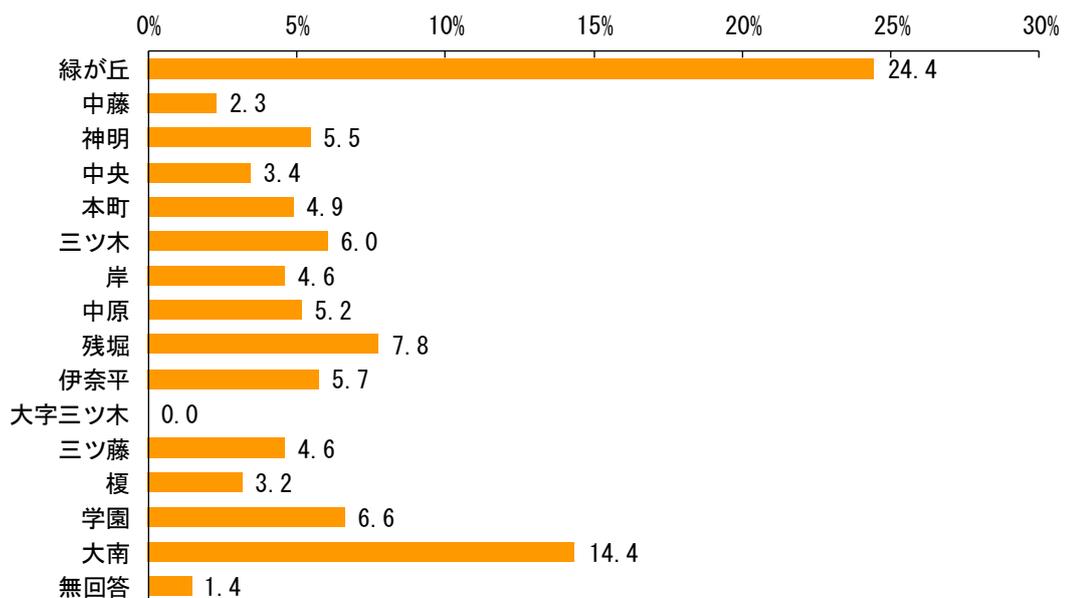
n=348



問5-1 武蔵村山市のどちらにお住まいですか【単数回答】

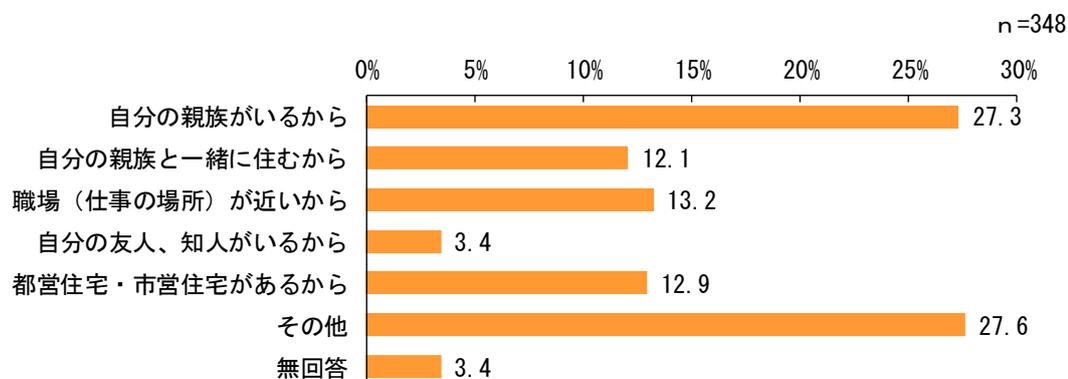
回答者の居住地区は、「緑が丘」が24.4%と最も多く、村山団地のある緑が丘にひとり親家庭が多く居住していることがわかります。次いで「大南」が14.4%、「残堀」が7.8%、「学園」が6.6%、「三ツ木」が6.0%となっています。

n=348



問5-2 武蔵村山市にお住まいになられたのは、どのような理由ですか【単数回答】

「自分の親族がいるから」が27.3%と最も多く、次いで「職場（仕事の場所）が近いから」が13.2%、「都営住宅・市営住宅があるから」が12.9%、「自分の親族と一緒に住むから」が12.1%となっています（「その他」を除く）。



【居住地別】 武蔵村山市に住んでいる理由

全体的に親族の存在が居住理由の上位にあげられています。中央、中原、三ツ藤では「職場（仕事の場所）が近いから」の割合が高くなっています。村山団地のある緑が丘では、「都営住宅・市営住宅があるから」が48.2%で高い割合となっています。

	回答数 (人)	自分の 親族が いるから	自分の 親族と 一緒に 住むから	職場（仕事の 場所）が 近いから	自分の 友人、知人 がいるから	都営住宅・ 市営住宅が あるから	その他	無回答
全体	348	27.3	12.1	13.2	3.4	12.9	27.6	3.4
緑が丘	85	25.9	1.2	8.2	4.7	48.2	10.6	1.2
中藤	8	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
神明	19	5.3	26.3	15.8	0.0	5.3	42.1	5.3
中央	12	50.0	8.3	16.7	8.3	0.0	16.7	0.0
本町	17	23.5	23.5	11.8	5.9	0.0	35.3	0.0
三ツ木	21	42.9	14.3	4.8	0.0	0.0	38.1	0.0
岸	16	31.3	6.3	6.3	0.0	0.0	56.3	0.0
中原	18	27.8	11.1	27.8	5.6	0.0	22.2	5.6
残堀	27	37.0	3.7	14.8	0.0	0.0	44.4	0.0
伊奈平	20	35.0	5.0	25.0	0.0	0.0	35.0	0.0
大字三ツ木	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
三ツ藤	16	37.5	18.8	18.8	6.3	0.0	6.3	12.5
榎	11	36.4	9.1	9.1	0.0	0.0	45.5	0.0
学園	23	13.0	34.8	13.0	0.0	4.3	34.8	0.0
大南	50	20.0	16.0	16.0	8.0	4.0	30.0	6.0

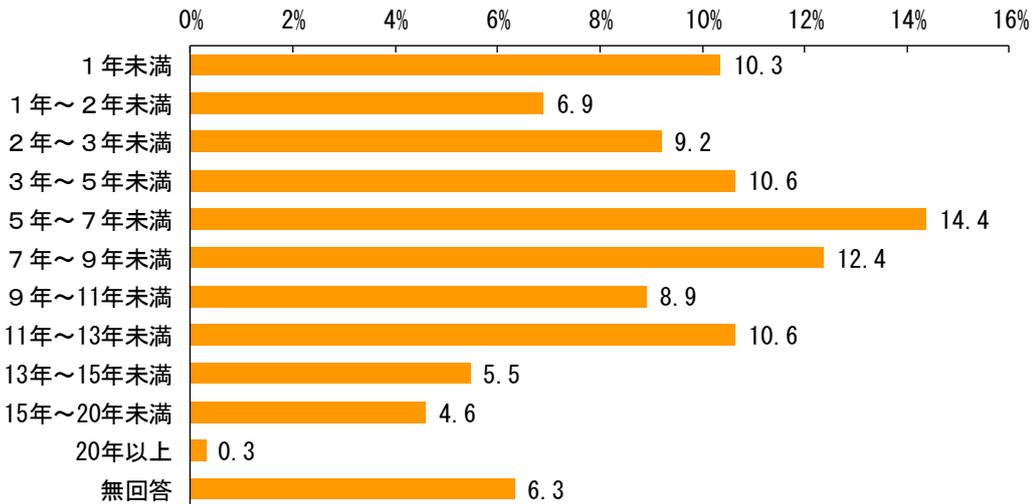
※網掛けのセルは横軸の上位2位（無回答除く）。

(4) ひとり親家庭になってからの年数

問6 ひとり親家庭になってから何年くらいになりますか【単数回答】

「5年～7年未満」が14.4%と最も多く、次いで「7年～9年未満」が12.4%、「3年～5年未満」が10.6%、「11年～13年未満」が10.6%、「1年未満」が10.3%となっています。

n=348



【ひとり親家庭になってからの年数別】 居住年数

ひとり親家庭になってからの年数別に居住年数をみると、ひとり親になった時期と転入の時期がほぼ同時期である層の割合の平均が20.2%と高くなっており、武蔵村山市に居住してからひとり親になった層の割合の平均12.4%を超えています。ひとり親になってから転入した層の割合の平均は8.6%と低くなっています。

問5-2の居住理由で親族の存在が大きかったことから、ひとり親になるとほぼ同じ時期に、親族を頼って転入してきた可能性が考えられます。

		問5 居住年数											
		回答数 (人)	1年未満	1年～ 2年未満	2年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 9年未満	9年～ 11年未満	11年～ 13年未満	13年～ 15年未満	15年～ 20年未満	20年以上
問6 ひとり親家庭に なつてからの 年数	全体	340	2.6	4.1	5.0	5.3	7.4	7.6	9.4	7.4	8.2	12.9	30.0
	1年未満	35	11.4	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	8.6	5.7	2.9	17.1	37.1
	1年～2年未満	24	4.2	8.3	4.2	8.3	8.3	12.5	8.3			12.5	33.3
	2年～3年未満	32	6.3		12.5	9.4	3.1		6.3	9.4	3.1	12.5	37.5
	3年～5年未満	37	2.7	8.1	8.1	16.2	2.7	10.8	8.1	8.1		10.8	24.3
	5年～7年未満	49		6.1	6.1	4.1	20.4	4.1	2.0	6.1	14.3	8.2	28.6
	7年～9年未満	43	2.3	4.7	2.3		9.3	23.3	9.3	2.3	4.7	16.3	25.6
	9年～11年未満	31				3.2	6.5	6.5	19.4	6.5	12.9	16.1	29.0
	11年～13年未満	37		0.0	5.4	2.7	2.7	5.4	10.8	21.6	5.4	10.8	35.1
	13年～15年未満	18		5.6			5.6	0.0	0.0	5.6	50.0	11.1	22.2
	15年～20年未満	16				12.5	6.3	0.0	25.0			18.8	37.5
	20年以上	1						100.0					

ひとり親になってから武蔵村山市に転入 平均8.6%

ひとり親になった時期と転入がほぼ同じ 平均20.2%

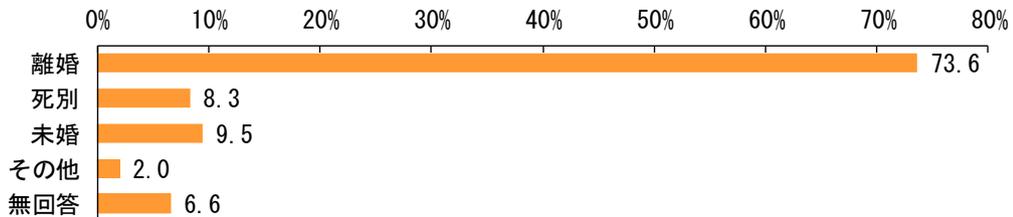
武蔵村山市に居住してからひとり親になった 平均12.4%

(5) ひとり親家庭になった理由

問7 ひとり親家庭になった理由を教えてください【単数回答】

「離婚」が73.6%と最も多く、次いで「未婚」が9.5%、「死別」が8.3%、「その他」が2.0%となっています。

n=348



【世帯（母子・父子）別】 ひとり親家庭になった理由

世帯（母子・父子）別で、「離婚」に続く理由をみると、母子世帯では「未婚」、父子世帯では「死別」が多くなっています。

	回答数 (人)	離婚	死別	未婚	その他	無回答
全体	348	73.6	8.3	9.5	2.0	6.6
母子世帯	292	79.5	7.5	11.3	0.3	1.4
父子世帯	28	78.6	21.4	0.0	0.0	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位2位（無回答除く）。

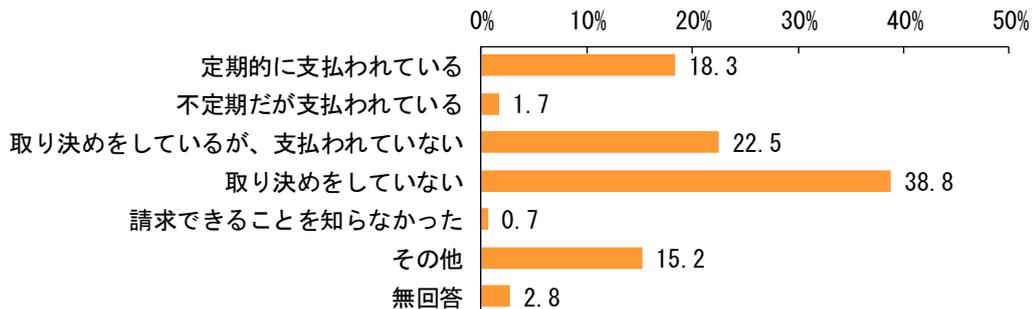
(6) 養育費の状況

問7-1 養育費は、支払われていますか【単数回答】

離婚または未婚の場合に養育費の支払いを受けているかどうかを訊ねた質問では、「取り決めをしていない」が38.8%と最も多く、次いで「取り決めをしているが、支払われていない」が22.5%、「定期的に支払われている」が18.3%、「その他」が15.2%、「不定期だが支払われている」が1.7%となっています。

支払いを受けているかどうかで区分した場合、支払いを受けているかたは20.0%（定期18.3%、不定期1.7%）、支払いを受けていないかたは62.0%（取り決めしたが支払いがない22.5%、取り決めしていない38.8%、請求できることを知らなかった0.7%）となっています。

n=289



【世帯（母子・父子）別】 養育費の状況

世帯（母子・父子）別で、「取り決めをしていない」に続く状況を見ると、母子世帯では「取り決めをしているが、支払われていない」が、父子世帯では「その他」が多くなっています。

	回答数 (人)	定期的に支払われている	不定期だが支払われている	取り決めをしているが、支払われていない	取り決めをしていない	請求できることを知らなかった	その他	無回答
全体	289	18.3	1.7	22.5	38.8	0.7	15.2	2.8
母子世帯	265	19.2	1.5	24.2	36.6	0.8	15.1	2.6
父子世帯	22	9.1	4.5	0.0	63.6	0.0	18.2	4.5

※網掛けのセルは横軸の上位2位（無回答除く）。

● 「その他」の主な内容

母子世帯については、以下のとおり。

【母子世帯】

音信不通／支払いしたくないと拒否／相手の借金が原因の離婚なので一切無し／時々子どもが小遣いをもたらしている／関わりたくないのももらっていない／まだ相手が学生なので支払われていない／子供に会わせたくないから取り決めをしていない／相手に支払い能力がないと思う／住宅ローンを払ってもらっており養育費は0円。

父子世帯については、以下のとおり。

【父子世帯】

自分が男親だから／相手が死亡

支払われている養育費の金額

定期的に支払われている／金額（年間）

最大	¥1,440,000
最小	¥24,000
平均	¥550,737

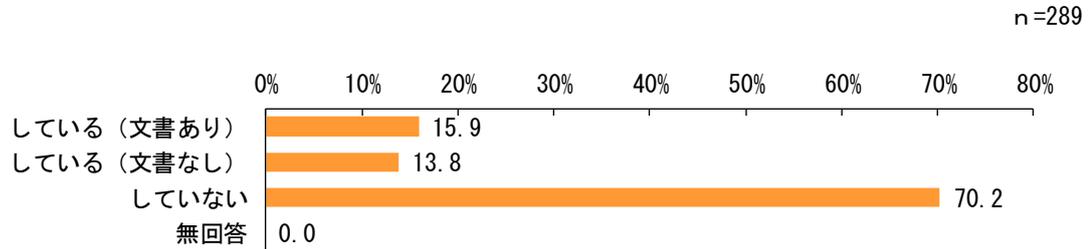
不定期だが支払われている／金額（年間）

最大	¥480,000
最小	¥50,000
平均	¥178,000

(7) 面会交流の状況

問7-2 面会交流の取り決めをしていますか【単数回答】

「していない」が70.2%と最も多く、次いで「している（文書あり）」が15.9%、「している（文書なし）」が13.8%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 面会交流の取り決め

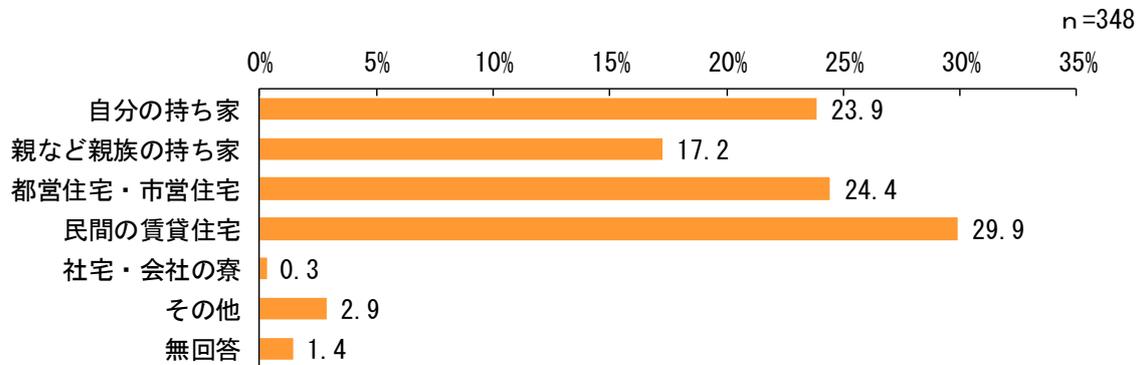
「していない」は母子世帯で7割を超え、父子世帯に比べて割合が高くなっています。「している（文書なし）」は父子世帯で割合が高くなっています。

	回答数 (人)	している (文書あり)	している (文書なし)	していない	無回答
全体	289	15.9	13.8	70.2	0.0
母子世帯	265	15.8	12.8	71.3	0.0
父子世帯	22	13.6	27.3	59.1	0.0

(8) 住まいの状況

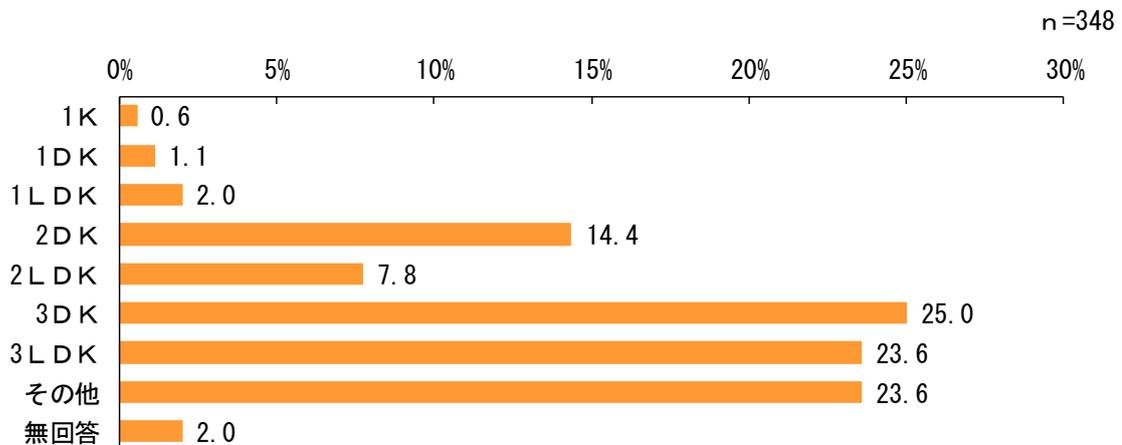
問8 お住まいは次のうちのどちらですか【単数回答】

「民間の賃貸住宅」が29.9%と最も多く、次いで「都営住宅・市営住宅」が24.4%、「自分の持ち家」が23.9%、「親など親族の持ち家」が17.2%、「その他」が2.9%となっています。



問9 お住まいの間取りを教えてください【単数回答】

「3DK」が25.0%と最も多く、次いで「3LDK」が23.6%、「2DK」が14.4%、「2LDK」が7.8%となっています（「その他」を除く）。



【世帯（母子・父子）別】【20歳未満の子どもの人数別】【居住地別】 住まい

住まいの状況を世帯（母子・父子）別にみると、母子世帯では「民間の賃貸住宅」が最も多く、父子世帯では「自分の持ち家」が最も多くなっています。

子どもの人数別にみると、3人以上では「自分の持ち家」が最も多くなっています。

居住地別に、『持ち家』（「自分の持ち家」＋「親など親族の持ち家」）と、「民間の賃貸住宅」の割合をみると、「岸」「残堀」「榎」では民間の賃貸住宅の方が多くなっています。都営村山団地のある緑が丘はほとんどが「都営住宅・市営住宅」となっており、問5-2の居住理由（居住地別）とも合致します。

	回答数 (人)	自分の 持ち家	親など親族 の持ち家	都営住宅・ 市営住宅	民間の 賃貸住宅	社宅・ 会社の寮	その他	無回答
全体	348	23.9	17.2	24.4	29.9	0.3	2.9	1.4

【世帯（母子・父子）別】

母子世帯	292	17.5	18.8	27.4	32.5	0.3	3.1	0.3
父子世帯	28	53.6	10.7	7.1	28.6	0.0	0.0	0.0

【20歳未満の子どもの人数別】

1人	168	23.2	21.4	26.8	26.8	0.6	1.2	0.0
2人	135	20.0	15.6	25.2	34.1	0.0	5.2	0.0
3人	31	45.2	3.2	9.7	38.7	0.0	3.2	0.0
4人以上	5	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0

【居住地別】

緑が丘	85	0.0	0.0	97.6	1.2	0.0	0.0	1.2
中藤	8	12.5	50.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0
神明	19	31.6	26.3	0.0	36.8	0.0	5.3	0.0
中央	12	25.0	33.3	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0
本町	17	29.4	41.2	0.0	29.4	0.0	0.0	0.0
三ツ木	21	28.6	19.0	0.0	47.6	0.0	4.8	0.0
岸	16	18.8	0.0	0.0	75.0	6.3	0.0	0.0
中原	18	44.4	16.7	0.0	38.9	0.0	0.0	0.0
残堀	27	29.6	7.4	0.0	63.0	0.0	0.0	0.0
伊奈平	20	55.0	25.0	0.0	15.0	0.0	5.0	0.0
大字三ツ木	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
三ツ藤	16	18.8	37.5	6.3	31.3	0.0	6.3	0.0
榎	11	18.2	27.3	0.0	54.5	0.0	0.0	0.0
学園	23	34.8	30.4	0.0	34.8	0.0	0.0	0.0
大南	50	38.0	20.0	2.0	34.0	0.0	6.0	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位2位（無回答除く）。

【居住地別】 『持ち家』（本人名義＋親族名義）と「民間の賃貸住宅」の割合

緑が丘、岸、残堀、榎の地区で、「賃貸（民間賃貸住宅）」の割合が、持ち家よりも高くなっています。

	持ち家 (本人名義＋親族名義)	賃貸 (民間賃貸住宅)
全体	41.1	29.9
緑が丘	0.0	1.2
中藤	62.5	12.5
神明	57.9	36.8
中央	58.3	33.3
本町	70.6	29.4
三ツ木	47.6	47.6
岸	18.8	75.0
中原	61.1	38.9
残堀	37.0	63.0
伊奈平	80.0	15.0
大字三ツ木	0.0	0.0
三ツ藤	56.3	31.3
榎	45.5	54.5
学園	65.2	34.8
大南	58.0	34.0

※網掛けのセルは横軸で数値の大きい方。

(参考) 【世帯別】 住まいの状況 全国との比較

武蔵村山市では、母子世帯における「公営住宅（都営・市営）」の割合が、全国よりも高くなっています。

	母子世帯		父子世帯	
	全国 (n=2060)	武蔵村山市 (n=292)	全国 (n=405)	武蔵村山市 (n=28)
持ち家	35.0	36.3	68.1	64.3
└ (うち、本人名義)	15.2	17.5	49.4	53.6
賃貸 (民間賃貸住宅)	33.1	32.5	11.4	28.6
公営住宅 (都営・市営)	15.4	27.4	7.6	7.1

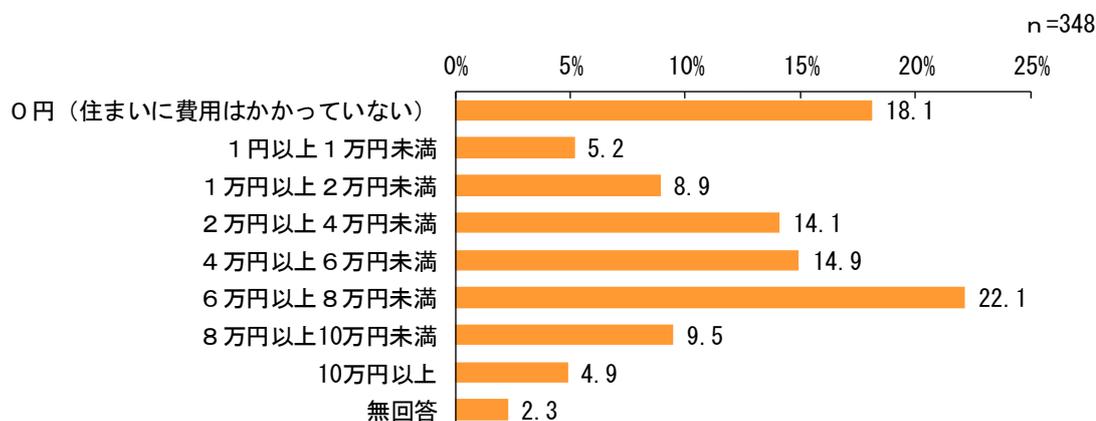
※全国は厚生労働省「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査」による

※全国は「公営住宅」に「公社・公団」が含まれる。

問 10 家賃・住宅ローンなど、お住まいには1か月にどのくらいの費用がかかりますか

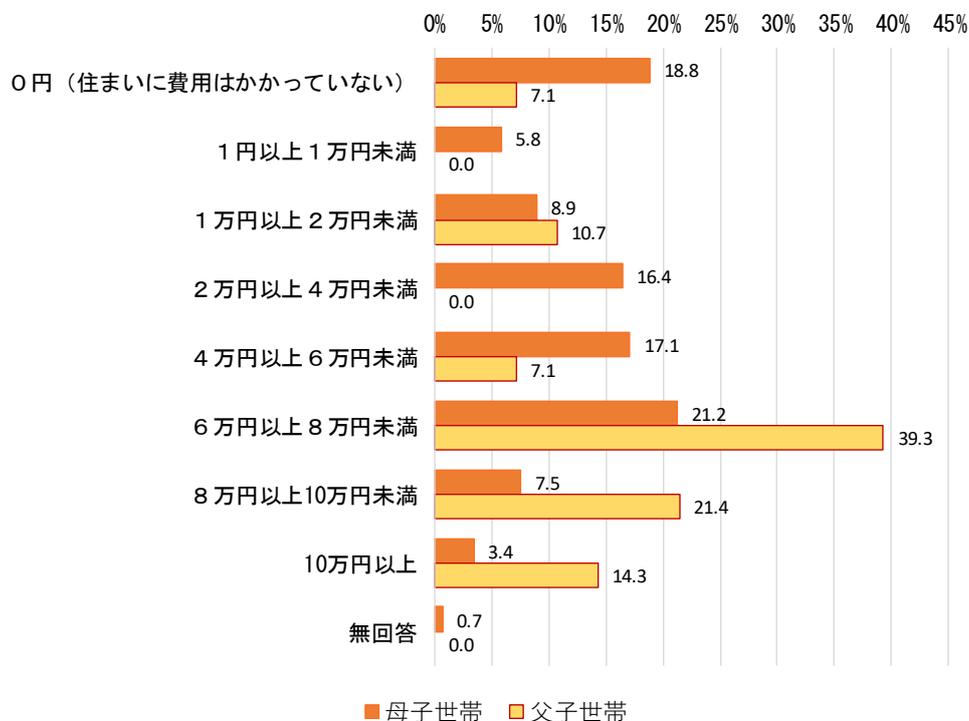
【単数回答】

「6万円以上8万円未満」が22.1%と最も多く、次いで「0円（住まいに費用はかかっていない）」が18.1%、「4万円以上6万円未満」が14.9%、「2万円以上4万円未満」が14.1%、「8万円以上10万円未満」が9.5%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 住まいにかかる費用

月6万円よりも多くかかっているのは父子世帯で割合が高くなっています。総じて、母子世帯の方が、かかる費用の少ない住居に住んでいることがわかります。



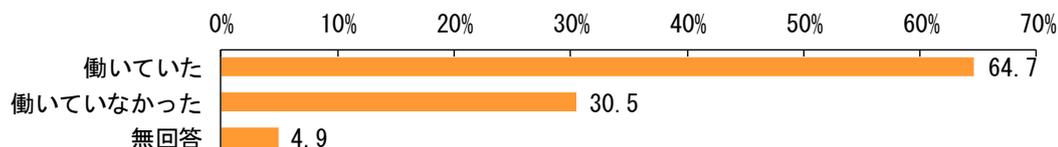
2. 就労の状況

(1) ひとり親家庭になったときの仕事の状況

問 11 ひとり親家庭になったときの仕事の状況を教えてください【単数回答】

「働いていた」が64.7%、「働いていなかった」が30.5%となっています。

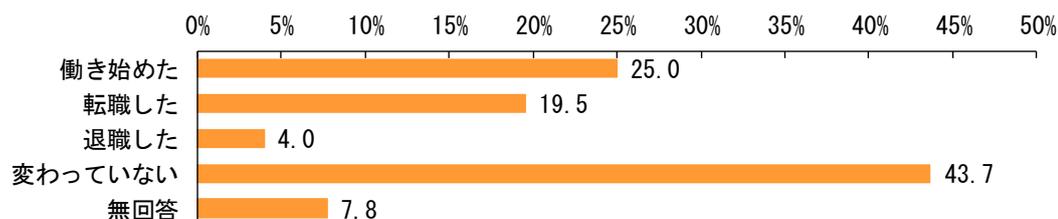
n=348



問 12 ひとり親家庭になったことで、仕事の状況は変わりましたか【単数回答】

「変わっていない」が43.7%と最も多く、次いで「働き始めた」が25.0%、「転職した」が19.5%、「退職した」が4.0%となっています。

n=348



【世帯（母子・父子）別】 ひとり親家庭になったときとその後の仕事の状況

母子世帯では、ひとり親家庭になったとき「働いていなかった」が33.2%となっており、ひとり親になったことで「働き始めた」が28.8%、「転職した」が21.2%となっており、合計で50.0%を占めています。2人に1人は、仕事を始めたか、転職した状況です。父子世帯では、ひとり親家庭になったとき「働いていた」が92.9%と多数を占め、ひとり親になっても「変わっていない」が67.9%となっています。

	回答数 (人)	働いて いた	働いて いなかった	無回答
全体	348	64.7	30.5	4.9
母子世帯	292	65.1	33.2	1.7
父子世帯	28	92.9	7.1	0.0

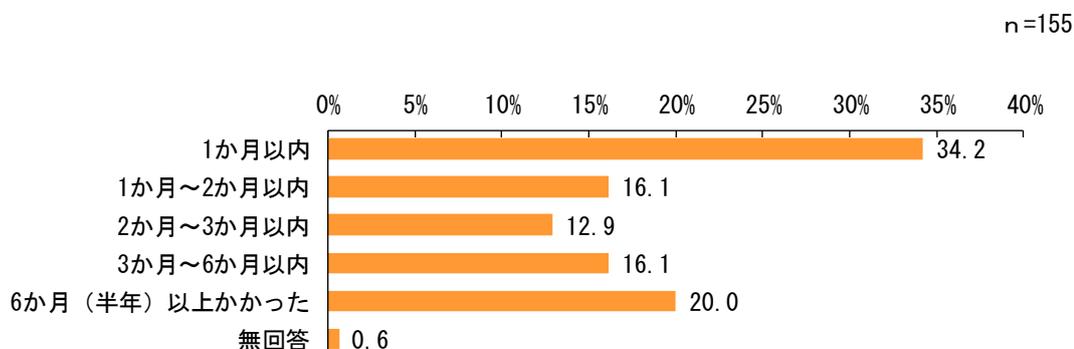


	回答数 (人)	働き 始めた	転職した	退職した	変わって いない	無回答
全体	348	25.0	19.5	4.0	43.7	7.8
母子世帯	292	28.8	21.2	3.1	42.5	4.5
父子世帯	28	3.6	17.9	7.1	67.9	3.6

問 12-1 就職・転職活動を始めてから仕事が決まるまでどのくらいかかりましたか

【単数回答】

「1か月以内」が34.2%と最も多く、次いで「6か月（半年）以上かかった」が20.0%、「1か月～2か月以内」が16.1%、「3か月～6か月以内」が16.1%、「2か月～3か月以内」が12.9%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 仕事が決まるまでどのくらいかかりましたか

母子世帯では「1か月以内」が34.2%と最も多くなっていますが、父子世帯では「1か月以内」と同じ割合で「6か月（半年）以上かかった」と回答しています。

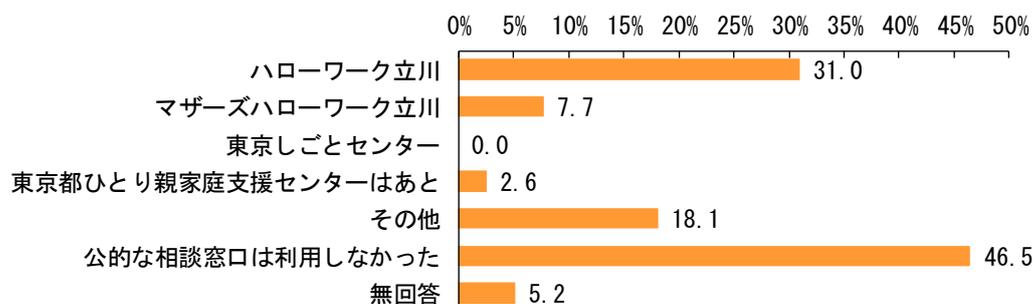
	回答数 (人)	1か月以内	1か月～ 2か月以内	2か月～ 3か月以内	3か月～ 6か月以内	6か月（半 年）以上 かかった	無回答
全体	155	34.2	16.1	12.9	16.1	20.0	0.6
母子世帯	146	34.2	16.4	13.0	15.8	19.9	0.7
父子世帯	6	33.3	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位1位（無回答除く）。

問 12-2 就職・転職で利用した公的な相談窓口はどちらですか【複数回答】

「公的な相談窓口は利用しなかった」が46.5%と最も多く、次いで「ハローワーク立川」が31.0%、「その他」が18.1%、「マザーズハローワーク立川」が7.7%、「東京都ひとり親家庭支援センターはあと」が2.6%となっています。

n=155



【世帯（母子・父子）別】 就職・転職で利用した公的な相談窓口

母子・父子世帯とも、利用した公的窓口では「ハローワーク立川」が多くなっていますが、母子世帯では「公的な窓口を利用しなかった」の割合が「ハローワーク立川」利用の割合よりも高くなっています。

	回答数 (人)	ハロー ワーク立川	マザーズ ハローワーク 立川	東京しごと センター	東京都ひとり親家 庭支援センターは あと	その他	公的な 相談窓口は 利用しなかった	無回答
全体	155	31.0	7.7	0.0	2.6	18.1	46.5	5.2
母子世帯	146	30.8	8.2	0.0	2.7	19.2	46.6	4.1
父子世帯	6	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位2位（無回答除く）。

【就職・転職で利用した公的な相談窓口別】 仕事が決まるまでかかった期間

問 12-2 で「公的な窓口は利用しなかった」かたの仕事が決まるまでの時間は、「ハローワーク立川」「マザーズハローワーク立川」を利用したかたよりも短く、「1 か月以内」の割合が最も高くなっています。

公的な窓口を利用すると、就職活動の期間が短縮されるというわけではありませんが、利用しなかったかたの中には、「6 か月以上かかった」が 12.5%、「3 か月～6 か月以内」が 12.5%みられます。公的な窓口の利用を周知することで、利用しなければ知り得ない就職先の斡旋や、仕事が決まるまでの期間を短縮できる可能性があります。

上段：回答者数 下段：%	合計	1か月以内	1か月～2 か月以内	2か月～3 か月以内	3か月～6 か月以内	6か月（半 年）以上 かかった	無回答
全体	155	53	25	20	25	31	1
	100.0	34.2	16.1	12.9	16.1	20.0	0.6
ハローワーク立川	48	7	7	8	12	13	1
	100.0	14.6	14.6	16.7	25.0	27.1	2.1
マザーズ ハローワーク立川	12	1	2	1	3	5	0
	100.0	8.3	16.7	8.3	25.0	41.7	0.0
東京しごとセンター	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東京都ひとり親家庭支 援センターはあと	4	0	1	1	2	0	0
	100.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
その他	28	12	5	2	4	5	0
	100.0	42.9	17.9	7.1	14.3	17.9	0.0
公的な相談窓口は 利用しなかった	72	35	12	7	9	9	0
	100.0	48.6	16.7	9.7	12.5	12.5	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位 2 位（無回答除く）。

【就職・転職で利用した公的な相談窓口別】 困りごとや悩みごとの相談先

問 12-2 で「公的相談窓口は利用しなかった」かたの相談先は、「ハローワーク立川」「マザーズハローワーク立川」を利用したかたよりも、「自分の友人・知人」の割合が高くなっています。また、公的相談窓口を利用しなかったかたの「相談しない」の割合は12.5%となっており、公的窓口を利用されていないかたが、他者への相談そのものを行っていないこともうかがえます。

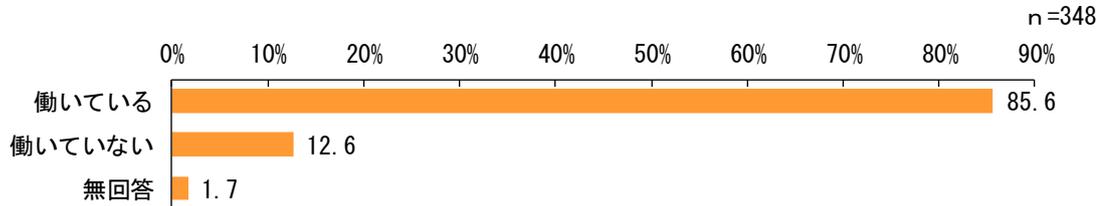
悩みごと、相談ごと全般で公的な窓口の利用を周知することは、就職支援だけでなく、保護者の孤立を防ぐことにもつながる可能性があります。

上段：回答者数 下段：%	合計	自分の親族	自分の兄弟姉妹	自分の友人・知人	ママ友・パパ友	職場の同僚・上司	元配偶者（子どもの親）	学校	かかりつけ医	保育園・幼稚園・学童クラブ	市役所の相談窓口	SNS（LINEなどの知り合い）	相談しない	無回答
全体	348 100.0	185 53.2	68 19.5	151 43.4	88 25.3	68 19.5	9 2.6	38 10.9	28 8.0	15 4.3	10 2.9	5 1.4	39 11.2	7 2.0
ハローワーク立川	48 100.0	26 54.2	8 16.7	18 37.5	13 27.1	8 16.7	2 4.2	4 8.3	6 12.5	2 4.2	2 4.2	2 4.2	3 6.3	0 0.0
マザーズハローワーク立川	12 100.0	7 58.3	2 16.7	4 33.3	4 33.3	3 25.0	0 0.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	3 25.0	0 0.0
東京しごとセンター	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
東京都ひとり親家庭支援センターはあと	4 100.0	3 75.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	28 100.0	16 57.1	4 14.3	9 32.1	8 28.6	7 25.0	1 3.6	10 35.7	3 10.7	2 7.1	1 3.6	0 0.0	3 10.7	1 3.6
公的な相談窓口は利用しなかった	72 100.0	38 52.8	15 20.8	36 50.0	17 23.6	18 25.0	2 2.8	5 6.9	5 6.9	2 2.8	2 2.8	0 0.0	9 12.5	0 0.0

(2) 現在の仕事の状況

問 13 現在の仕事の状況を教えてください【単数回答】

「働いている」が85.6%、「働いていない」が12.6%となっています。



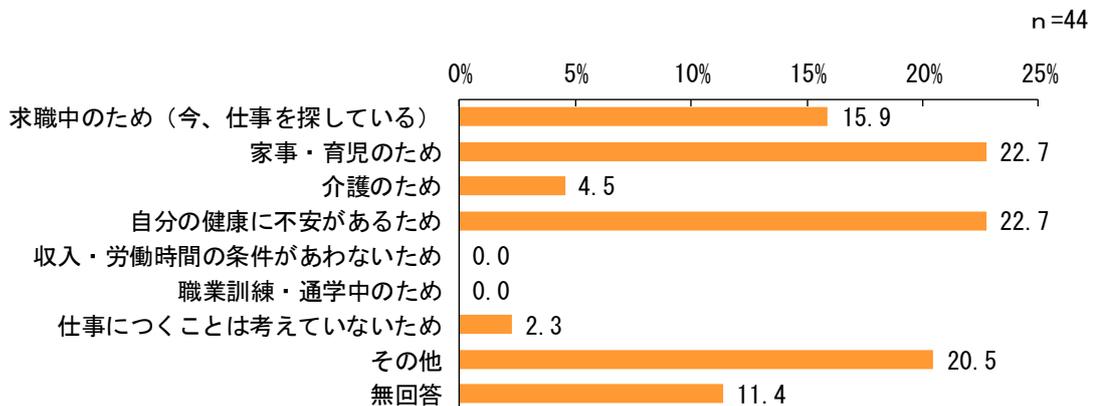
【世帯（母子・父子）別】 現在の仕事の状況

いずれも「働いている」が85%を超えており、母子世帯・父子世帯による大きな違いはみられません。

	回答数 (人)	働いている	働いて いない	無回答
全体	348	85.6	12.6	1.7
母子世帯	292	86.6	11.6	1.7
父子世帯	28	89.3	10.7	0.0

問 14 働いていない理由は何ですか【単数回答】

「家事・育児のため」が22.7%と最も多く、次いで「自分の健康に不安があるため」が22.7%、「その他」が20.5%、「求職中のため（今、仕事を探している）」が15.9%、「介護のため」が4.5%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 働いていない理由

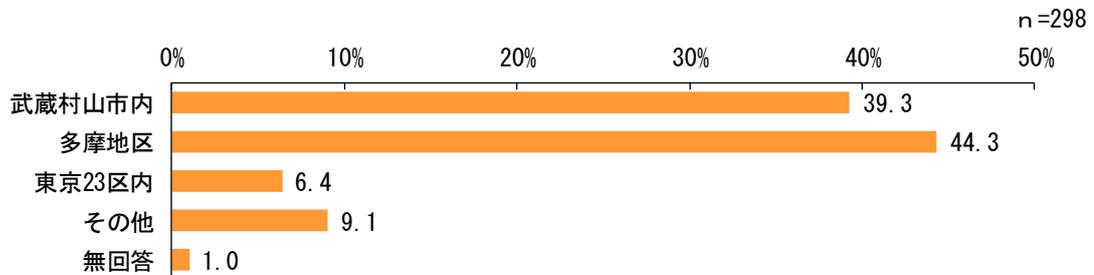
「働いていない」父子世帯は44人中3人であり、「自分の健康に不安があるため」の回答の割合（66.7%、2人）が高くなっています。

母子世帯では「求職中のため」「家事・育児のため」「自分の健康に不安があるため」がいずれも20.6%と高くなっており、就労支援や子育て支援、健康対策の必要性が高いと考えられます。

	回答数 (人)	求職中のため (今、仕事を探している)	家事・育児 のため	介護のため	自分の健康に不安 があるため	収入・労働時間 の条件があわな いため	職業訓練・ 通学中のため	仕事に つくことは 考えて いないため	その他	無回答
全体	44	15.9	22.7	4.5	22.7	0.0	0.0	2.3	20.5	11.4
母子世帯	34	20.6	20.6	5.9	20.6	0.0	0.0	0.0	20.6	11.8
父子世帯	3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

問15 働いている場所はどちらですか【単数回答】

「多摩地区」が44.3%と最も多く、次いで「武蔵村山市内」が39.3%、「その他」が9.1%、「東京23区内」が6.4%となっています。



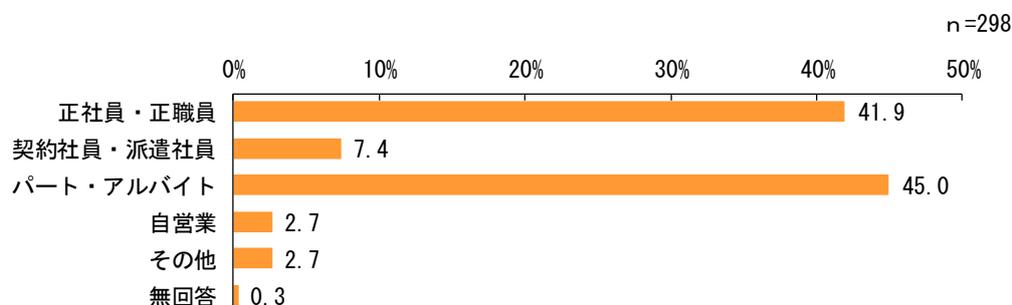
【世帯（母子・父子）別】 働いている場所

いずれも「多摩地区」が最も多くなっていますが、「武蔵村山市内」は母子世帯で多く、「東京23区内」は父子世帯で多くなっています。母親の方が近隣で就労する傾向があることがわかります。

	回答数 (人)	武蔵村山市内	多摩地区	東京23区内	その他	無回答
全体	298	39.3	44.3	6.4	9.1	1.0
母子世帯	253	41.5	43.9	4.3	9.1	1.2
父子世帯	25	20.0	52.0	16.0	12.0	0.0

問 15-1 どのような形で働いていますか【単数回答】

「パート・アルバイト」が45.0%と最も多く、次いで「正社員・正職員」が41.9%、「契約社員・派遣社員」が7.4%、「自営業」が2.7%、「その他」が2.7%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 就労の形態

母子世帯では「パート・アルバイト」が多く、父子世帯では「正社員・正職員」が多くなっています。

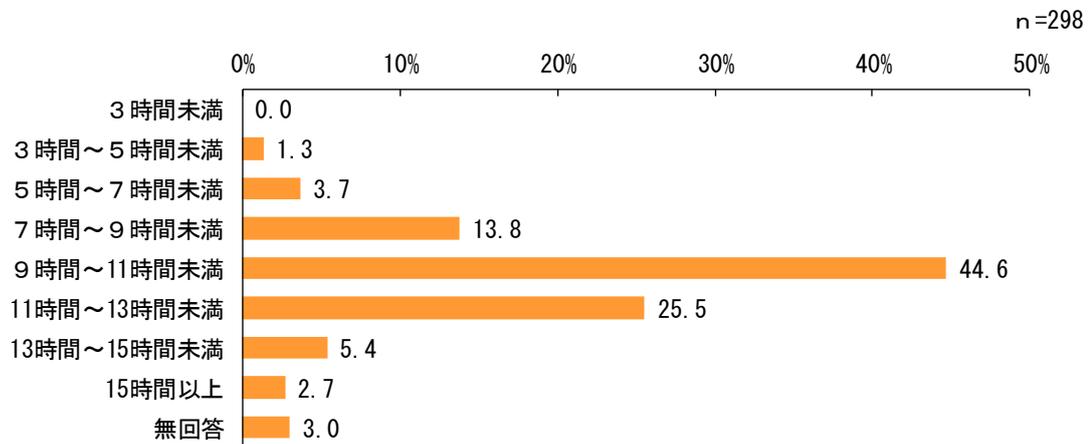
パート・アルバイトよりも一般的に収入が多いと考えられる「正社員・正職員」への転換を望む場合、就労相談の窓口や支援機関の利用が重要になると考えられます。

	回答数 (人)	正社員・ 正職員	契約社員・ 派遣社員	パート・ アルバイト	自営業	その他	無回答
全体	298	41.9	7.4	45.0	2.7	2.7	0.3
母子世帯	253	37.2	7.9	49.8	2.0	2.8	0.4
父子世帯	25	84.0	0.0	8.0	4.0	4.0	0.0

※網掛けのセルは横軸の上位1位（無回答除く）。

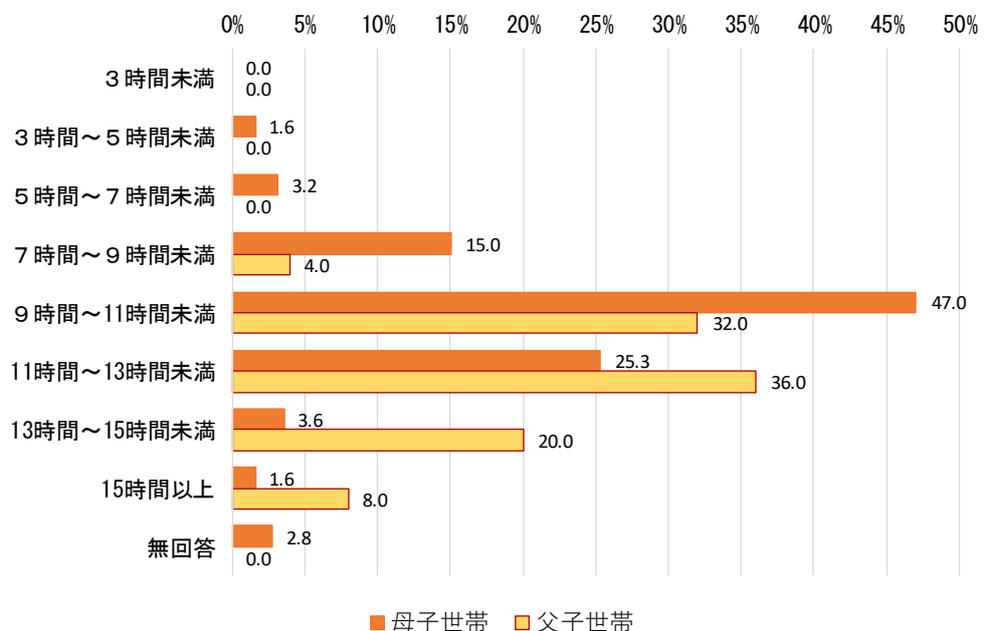
問 15-2 家にいない時間【単数回答】

家を出る時刻と家に帰ってくる時刻から、『家にいない時間』を算出したところ、「9時間～11時間未満」が44.6%と最も多く、次いで「11時間～13時間未満」が25.5%、「7時間～9時間未満」が13.8%、「13時間～15時間未満」が5.4%、「5時間～7時間未満」が3.7%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 家にいない時間

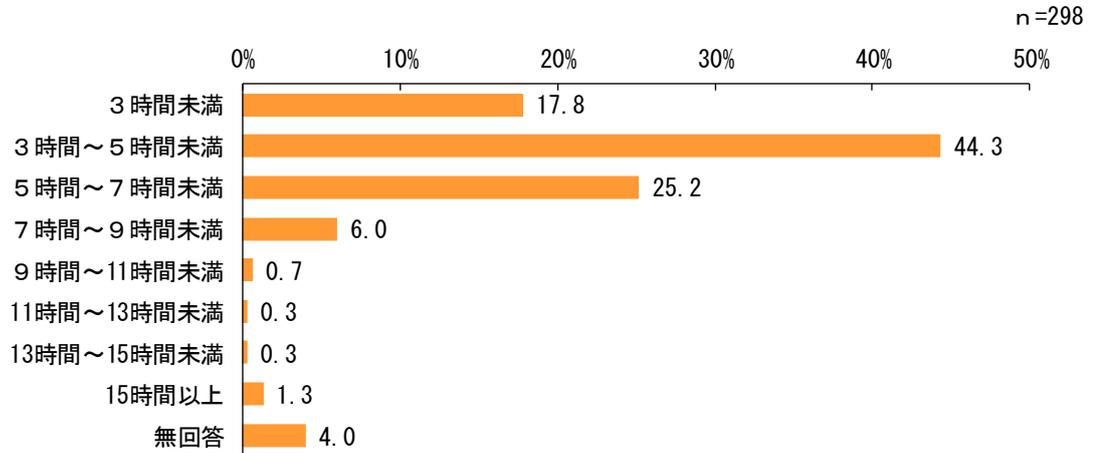
「9時間～11時間未満」までは母子世帯のかたが多く、11時間以上になると父子世帯のかたが多くなっています。父子世帯のかたが、保護者が家をあける時間が長いことがわかります。



母子世帯 n=253 / 父子世帯 n=25

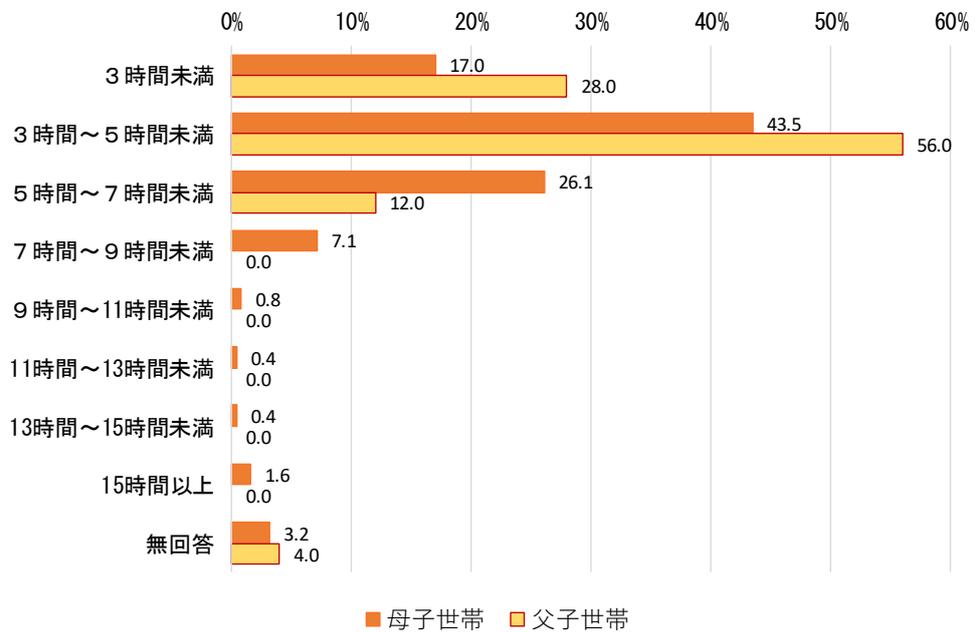
問 15-2 子どもと一緒に過ごす時間【単数回答】

「3時間～5時間未満」が44.3%と最も多く、次いで「5時間～7時間未満」が25.2%、「3時間未満」が17.8%、「7時間～9時間未満」が6.0%、「15時間以上」が1.3%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 子どもと一緒に過ごす時間

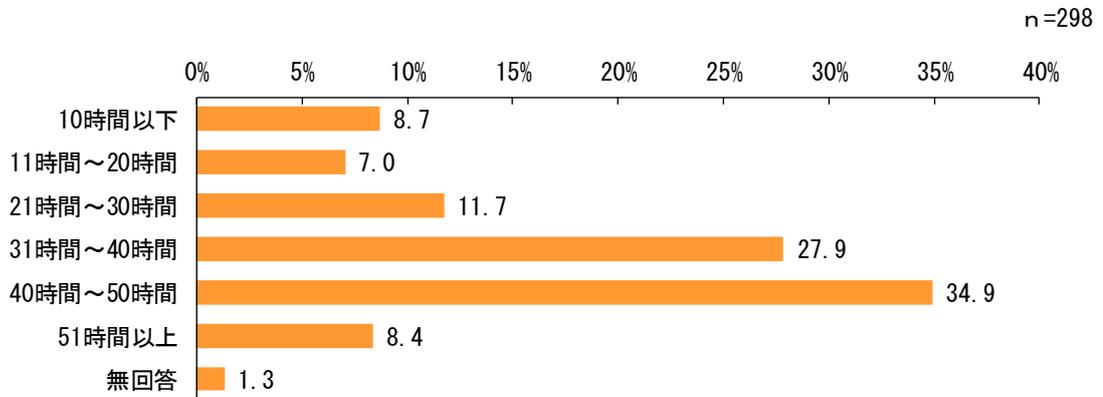
5時間以上になると母子世帯のかたが多くなっており、総じて母子世帯のかたが、子どもと一緒に過ごす時間が長い傾向となっています。「3時間～5時間未満」よりも短い時間では父子世帯のかたが多くなっています。



母子世帯 n=253 / 父子世帯 n=25

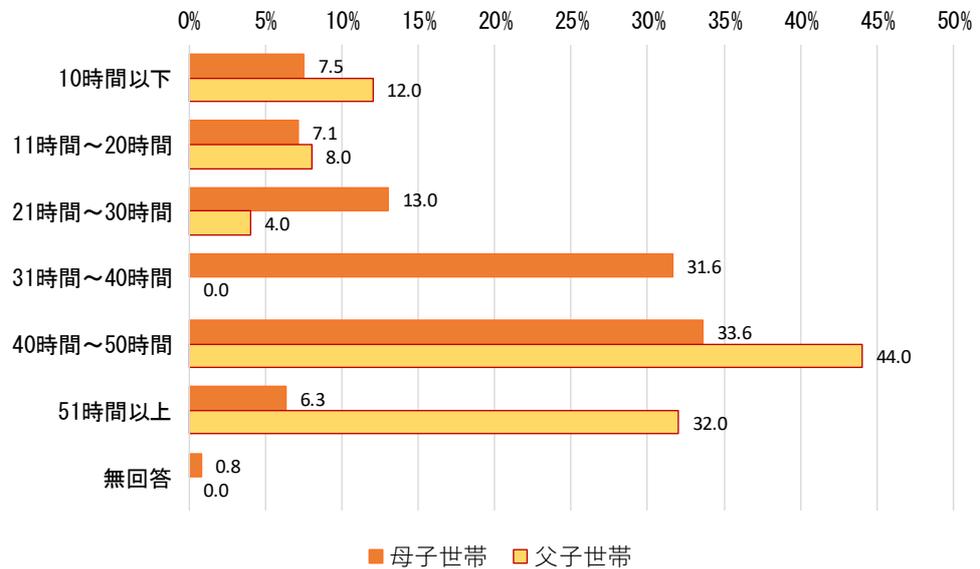
問 15-3 今の仕事の、一週間あたりの平均就業時間を教えてください【単数回答】

「40 時間～50 時間」が 34.9%と最も多く、次いで「31 時間～40 時間」が 27.9%、「21 時間～30 時間」が 11.7%、「10 時間以下」が 8.7%、「51 時間以上」が 8.4%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 週あたりの平均就業時間

母子世帯のかたは、父子世帯のかたよりも、総じて平均就業時間が少なくなっています。全体で最も多い「40 時間～50 時間」やそれ以上では父子世帯のかたが多くなっており、父子世帯のかたが週あたりの平均就業時間が長いことがわかります。

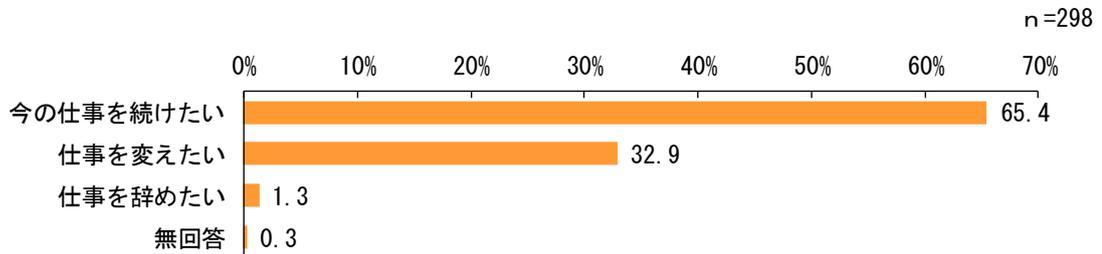


母子世帯 n=253 / 父子世帯 n=25

(3) 仕事についての今後の意向

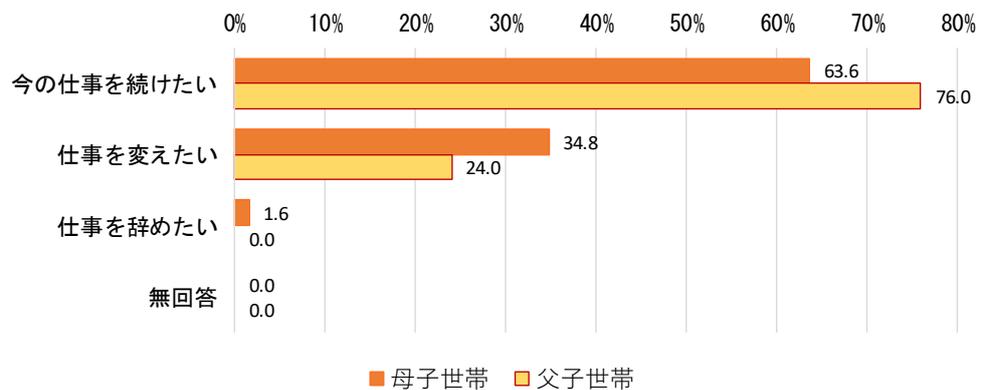
問 15-4 今の仕事から転職する希望がありますか【単数回答】

「今の仕事を続けたい」が65.4%と最も多く、次いで「仕事を変えたい」が32.9%、「仕事を辞めたい」が1.3%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 転職の希望

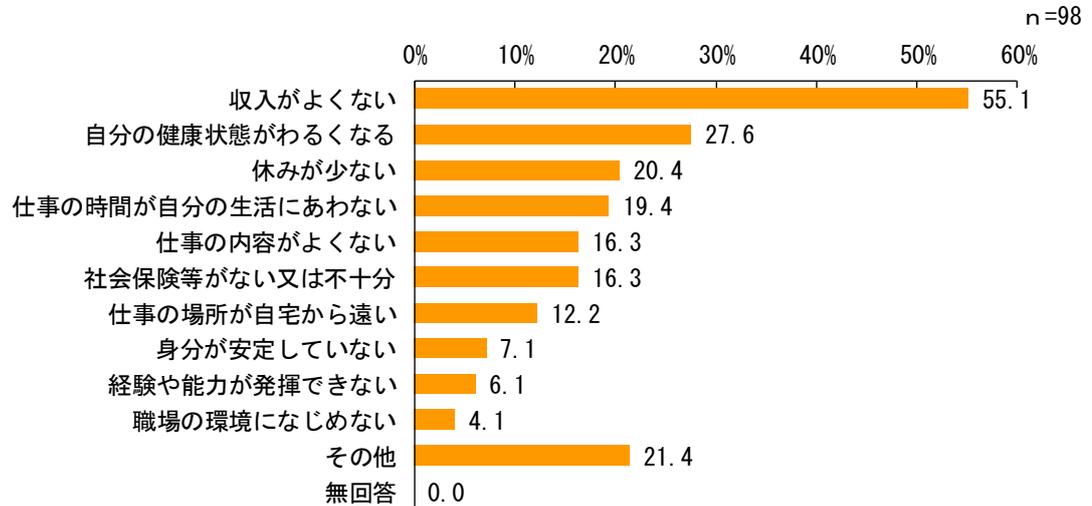
母子世帯では「仕事を変えたい」意向が多く、父子世帯では「今の仕事を続けたい」意向が多くなっていることがわかります。



母子世帯 n=253 / 父子世帯 n=25

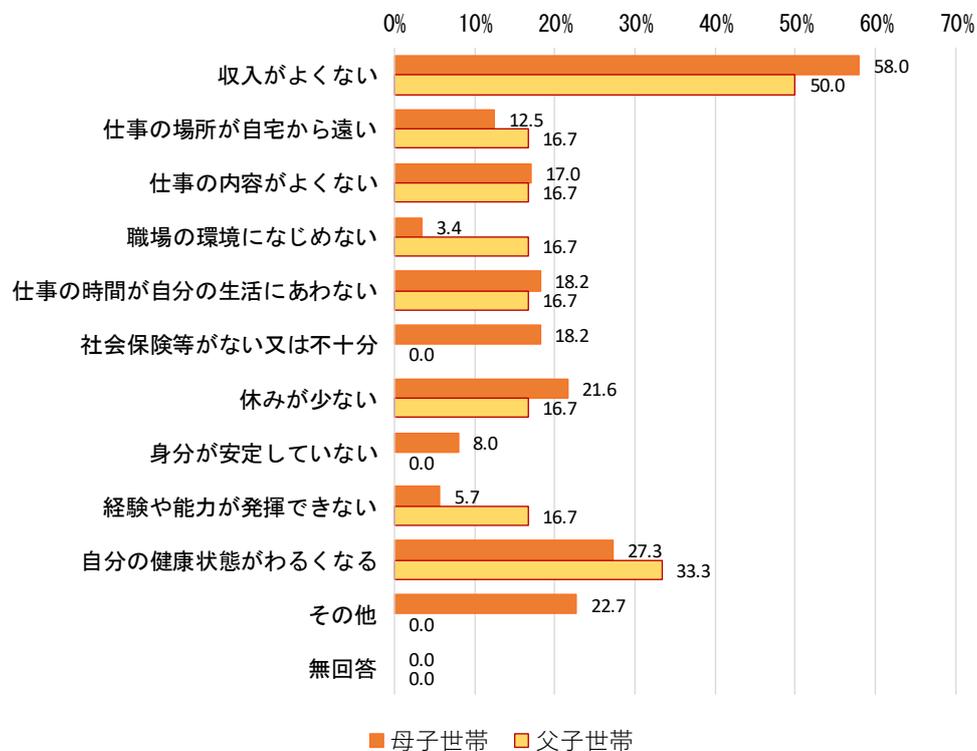
問 15-5 仕事を变えたい理由は何ですか【複数回答】

「収入がよくない」が 55.1%と最も多く、次いで「自分の健康状態がわるくなる」が 27.6%、「その他」が 21.4%、「休みが少ない」が 20.4%、「仕事の時間が自分の生活にあわない」が 19.4%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 仕事を变えたい理由

母子世帯では「収入」「仕事の時間と生活の時間」「社会保障」「休み」などの理由が父子世帯よりも多く、父子世帯では「仕事の場所」「職場の環境になじめない」「経験や能力を発揮できない」「自分の健康状態」の理由が母子世帯より多くなっています。

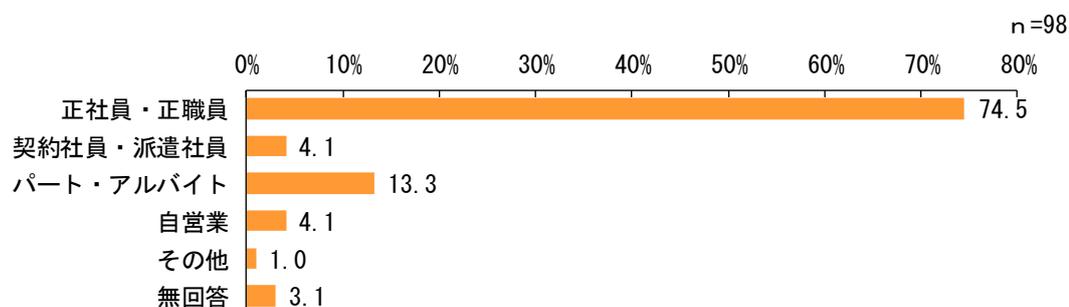


母子世帯 n=88 / 父子世帯 n=6

問 15-6 希望する仕事の形は何ですか【単数回答】

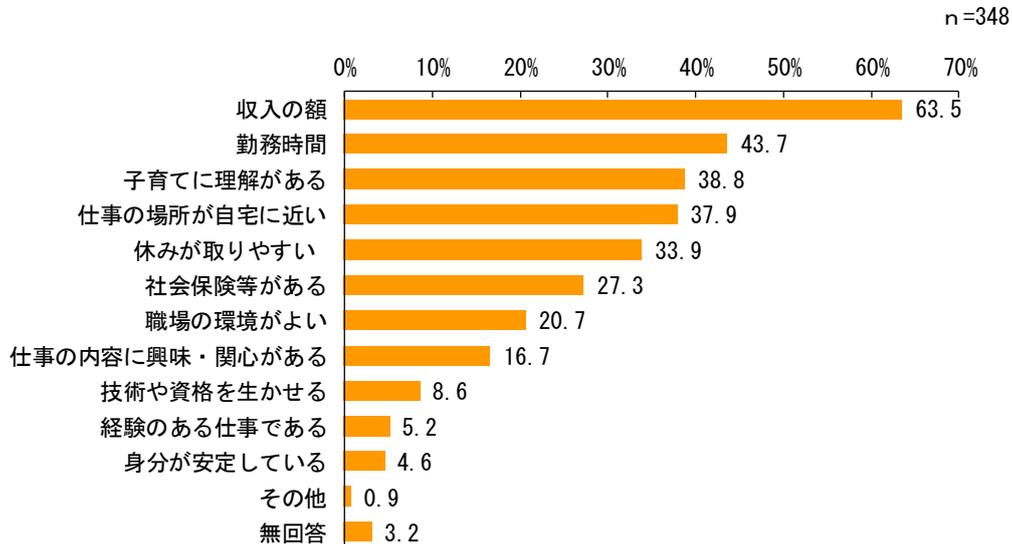
「正社員・正職員」が74.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が13.3%、「契約社員・派遣社員」が4.1%、「自営業」が4.1%、「その他」が1.0%となっています。

問 14 の母子世帯のかたの「働いていない理由」として、「求職中のため」が20.6%となっており、このような状況のかたが、就労相談の窓口や支援機関を利用することで、自身が希望する就職や転職を進める一助になると考えられます。



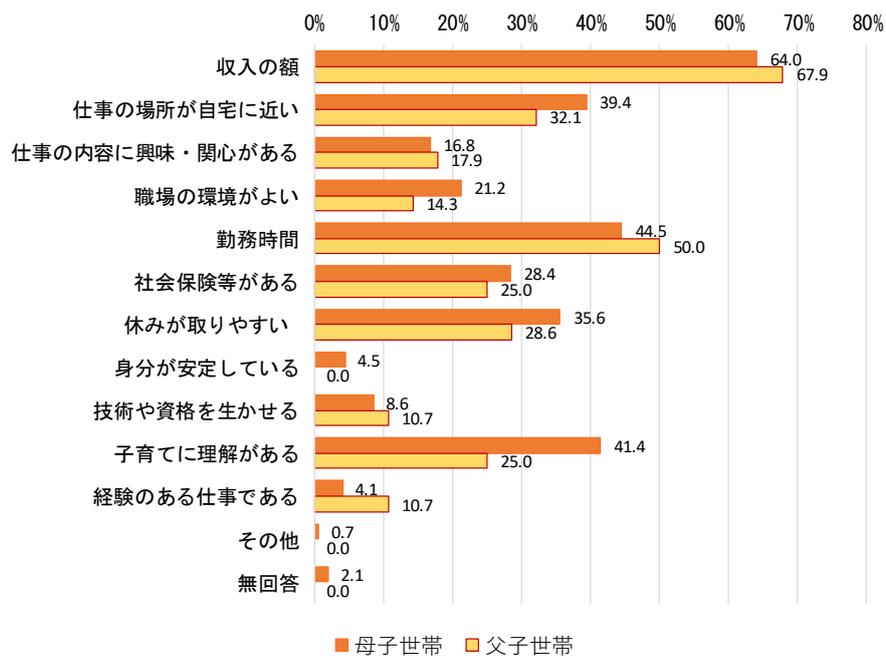
問 16 仕事を選ぶときはどんな条件が大事だと思っていますか【複数回答】

「収入の額」が63.5%と最も多く、次いで「勤務時間」が43.7%、「子育てに理解がある」が38.8%、「仕事の場所が自宅に近い」が37.9%、「休みが取りやすい」が33.9%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 仕事を選ぶときの条件

母子世帯では「仕事の場所が自宅に近い」「職場の環境がよい」「社会保険等がある」「休みが取りやすい」「身分が安定している」「子育てに理解がある」が父子世帯と比べて割合が高くなっており、父子世帯では「収入の額」「仕事の内容に興味・関心がある」「勤務時間」「技術や資格を生かせる」「経験のある仕事である」が母子世帯と比べて割合が高くなっています。



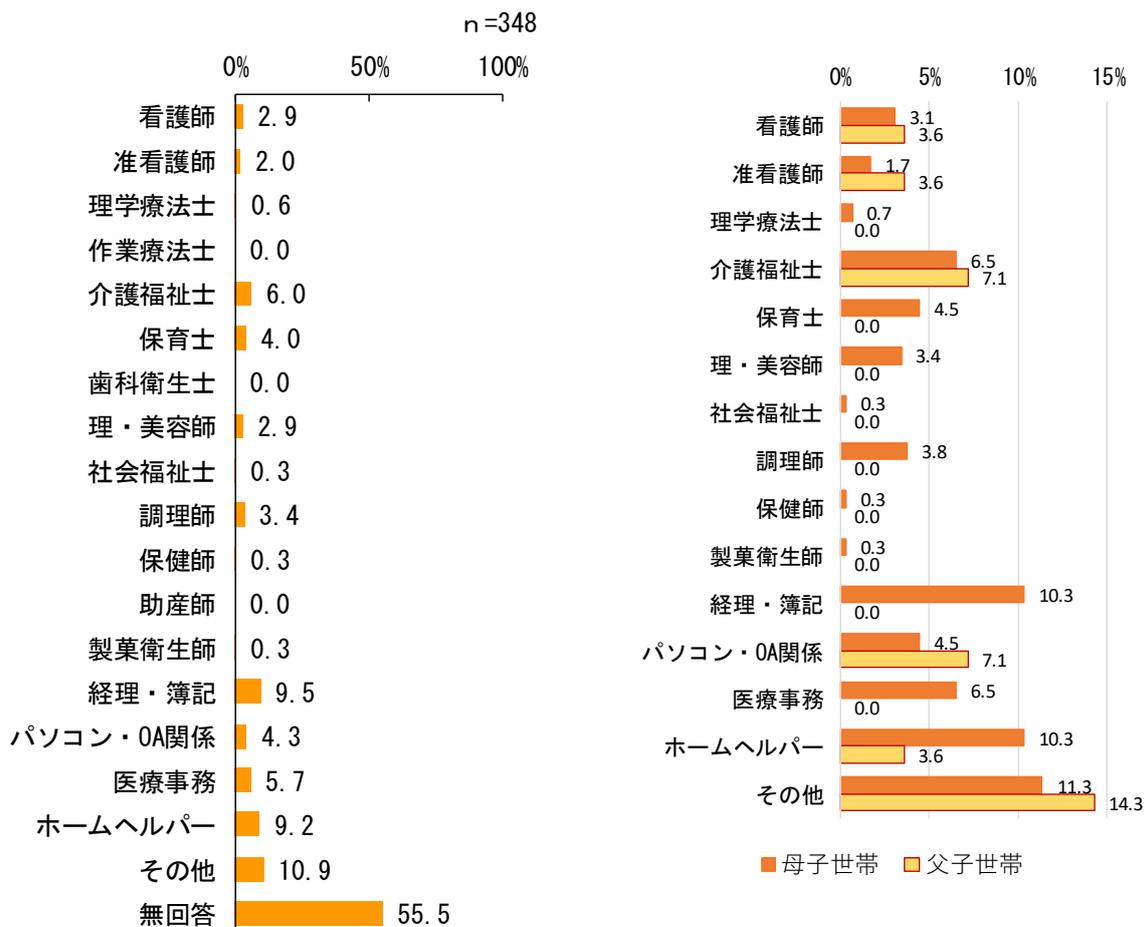
母子世帯 n=292 / 父子世帯 n=28

3. 資格の取得状況と意向

(1) 現在もっている資格

問 17 (1) あなたがもっている資格はありますか【複数回答】

もっている資格を回答する設問形式であり、「無回答」55.5%は資格をもっていないことを表します。もっている資格では、「その他」が10.9%と最も多く、次いで「経理・簿記」が9.5%、「ホームヘルパー」が9.2%、「介護福祉士」が6.0%、「医療事務」が5.7%となっています。



母子世帯 n=292 / 父子世帯 n=28

※クロス集計は全体で0.0のものを除く

● 「その他」の内容 (件数)

【女性 (母子世帯)】

小学校教員 (3) / 幼稚園教諭 (4) / AFP (2) / 宅建 (2) / 栄養士 (2) / 書道師範 / FP / 栄養士 / さいほう / ヘルパー2級 / 調剤薬局事務 / 普通自動車 / 宅建 / 労務管理者 / ケアマネージャー

【男性 (父子世帯)】

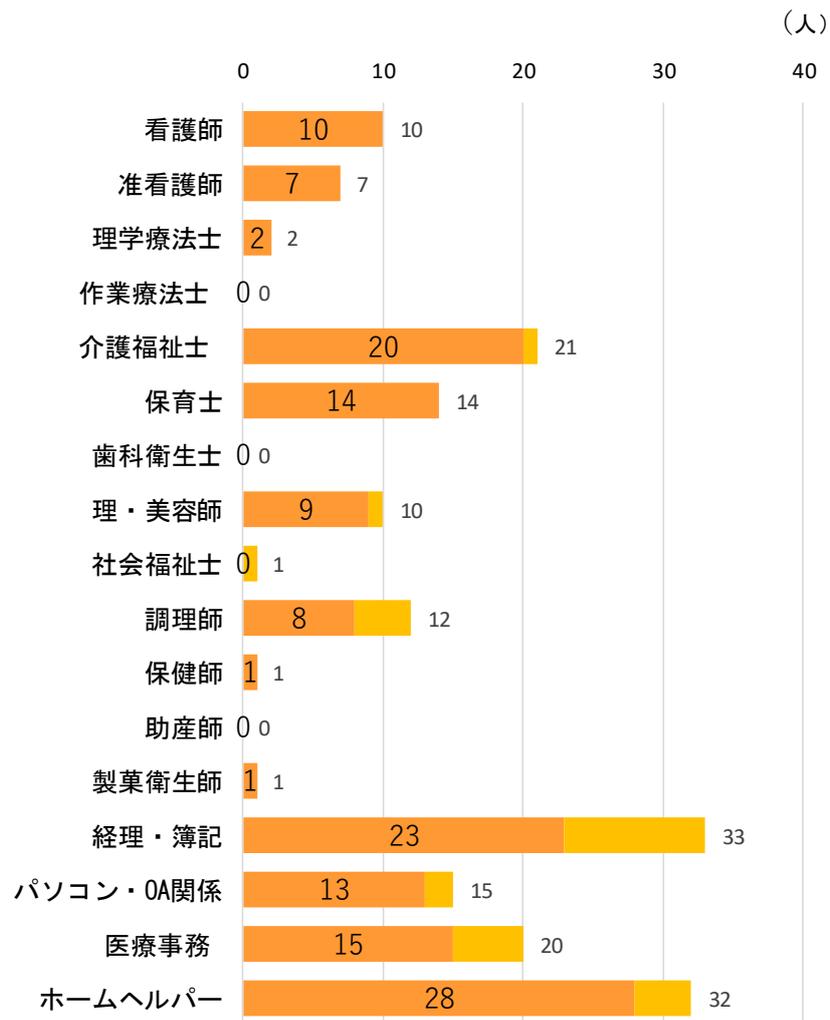
一級建築士

問 17 現在もっている資格で「役に立った」の回答数

下記の、棒先端の数字はそれぞれの資格を「もっている」と回答したかたの人数で、棒内の数字はその資格が「役に立った」と回答したかたの人数を表しています。

資格を持っているにも関わらず、役に立ったと答えていないかたが3割程度を占める資格が「調理師」「経理・簿記」となっています。

本設問のみでは、その資格が実際の職場で役立ったかどうかとの切り分けは困難ですが、求職活動に続く一連で設けられた設問のため、職を得るにあたり役立ったかどうかという観点での感触を回答したものと類推できます。

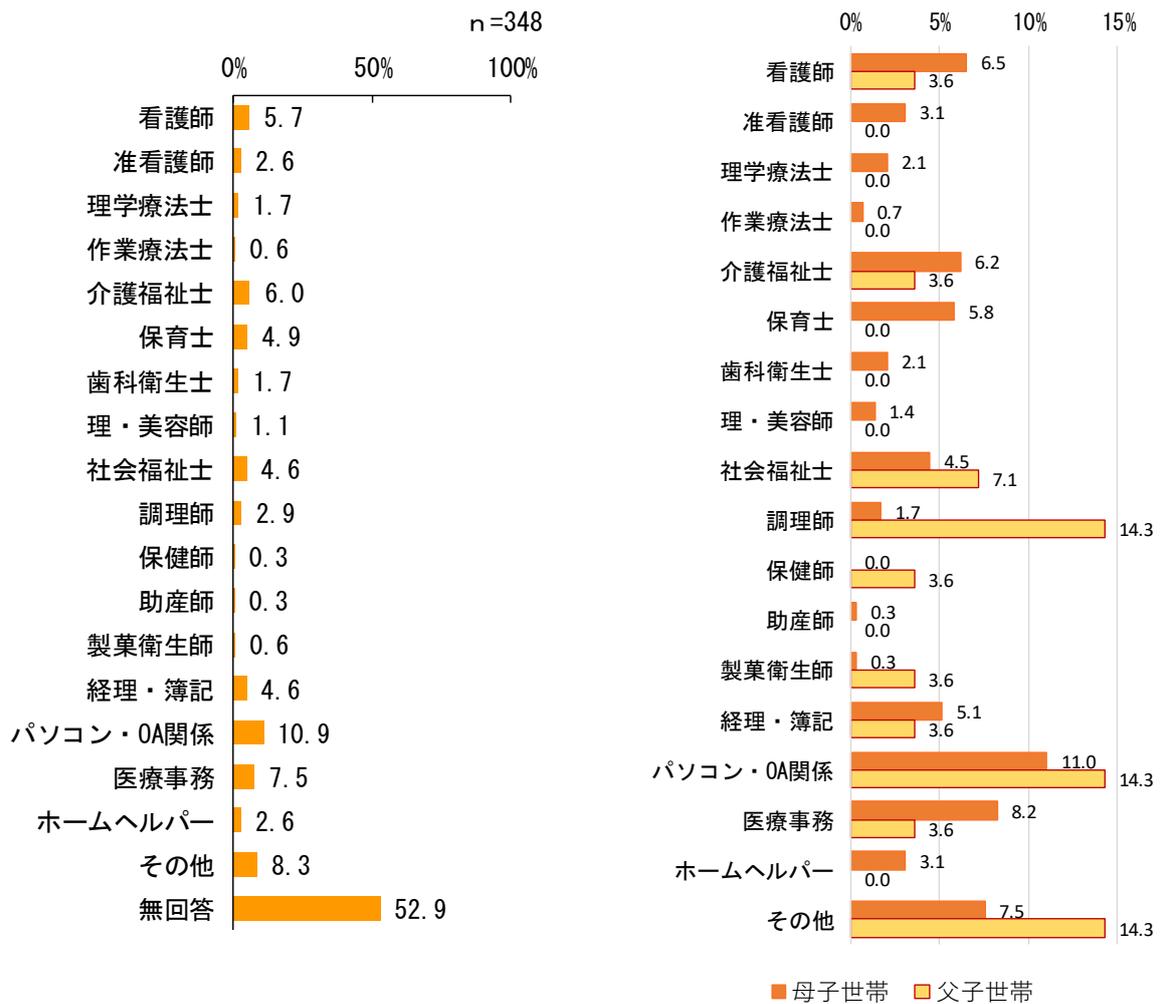


(2) 今後とりたい資格

問 17 (2) 今後、とりたい資格はありますか【複数回答】

「無回答」52.9%は取得を希望する資格がないことを表します。とりたい資格では、「パソコン・OA関係」が10.9%と最も多く、次いで「その他」が8.3%、「医療事務」が7.5%、「介護福祉士」が6.0%、「看護師」が5.7%となっています。

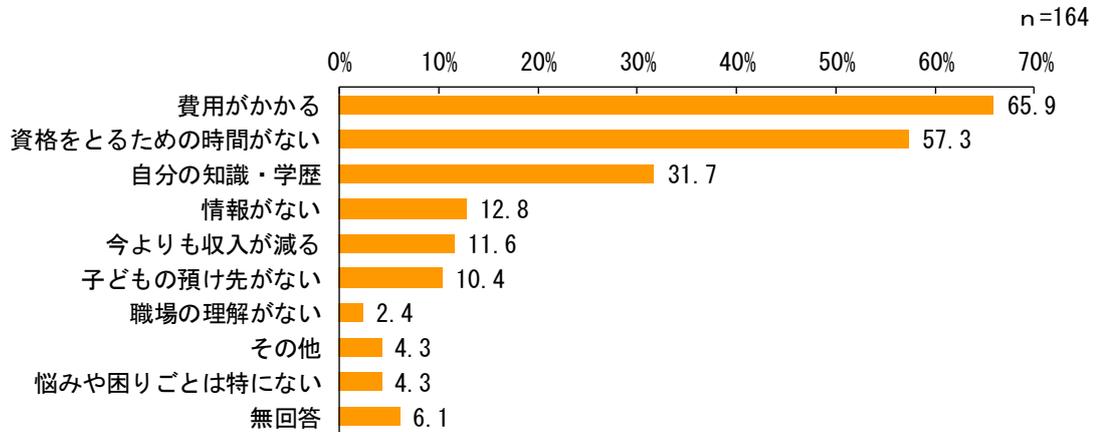
世帯別にみると、父子世帯では「社会福祉士」「調理師」「保健師」「製菓衛生士」「パソコン・OA関係」で母子世帯に比べ割合が高くなっています。



母子世帯 n=292 / 父子世帯 n=28

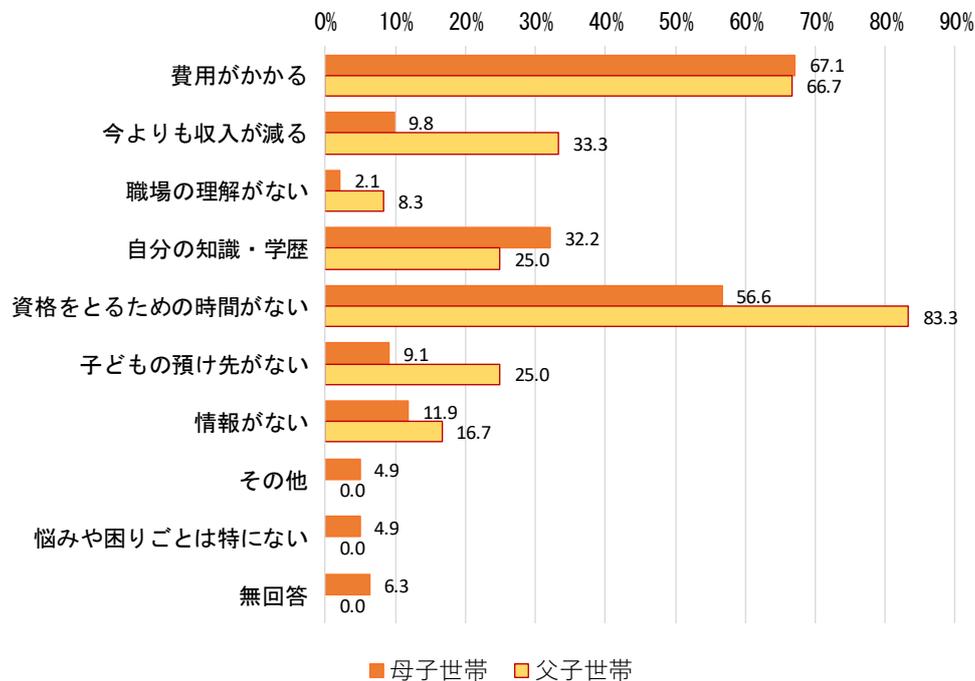
問 17-1 資格をとるにあたって、悩みや困っていることはありますか【複数回答】

「費用がかかる」が65.9%と最も多く、次いで「資格をとるための時間がない」が57.3%、「自分の知識・学歴」が31.7%、「情報がない」が12.8%、「今よりも収入が減る」が11.6%となっています。



【世帯（母子・父子）別】 資格をとるにあたっての悩みや困りごと

母子世帯では「自分の知識・学歴」の割合が、父子世帯では「今よりも収入が減る」「職場の理解がない」「資格をとるための時間がない」「子どもの預け先がない」「情報がない」の割合が高くなっています。



母子世帯 n=143 / 父子世帯 n=12

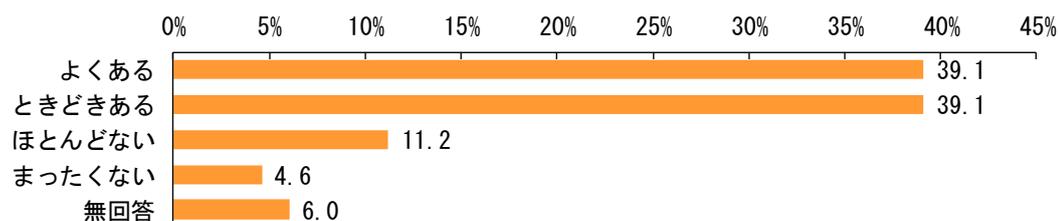
4. 仕事と生活とのバランス

(1) 子どもと過ごす時間

問 18 仕事と生活とのバランスについて/A 仕事のため、子どもと過ごす時間が少ない
【単数回答】

「よくある」が39.1%と最も多く、次いで「ときどきある」が39.1%、「ほとんどない」が11.2%、「まったくない」が4.6%となっています。

n=348

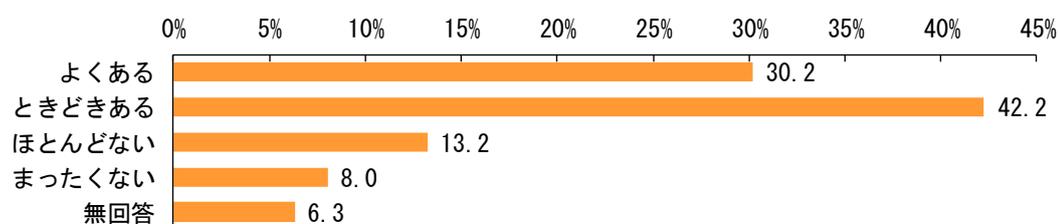


(2) 子どもとの関わり

問 18 仕事と生活とのバランスについて/B 仕事の悩みや疲れのため、子どもとの関わりが十分にもてない【単数回答】

「ときどきある」が42.2%と最も多く、次いで「よくある」が30.2%、「ほとんどない」が13.2%、「まったくない」が8.0%となっています。

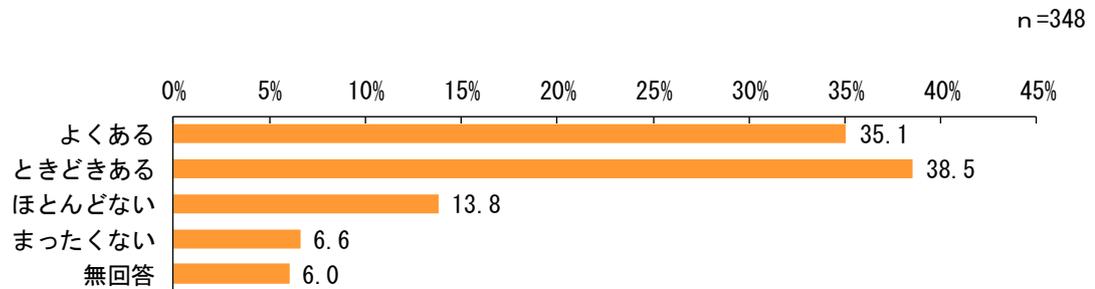
n=348



(3) 必要な家事や家の用事

問 18 仕事と生活とのバランスについて/C 仕事のため、必要な家事や家の用事が十分にできない【単数回答】

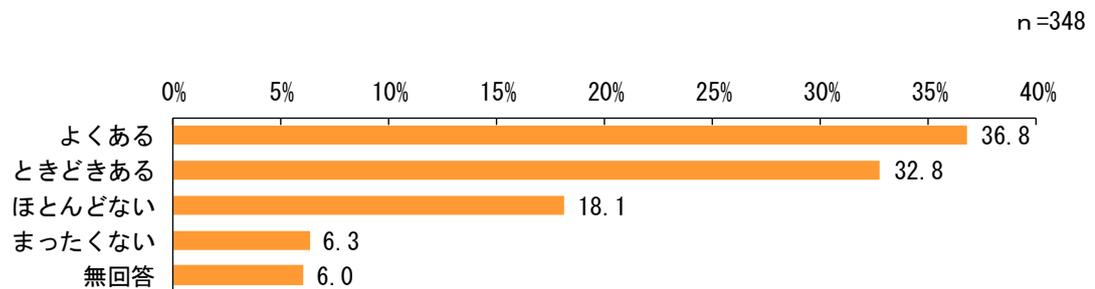
「ときどきある」が38.5%と最も多く、次いで「よくある」が35.1%、「ほとんどない」が13.8%、「まったくない」が6.6%となっています。



(4) 自分の自由な時間

問 18 仕事と生活とのバランスについて/D 仕事のため、自分の自由な時間がもてない【単数回答】

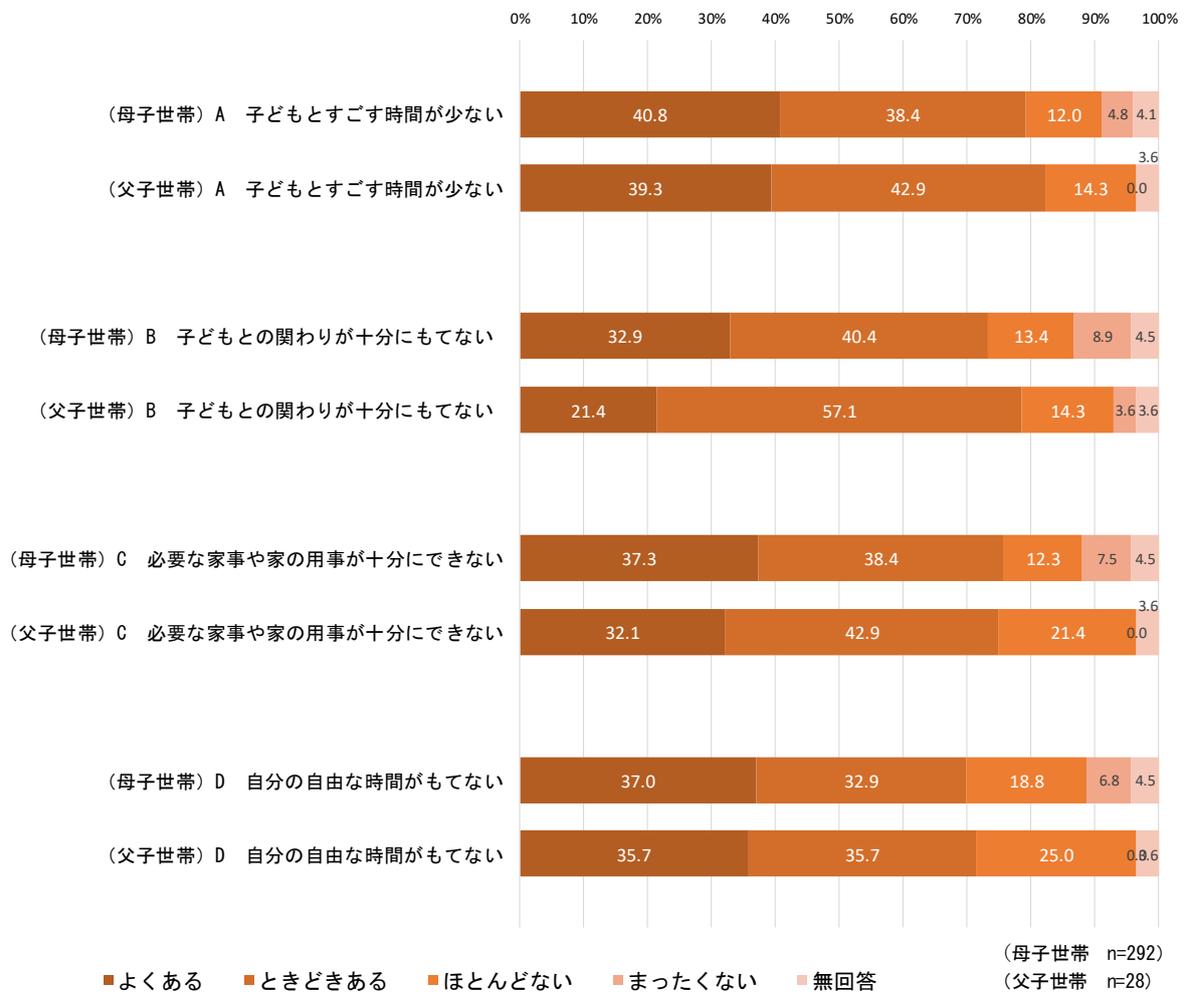
「よくある」が36.8%と最も多く、次いで「ときどきある」が32.8%、「ほとんどない」が18.1%、「まったくない」が6.3%となっています。



(5) 世帯別の、仕事と生活とのバランス

【世帯（母子・父子）別】 仕事と生活とのバランス

「よくある」と「ときどきある」を加えた『ある』の割合を世帯別にみると、「子どもと過ごす時間が少ない」「子どもとの関わりが十分にもてない」「自分の自由な時間がもてない」において、父子世帯の割合が高くなっています。



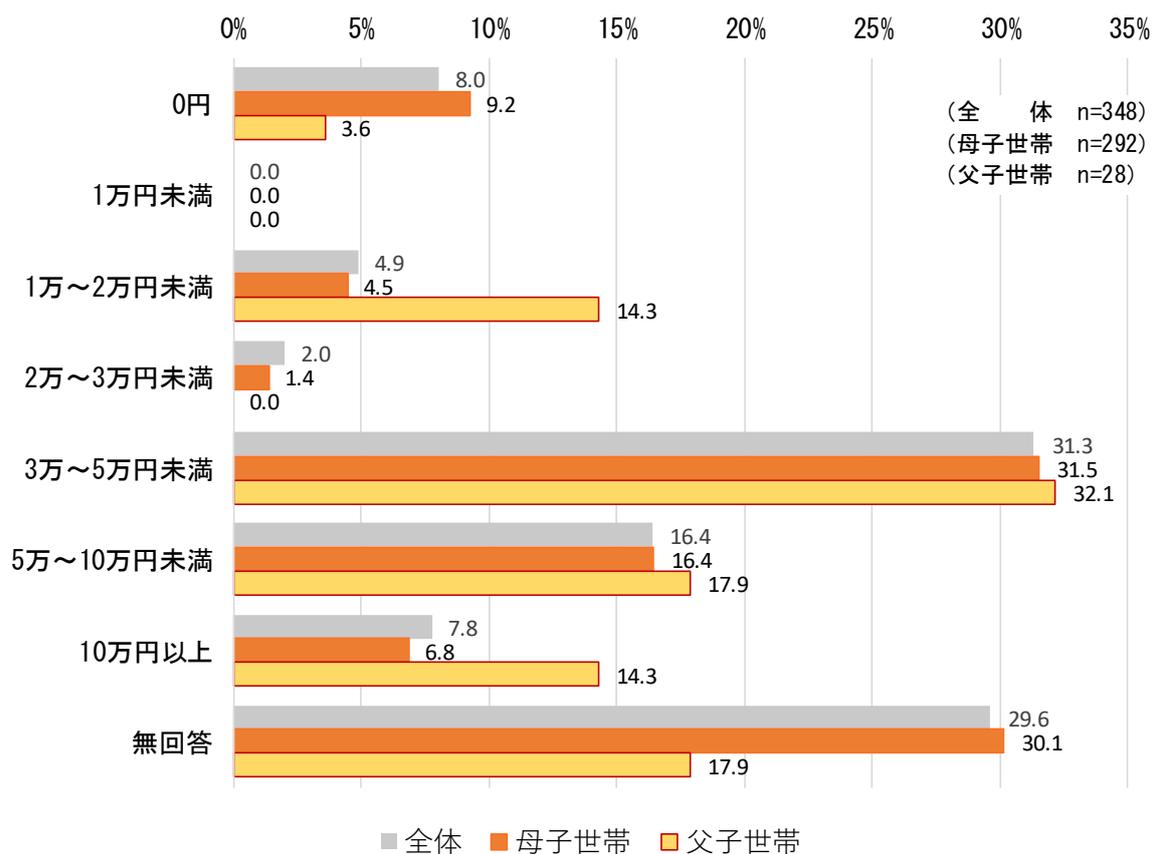
5. 収入

(1) 社会保障給付金及び公的年金

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

A 児童手当【単数回答】

「3万～5万円未満」が31.3%と最も多く、次いで「5万～10万円未満」が16.4%、「0円」が8.0%、「10万円以上」が7.8%、「1万～2万円未満」が4.9%となっています。



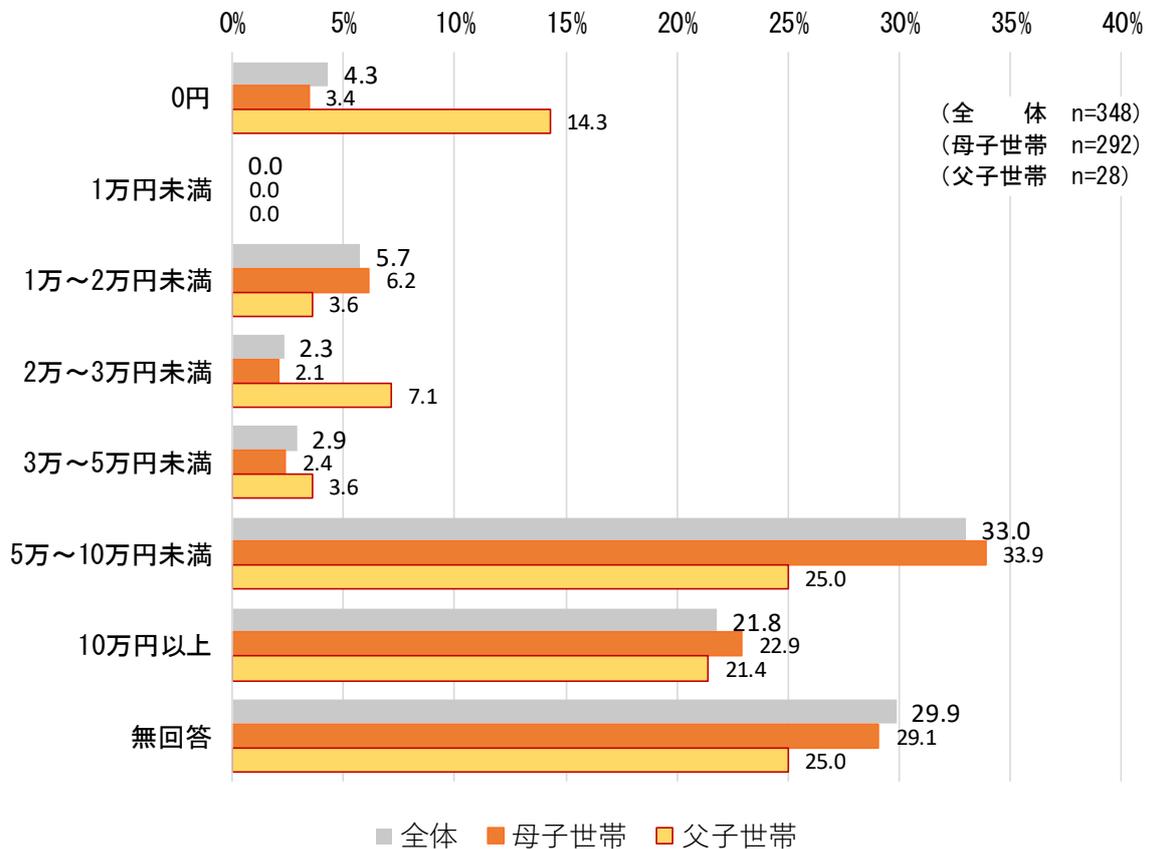
1回あたり支給額の平均／A 児童手当

平均	¥51,050
----	---------

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

B 児童育成手当【単数回答】

「5万～10万円未満」が33.0%と最も多く、次いで「10万円以上」が21.8%、「1万～2万円未満」が5.7%、「0円」が4.3%、「3万～5万円未満」が2.9%となっています。



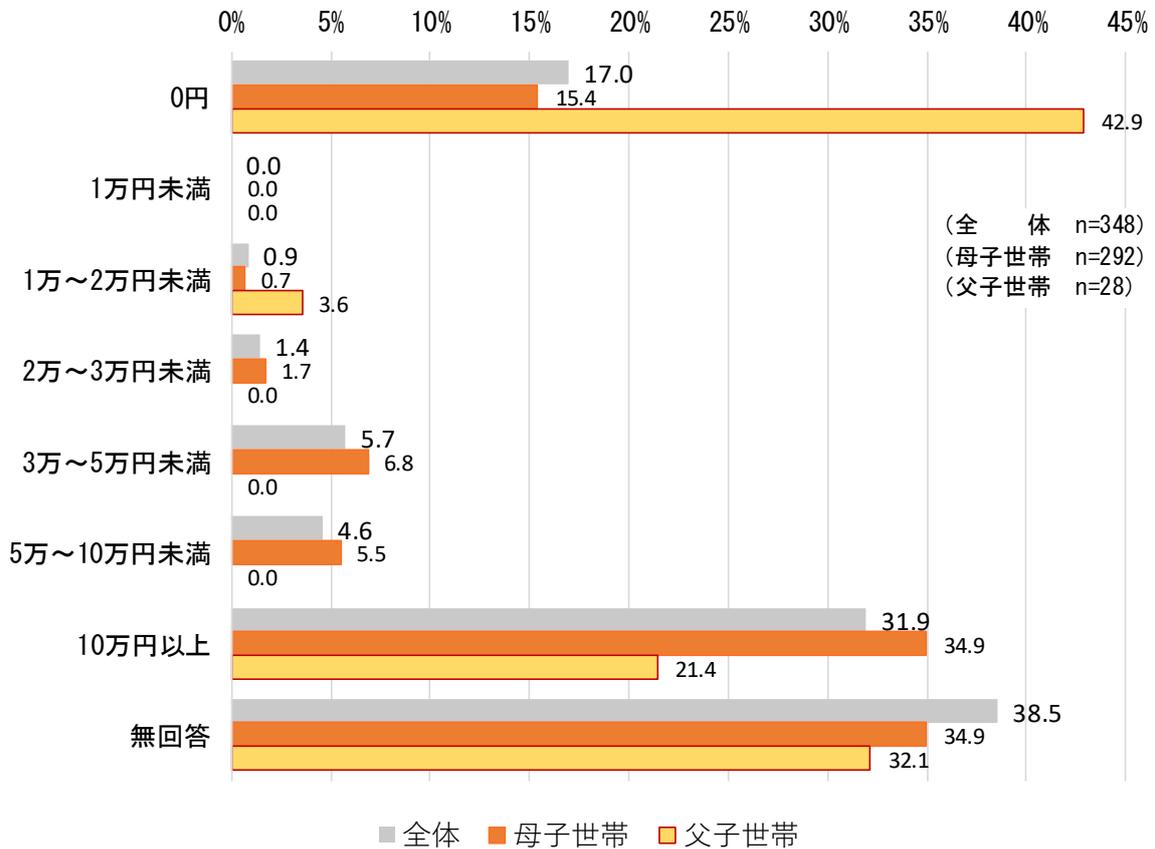
1回あたり支給額の平均／B 児童育成手当

平均	¥68,656
----	---------

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

C 児童扶養手当【単数回答】

「10万円以上」が31.9%と最も多く、次いで「0円」が17.0%、「3万～5万円未満」が5.7%、「5万～10万円未満」が4.6%、「2万～3万円未満」が1.4%となっています。



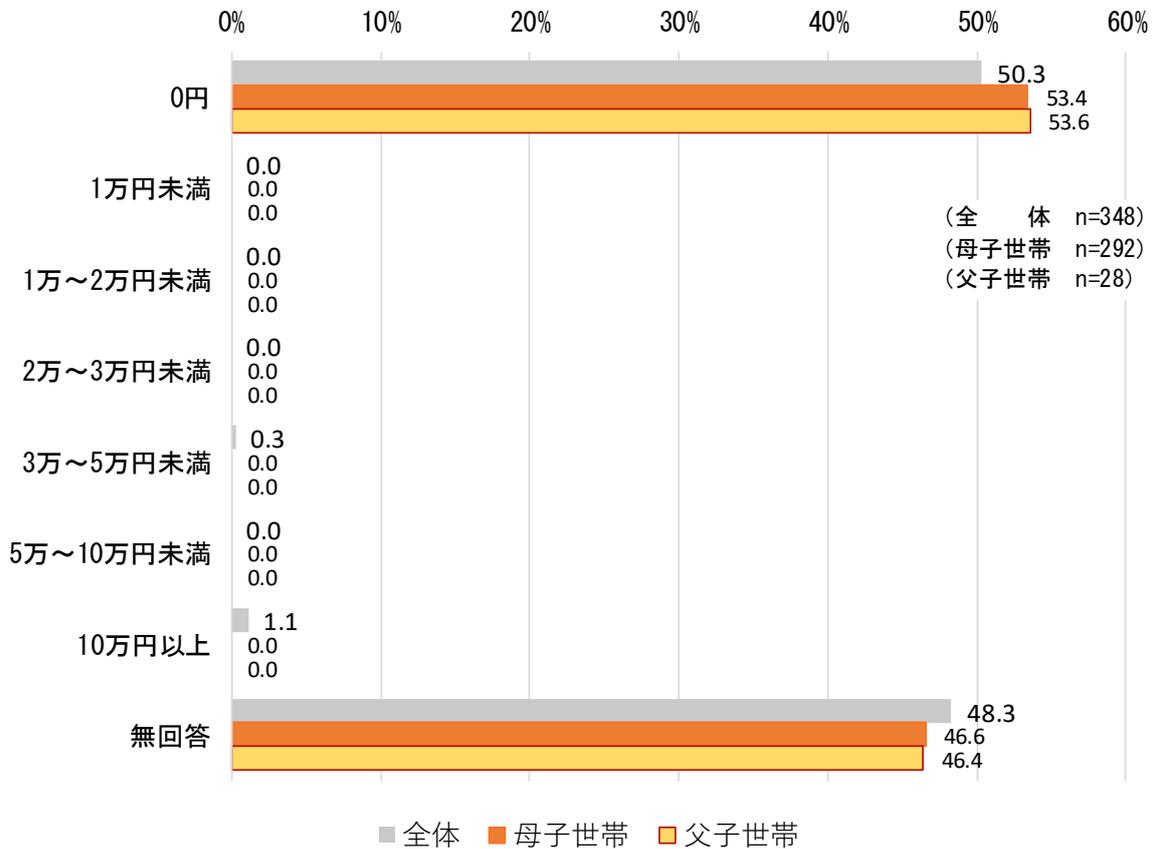
1回あたり支給額の平均／C 児童扶養手当

平均	¥99,084
----	---------

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

D 特別児童扶養手当【単数回答】

「0円」が50.3%と最も多く、次いで「10万円以上」が1.1%、「3万～5万円未満」が0.3%、「1万円未満」が0.0%、「1万～2万円未満」が0.0%となっています。



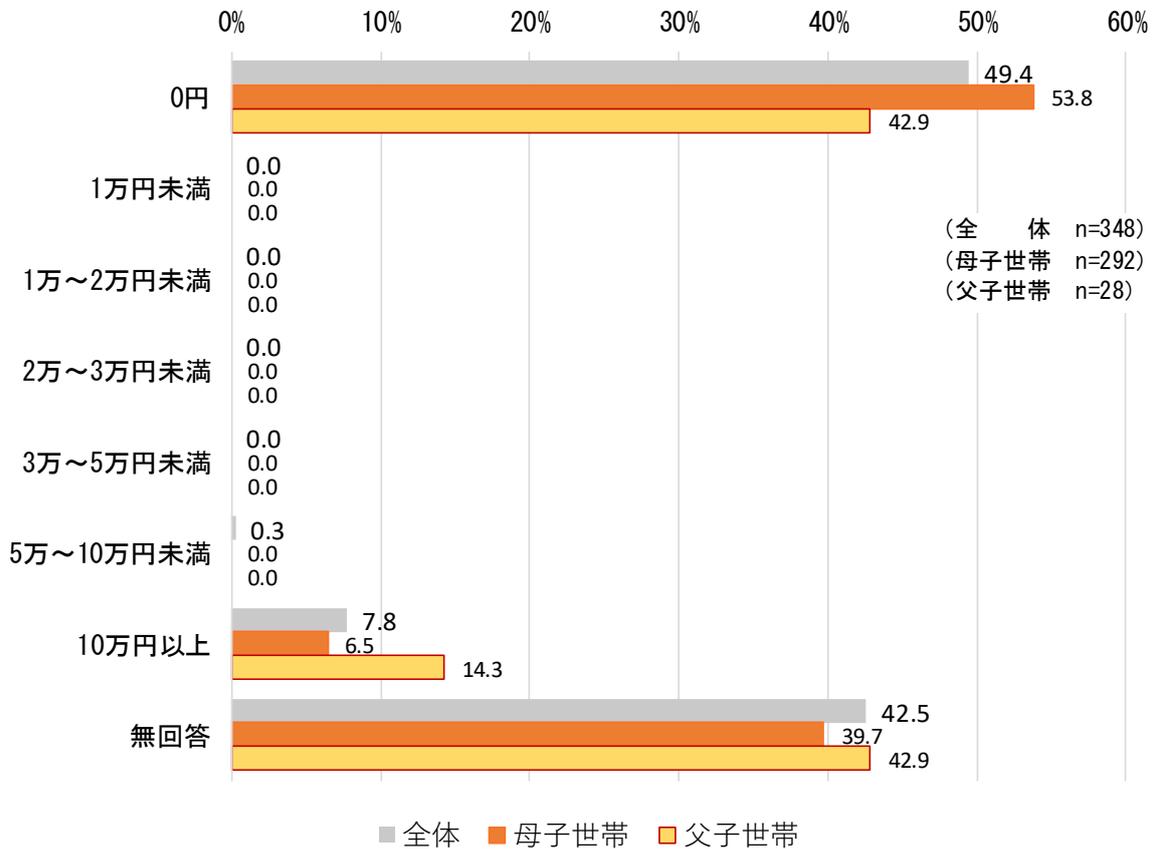
1回あたり支給額の平均／D 特別児童扶養手当

平均	¥4,692
----	--------

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

E 年金（遺族年金、老齢年金など）【単数回答】

「0円」が49.4%と最も多く、次いで「10万円以上」が7.8%、「5万～10万円未満」が0.3%、「1万円未満」が0.0%、「1万～2万円未満」が0.0%となっています。



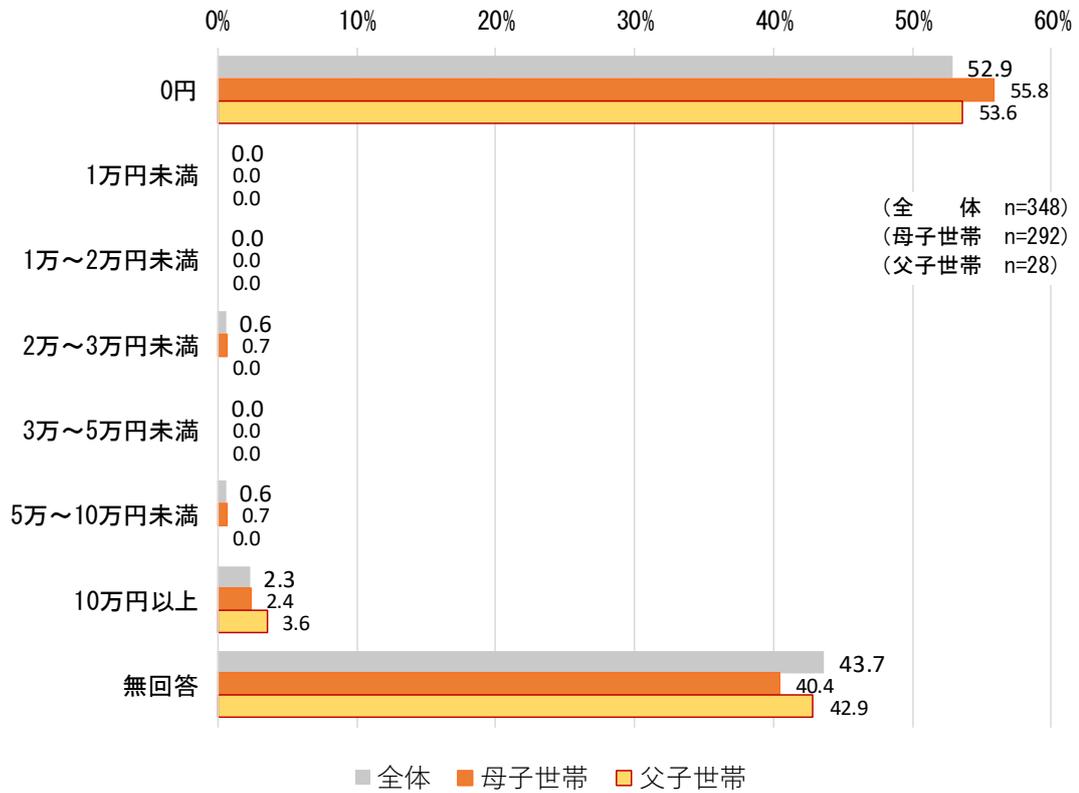
1回あたり支給額の平均／E 年金（遺族年金、老齢年金など）

平均	¥33,579
----	---------

問 19 社会保障給付金及び公的年金の1回あたりの支給額

F 生活保護【単数回答】

「0円」が52.9%と最も多く、次いで「10万円以上」が2.3%、「2万～3万円未満」が0.6%、「5万～10万円未満」が0.6%、「1万円未満」が0.0%となっています。



1回あたり支給額の平均 / F 生活保護

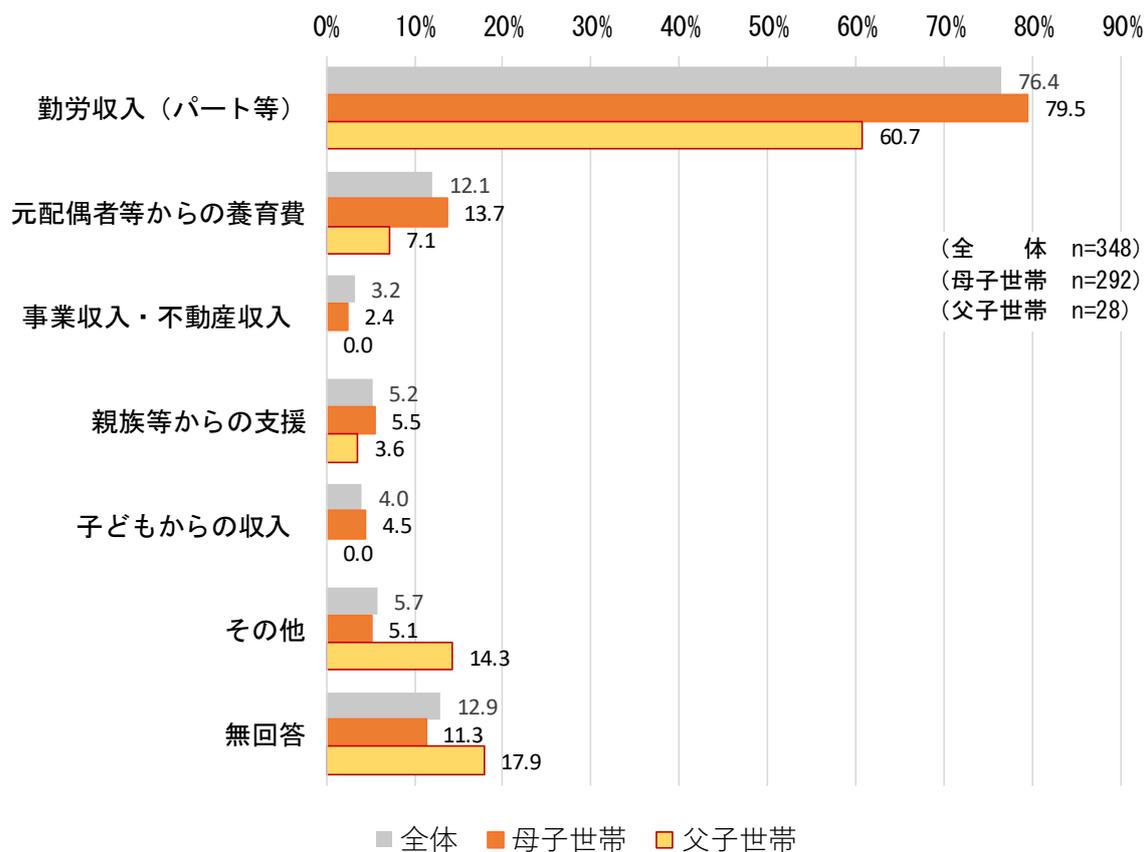
平均	¥7,332
----	--------

(2) 世帯の収入源

問 20 (1) 世帯全員の収入源【複数回答】

「勤労収入（パート等）」が 76.4%と最も多く、次いで「元配偶者等からの養育費」が 12.1%、「その他」が 5.7%、「親族等からの支援」が 5.2%、「子どもからの収入」が 4.0%となっています。

世帯別にみると「元配偶者等からの養育費」は母子世帯での割合が父子世帯よりも高くなっており、母子世帯の収入における養育費の重要性がうかがえます。



【養育費の支払い状況別】 世帯全員の収入源

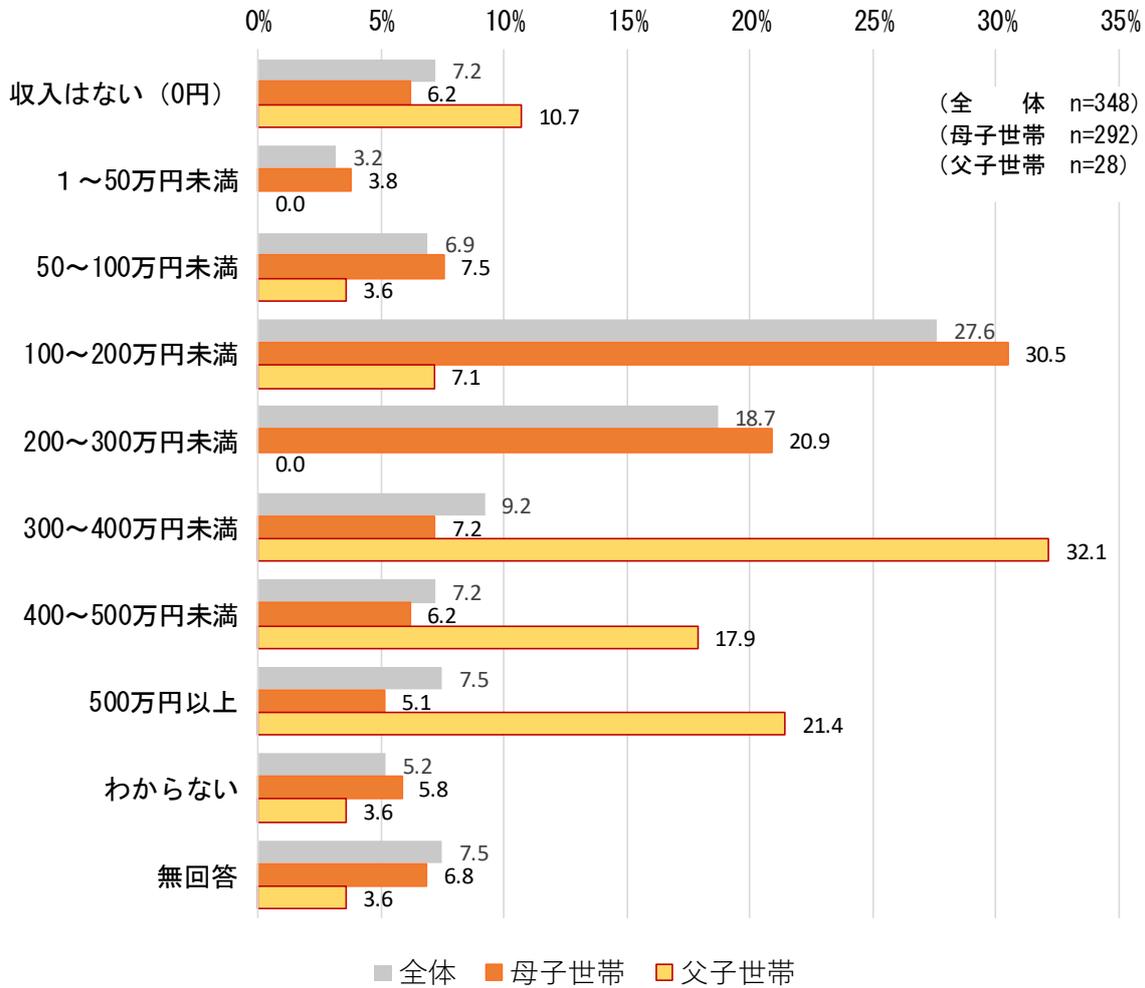
問7-1で、養育費の「取り決めをしていない」層では、収入源として「子どもからの収入」の割合が6.3%と他に比べて高く、子どもが仕事をして家計へ収入を入れているケースがうかがえます。また、「取り決めをしているが、支払われていない」層でも、「子どもからの収入」の割合が4.6%で、「支払われている」層の割合1.9%と比べて割合が高くなっています。

養育費が見込めない場合、収入源として「子どもからの収入」にも依存している実態があり、安定した収入源を確保するために、定期的な支払いのある養育費の取り決めを行うておくことが望ましいと考えられます。

上段：回答者数 下段：%	合計	勤労収入 (パート 等)	元配偶者 等からの 養育費	事業収 入・不動 産収入	親族等か らの支援	子どもか らの収入	その他	無回答
全体	348	266	42	11	18	14	20	45
	100.0	76.4	12.1	3.2	5.2	4.0	5.7	12.9
定期的に 支払われている	53	40	38	1	4	1	0	6
	100.0	75.5	71.7	1.9	7.5	1.9	0.0	11.3
不定期だが支払われてい る	5	4	3	0	0	0	1	0
	100.0	80.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
取り決めをしているが、 支払われていない	65	53	0	2	4	3	3	7
	100.0	81.5	0.0	3.1	6.2	4.6	4.6	10.8
取り決めをしていない	112	91	0	4	6	7	6	10
	100.0	81.3	0.0	3.6	5.4	6.3	5.4	8.9
請求できることを 知らなかった	2	1	0	0	0	0	1	1
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
その他	44	32	1	0	3	1	4	6
	100.0	72.7	2.3	0.0	6.8	2.3	9.1	13.6

問 20 (2) 世帯全員の年間収入（税込）【単数回答】

「100～200万円未満」が27.6%と最も多く、次いで「200～300万円未満」が18.7%、「300～400万円未満」が9.2%、「500万円以上」が7.5%、「収入はない(0円)」が7.2%となっています。



【養育費の支払い状況別】 世帯全員の年間収入

問 7-1 で、年収 300 万円未満のかたは、348 人中 221 人となり、全体の 63.6%となっています。養育費の「取り決めをしているが支払われていない」かたは、348 人中 65 人で、このうち、年収 300 万円未満のかたは 48 人で 73.8%となっています。また、「取り決めをしていない」かたは、348 人中 112 人で、このうち、年収 300 万円未満のかたは 72 人で 64.3%となっています。

養育費の確保で収入が増加する可能性があり、定期的な支払いである養育費の取り決めを行っておくことが望ましいと考えられます。

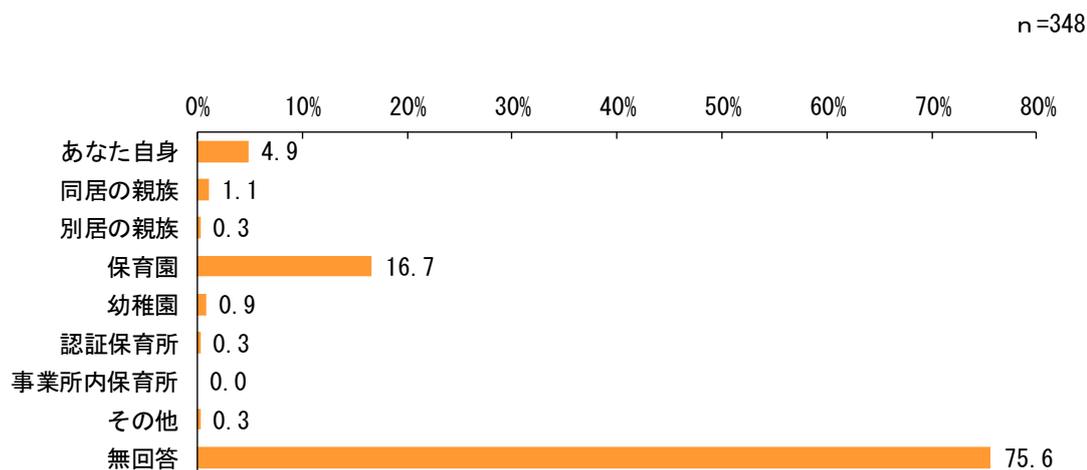
上段：回答者数 下段：%	合計	収入はない(0円)	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500万円以上	わからない	無回答
全体	348	25	11	24	96	65	32	25	26	18	26
	100.0	7.2	3.2	6.9	27.6	18.7	9.2	7.2	7.5	5.2	7.5
定期的に支払われている	53	2	0	5	14	9	3	5	7	2	6
	100.0	3.8	0.0	9.4	26.4	17.0	5.7	9.4	13.2	3.8	11.3
不定期だが支払われている	5	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
取り決めをしているが、支払われていない	65	4	3	5	19	17	8	0	3	3	3
	100.0	6.2	4.6	7.7	29.2	26.2	12.3	0.0	4.6	4.6	4.6
取り決めをしていない	112	9	2	5	34	22	11	10	6	8	5
	100.0	8.0	1.8	4.5	30.4	19.6	9.8	8.9	5.4	7.1	4.5
請求できることを知らなかった	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
その他	44	3	1	4	12	7	2	3	5	3	4
	100.0	6.8	2.3	9.1	27.3	15.9	4.5	6.8	11.4	6.8	9.1

6. 子どもの状況

(1) 小学校入学前の子ども

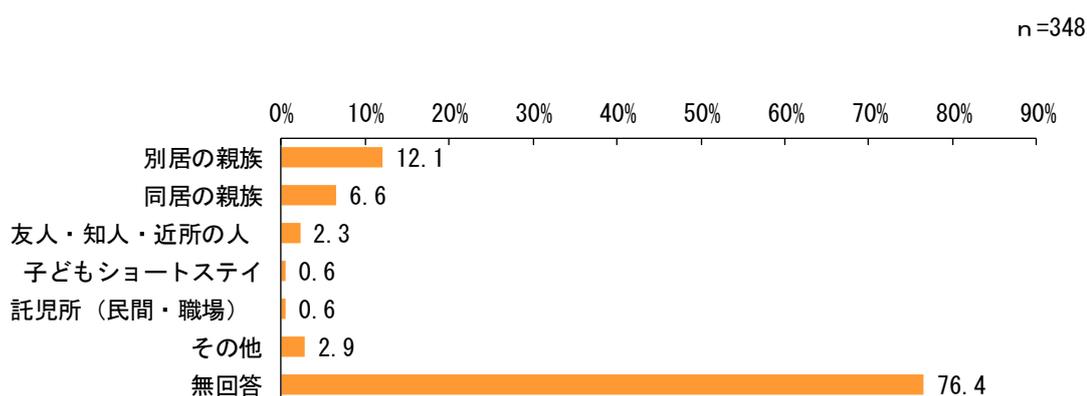
問 21 日中の保育は主にどなたが行っていますか【単数回答】

「保育園」が16.7%と最も多く、次いで「あなた自身」が4.9%、「同居の親族」が1.1%、「幼稚園」が0.9%、「別居の親族」が0.3%となっています。



問 21-1 仕事などで、夜間（保育所等の終了後）に子どもの世話をできない場合の預け先はどちらですか【複数回答】

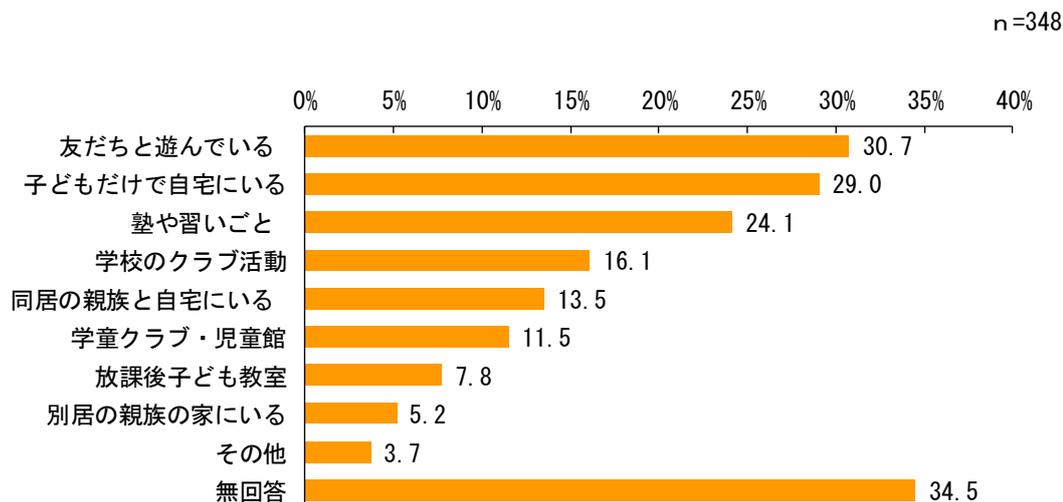
「別居の親族」が12.1%と最も多く、次いで「同居の親族」が6.6%、「その他」が2.9%、「友人・知人・近所の人」が2.3%、「子どもショートステイ」が0.6%となっています。



(2) 小・中学生の子ども

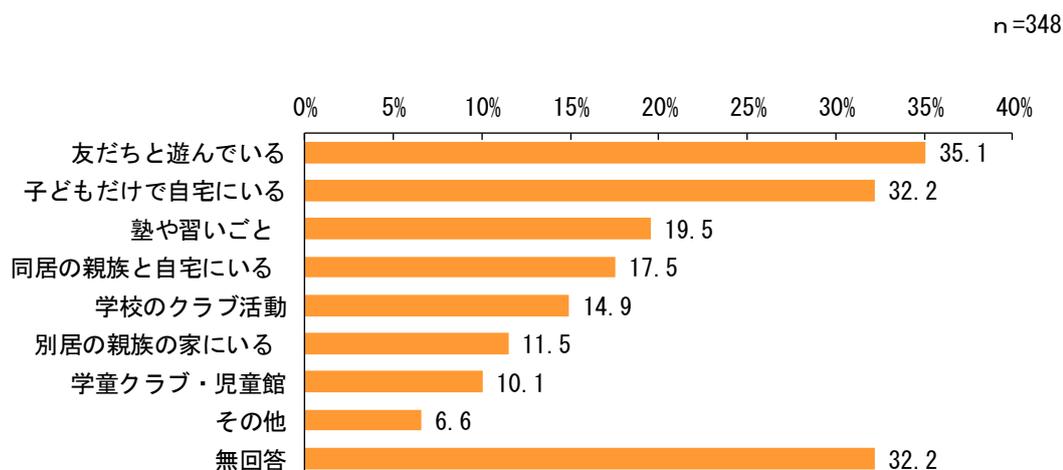
問 22 平日（学校のある日）の放課後を、お子さんはどのように過ごしていますか【複数回答】

「友だちと遊んでいる」が 30.7%と最も多く、次いで「子どもだけで自宅にいる」が 29.0%、「塾や習いごと」が 24.1%、「学校のクラブ活動」が 16.1%、「同居の親族と自宅にいる」が 13.5%となっています。



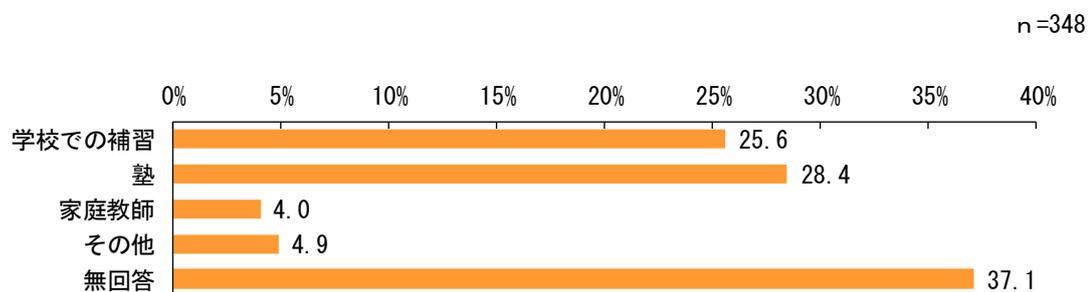
問 22-1 土・日曜日（学校が休みの日）や長期休暇中（夏休み・冬休みなど）の日中を、お子さんはどのように過ごしていますか【複数回答】

「友だちと遊んでいる」が 35.1%と最も多く、次いで「子どもだけで自宅にいる」が 32.2%、「塾や習いごと」が 19.5%、「同居の親族と自宅にいる」が 17.5%、「学校のクラブ活動」が 14.9%となっています。



問 22-2 お子さんの学習についてどのような支援が必要だと思いますか【単数回答】

「塾」が 28.4%と最も多く、次いで「学校での補習」が 25.6%、「その他」が 4.9%、「家庭教師」が 4.0%となっています。

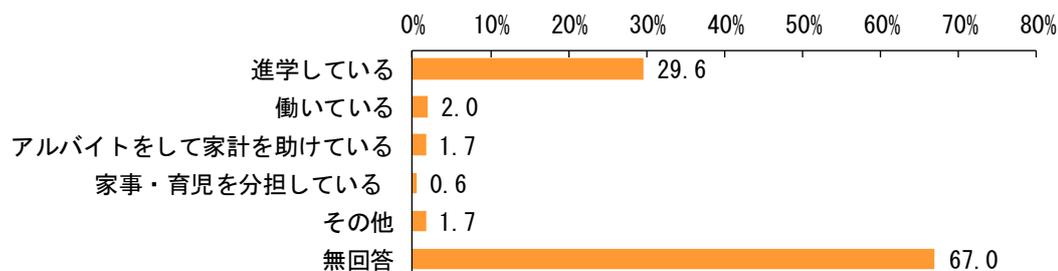


(3) 中学校卒業後の子ども

問 23 お子さんの状況を教えてください【複数回答】

「進学している」が29.6%と最も多く、次いで「働いている」が2.0%、「アルバイトをして家計を助けている」が1.7%、「その他」が1.7%、「家事・育児を分担している」が0.6%となっています。

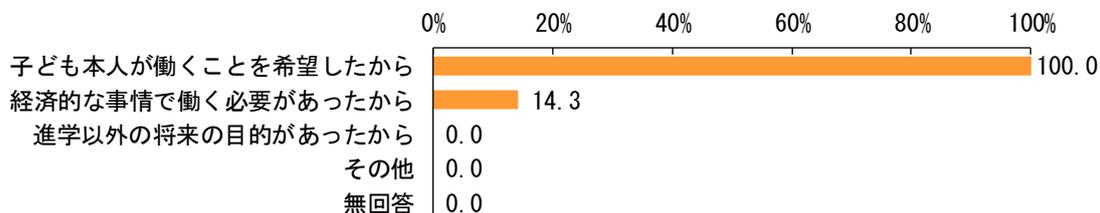
n=348



問 23-1 お子さんが進学せずに働いている理由を教えてください【複数回答】

「子ども本人が働くことを希望したから」が100.0%と最も多く、「経済的な事情で働く必要があったから」が14.3%となっています。

n=7



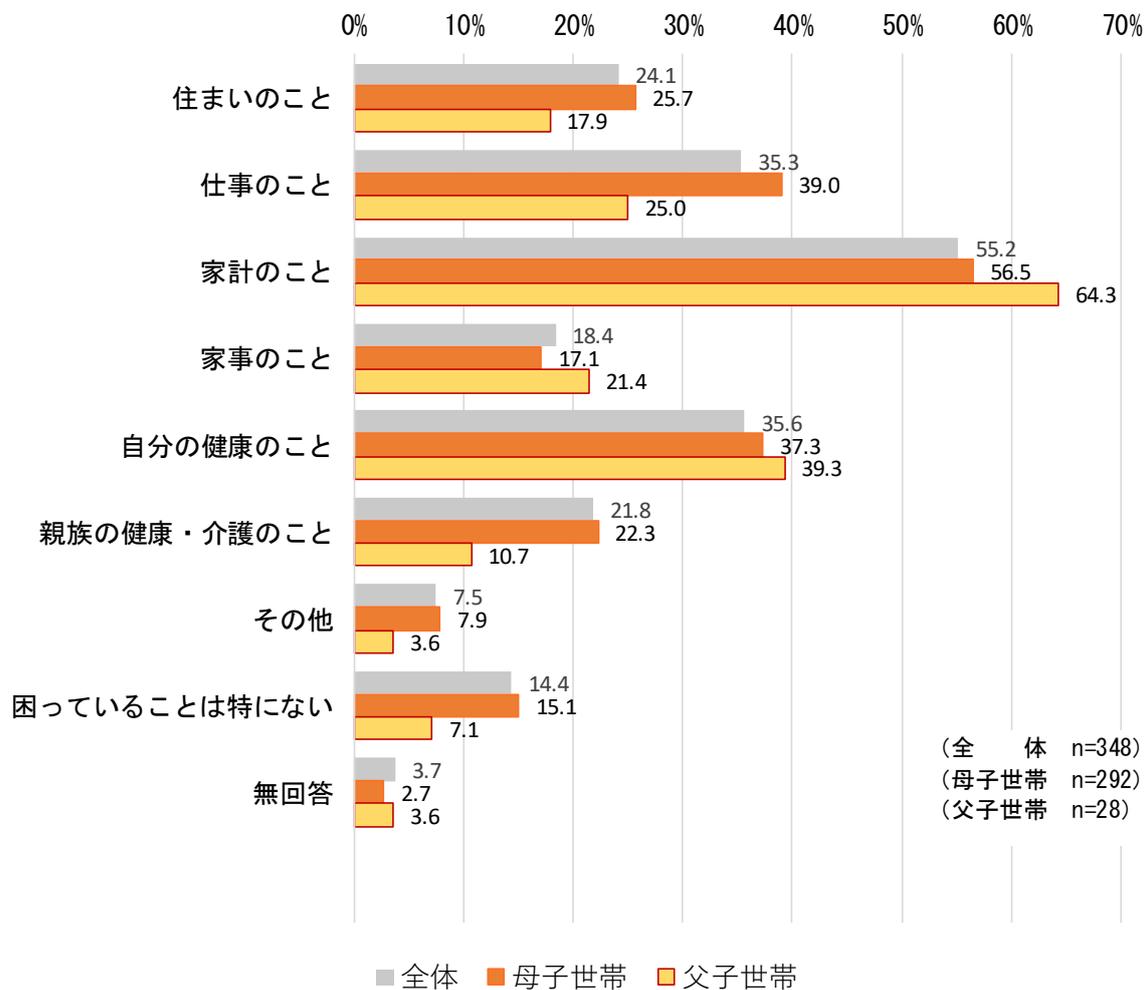
7. 困りごとや悩みごと

(1) 自身の困りごと

問 24 現在、あなたが困っていることはありますか【複数回答】

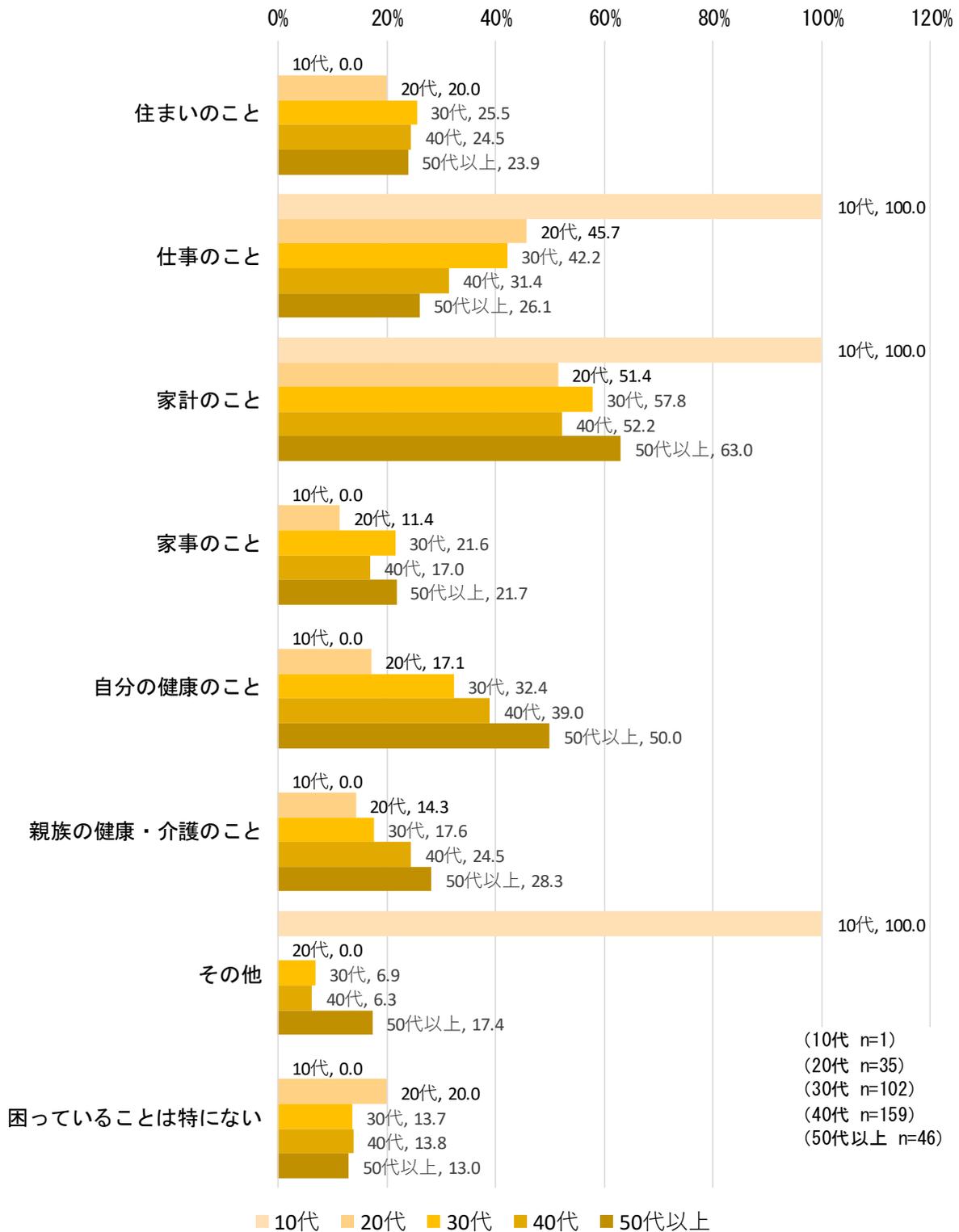
「家計のこと」が55.2%と最も多く、次いで「自分の健康のこと」が35.6%、「仕事のこと」が35.3%、「住まいのこと」が24.1%、「親族の健康・介護のこと」が21.8%となっています。

世帯別にみると、「住まいのこと」「仕事のこと」「親族の健康・介護のこと」について母子世帯が父子世帯よりも割合が高くなっています。



【回答者の年代別】 現在困っていること

総じて、「仕事のこと」については年代が低いほど困っている割合が高く、「自分の健康のこと」「親族の健康・介護のこと」については年代が高いほど困っている割合が高くなる
ことがわかります。

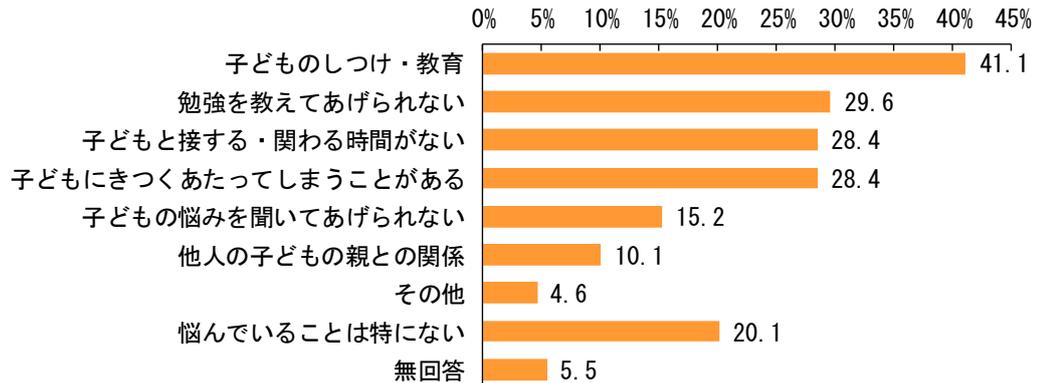


(2) 子どもに関する悩みごと

問 25 子育てや、お子さんとの関わりについて悩みはありますか【複数回答】

「子どものしつけ・教育」が 41.1%と最も多く、次いで「勉強を教えてあげられない」が 29.6%、「子どもと接する・関わる時間がない」が 28.4%、「子どもにきつくあたってしまうことがある」が 28.4%、「悩んでいることは特にない」が 20.1%となっています。

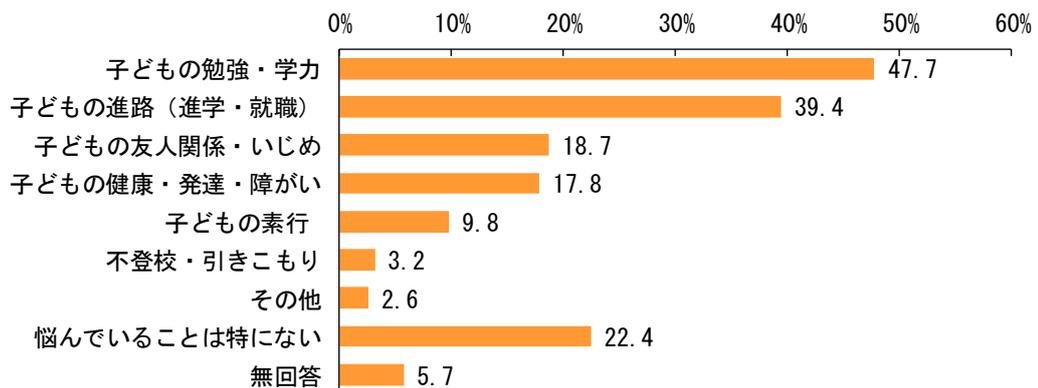
n=348



問 26 お子さんのことでの悩みはありますか【複数回答】

「子どもの勉強・学力」が 47.7%と最も多く、次いで「子どもの進路（進学・就職）」が 39.4%、「悩んでいることは特にない」が 22.4%、「子どもの友人関係・いじめ」が 18.7%、「子どもの健康・発達・障がい」が 17.8%となっています。

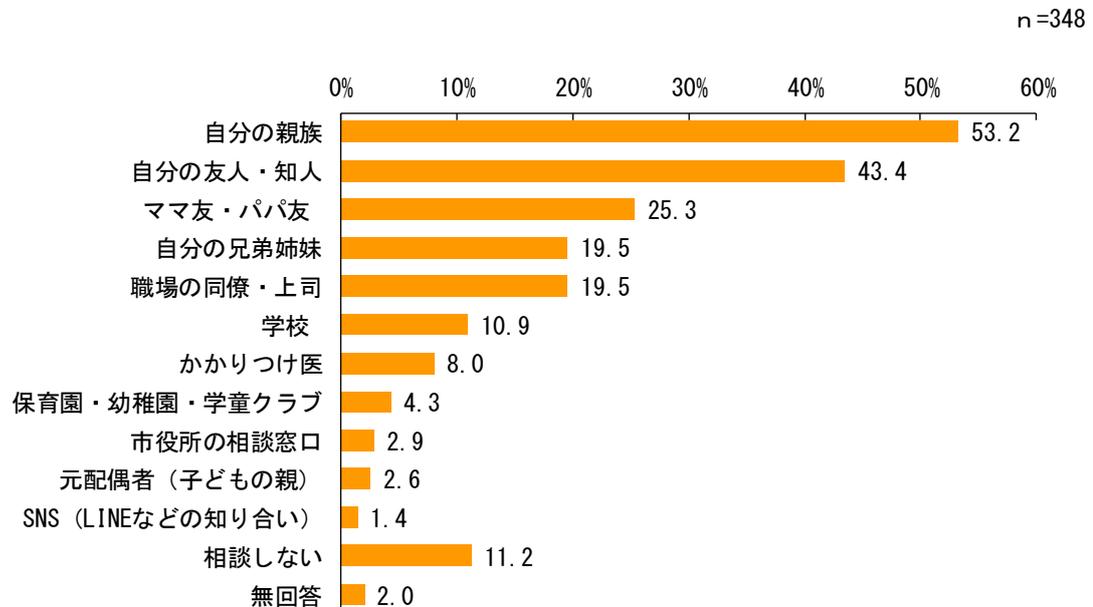
n=348



(3) 困りごとや悩みごとの相談先

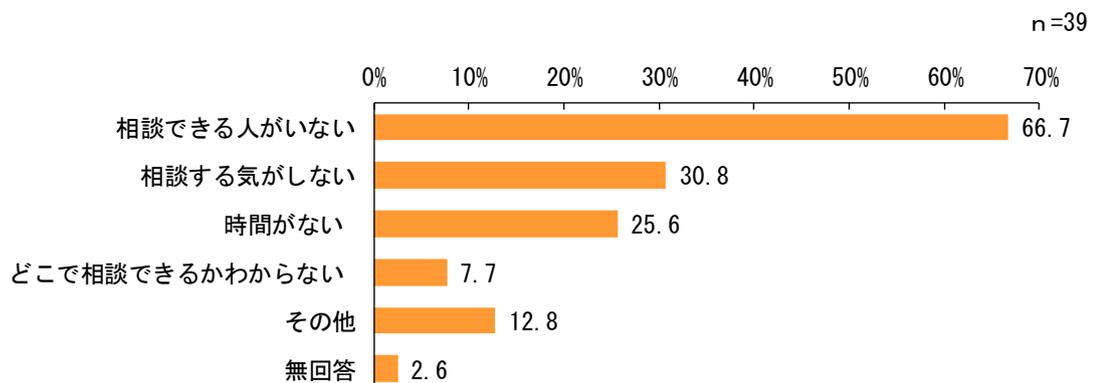
問 27 困りごとや悩みごとがあるときに、誰に（どこに）相談をしますか【複数回答】

「自分の親族」が53.2%と最も多く、次いで「自分の友人・知人」が43.4%、「ママ友・パパ友」が25.3%、「自分の兄弟姉妹」が19.5%、「職場の同僚・上司」が19.5%となっています。



問 27-1 相談しない理由は何ですか【複数回答】

「相談できる人がいない」が66.7%と最も多く、次いで「相談する気がしない」が30.8%、「時間がない」が25.6%、「その他」が12.8%、「どこで相談できるかわからない」が7.7%となっています。



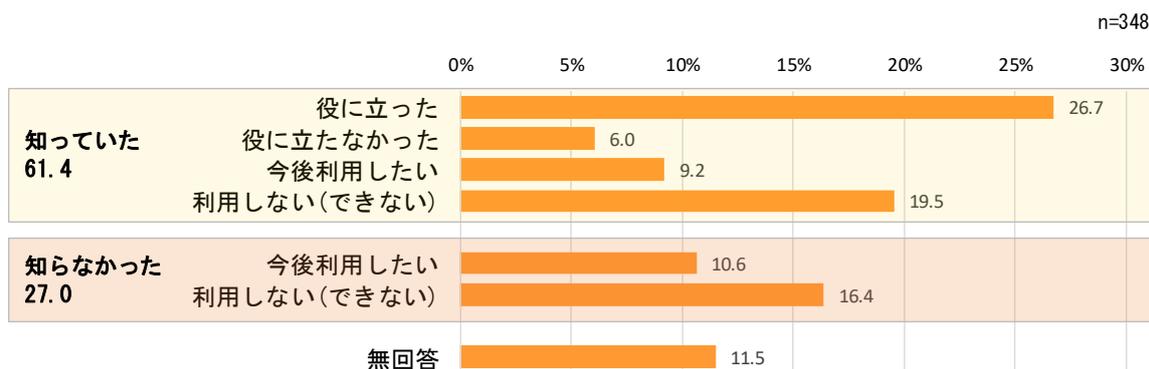
8. 支援制度の認知と利用意向

問 28 以下の支援制度についてご存知のものはありますか。また利用状況についてあてはまるものを教えてください。

(1) 相談・窓口

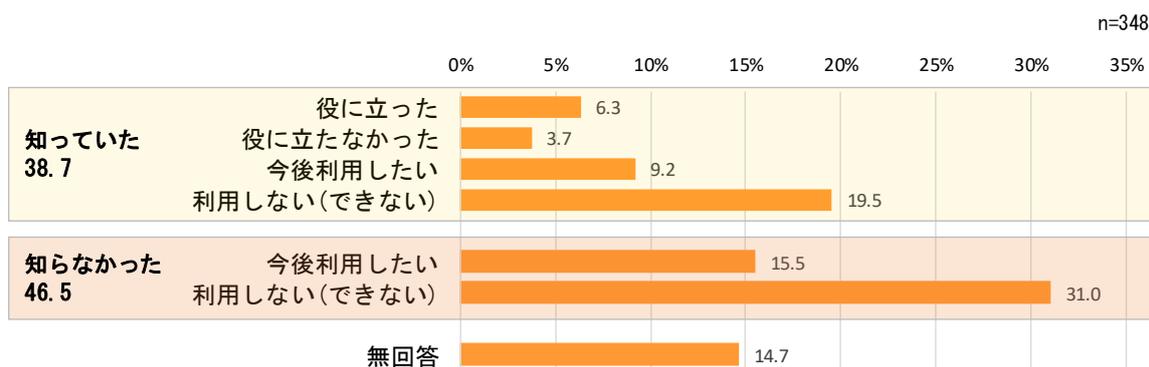
①ひとり親家庭相談(子育て支援課窓口)

「知っていた」が61.4%で、認知度は高くなっています。「知っていた」かたのうち「役に立った」が26.7%となっていますが、知っていても今後利用しない(できない)とするかたが19.5%みられます。知らなかったかたでは10.5%が今後利用したいとしています。



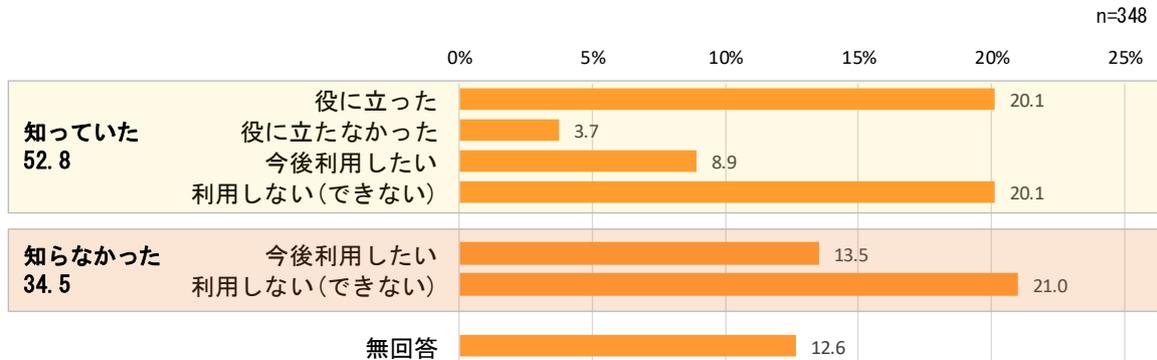
②市民なやみごと相談(地域福祉課窓口)

「知っていた」が38.7%で、認知度は「ひとり親家庭相談(子育て支援課窓口)」より低くなっています。知らなかったかたのうち3割が今後利用しない(できない)としていますが、ひとり親家庭特有のなやみごとにも応じる窓口かどうかなどが、今回の調査対象者からわかりにくかった可能性もあります。



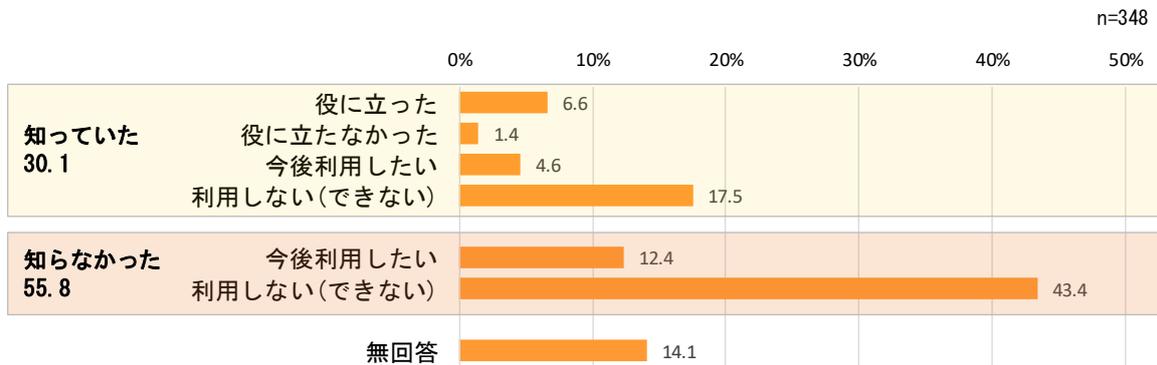
③子ども家庭支援センター(市民総合センター2階)

「知っていた」が52.8%で高くなっています。子育て家庭の支援や子どもが抱える課題に対応する中核的なセンターであることを考えると、認知度の向上が引き続き課題と考えられます。



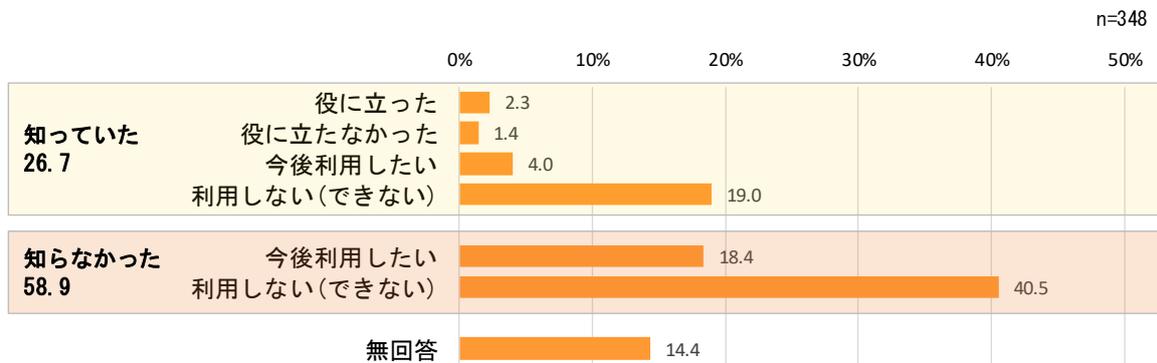
④子育て世代包括支援センターはぐ・むらやま(お伊勢の森分室)

「知っていた」が30.1%で、認知度は低くなっています。回答者の居住年数(問5)と、ひとり親家庭になってからの年数(問6)からみると、ひとり親になった時期と転入がほぼ同じ層が多く、妊娠期には市に居住していなかったことで、妊娠期からを対象とする本事業の認知が進んでいない可能性が考えられます。



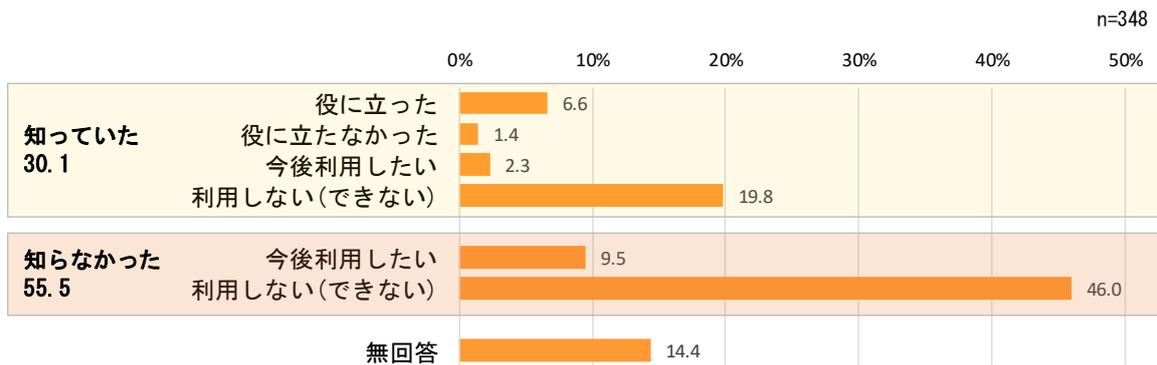
⑤消費生活相談(市役所1階)

「知っていた」が26.7%で、認知度が低くなっています。ただし、知らなかったかたでは「今後利用したい」が18.4%みられます。



⑥小平児童相談所

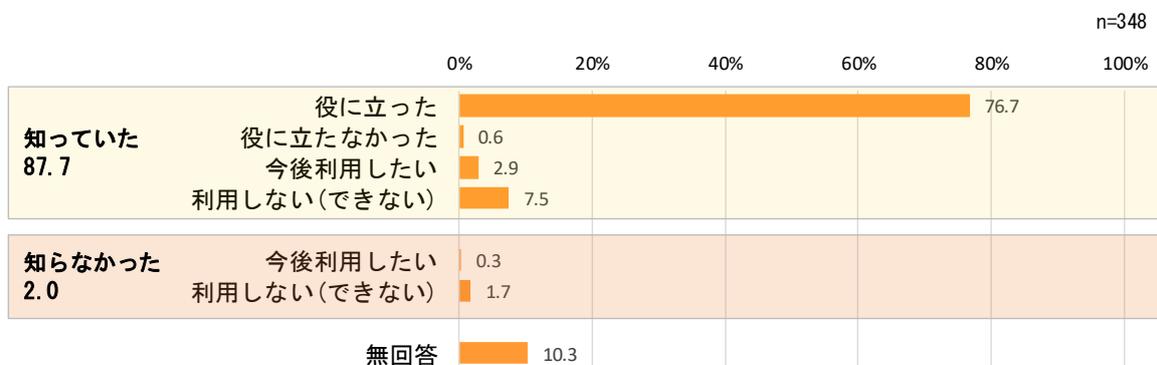
「知っていた」が30.1%で、認知度が低くなっています。知っていたかた、知らなかったかたのいずれでも「利用しない」が多くなっています。



(2) 手当・資金

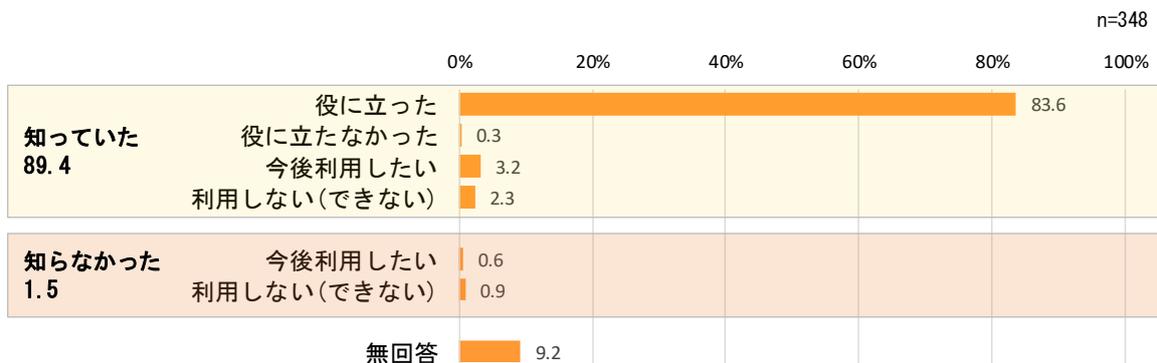
⑦ 児童扶養手当

「知っていた」が87.7%で、認知度は高くなっています。知っているかた、知らなかったかたのいずれにも今後利用しない（できない）がみられますが、支給要件によることなどが考えられます。



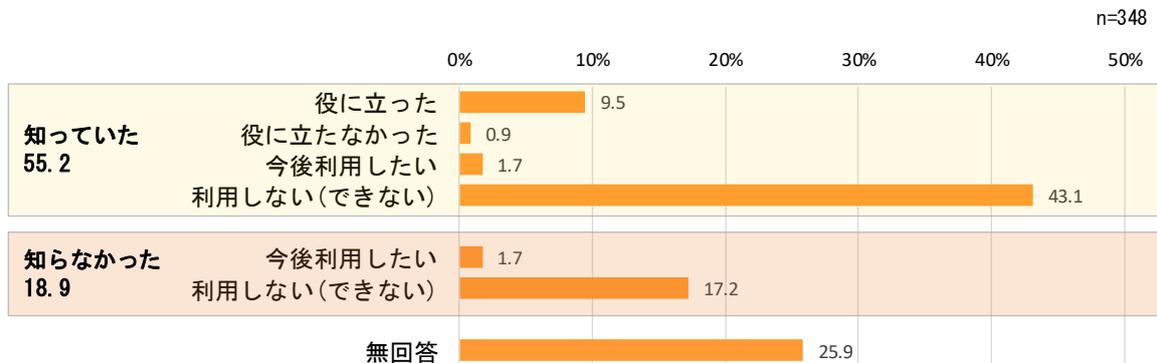
⑧ 児童育成手当（育成手当）

「知っていた」が89.4%で、認知度が高くなっています。本調査対象者が本手当受給資格者であることから考えて妥当な結果と考えられます。



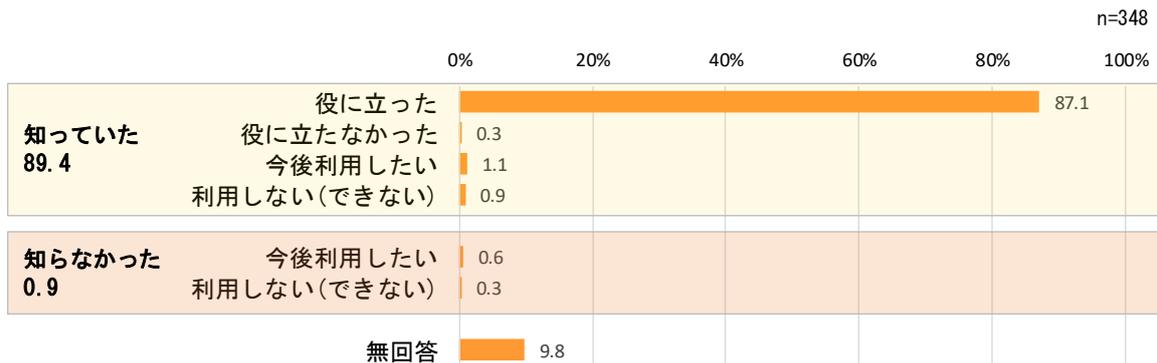
⑨児童育成手当（障害手当）

「知っていた」が55.2%で、認知度は高くなっていますが、支給対象が限られることから今後の利用意向は低くなっています。



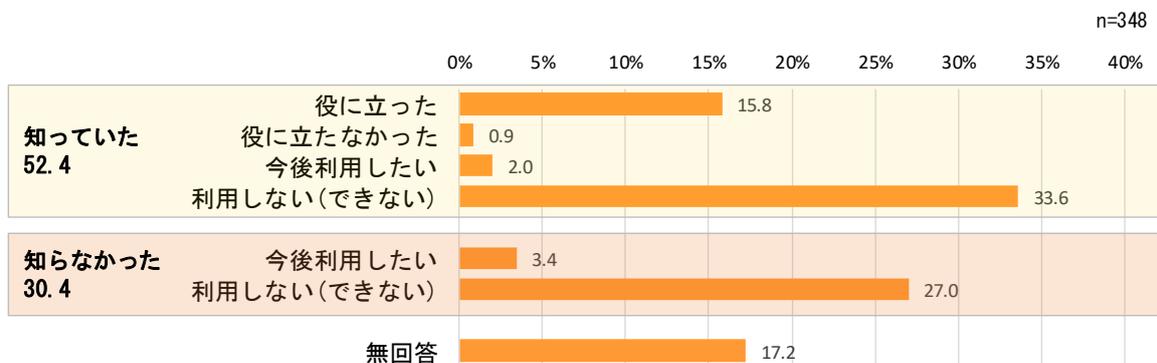
⑩児童手当

「知っていた」が89.4%で、認知度が高くなっています。15歳以下の子どもを支給対象としているため、認知度が高いことは妥当であるといえます。



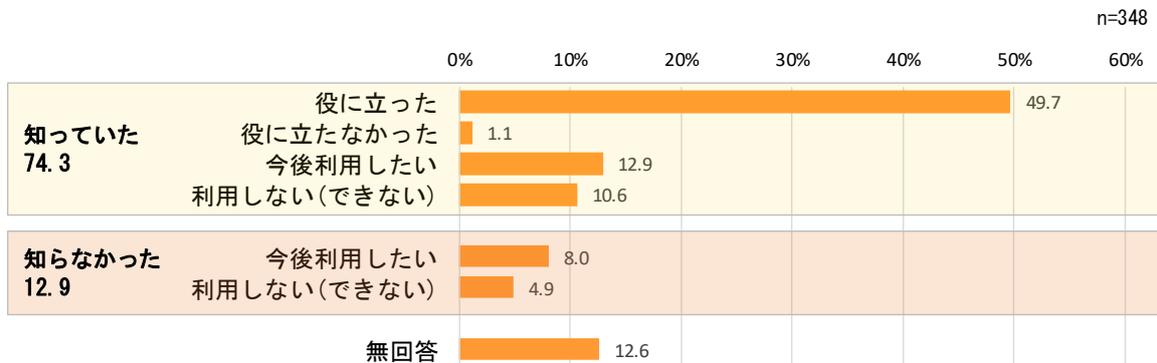
⑪私立幼稚園等に通園する園児の保護者に対する補助金

「知っていた」が52.4%で、認知度は高くなっていますが、支給対象が限られることから今後の利用意向は低くなっています。



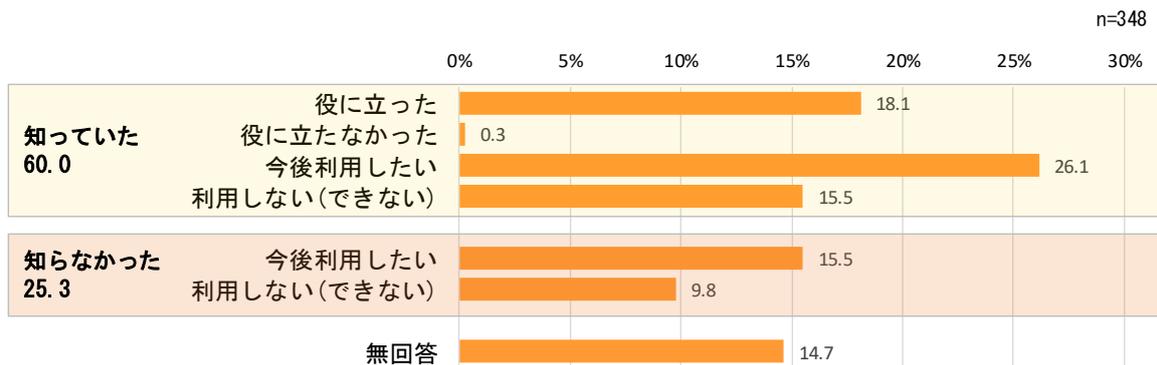
⑫就学援助費

「知っていた」が74.3%で、認知度が高くなっています。「今後利用したい」が、制度を知っていたかたで12.9%、知らなかったかたで8.0%みられます。



⑬いろいろな奨学金

「知っていた」が60.0%で、認知度は高くなっています。「今後利用したい」が、制度を知っていたかたで26.1%、知らなかったかたで15.5%みられ、いずれも「⑫就学援助費」より高くなっています。



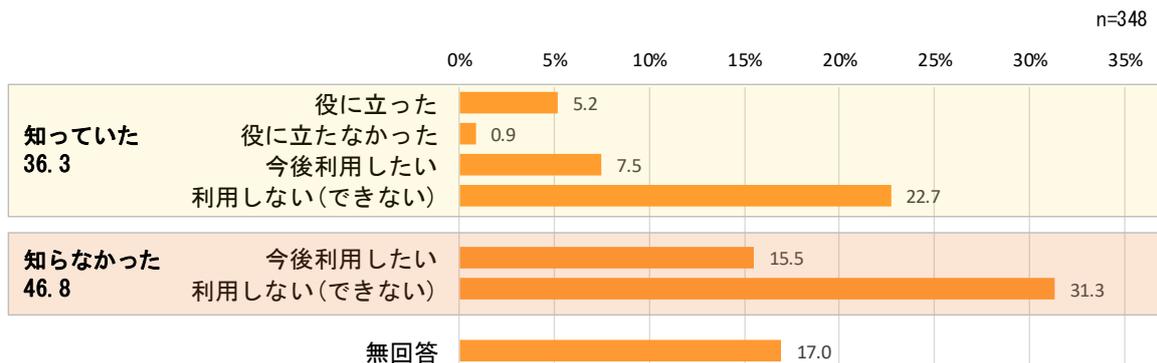
⑭東京都母子及び父子福祉資金・女性福祉資金の貸付

「知っていた」が38.4%で、認知度は低くなっています。制度を知っていたかた、知らなかったかたのいずれでも今後の利用意向は低くなっています。



⑮生活福祉資金等貸付事業

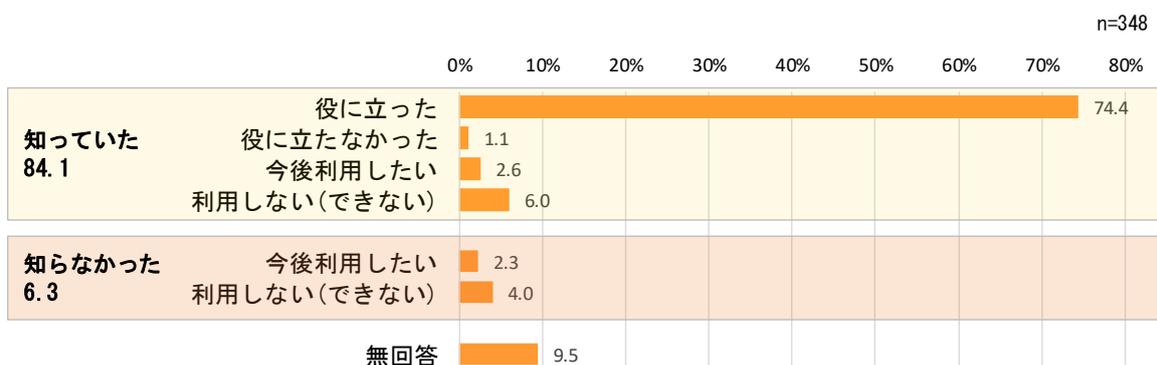
「知っていた」が36.3%で、認知度は低くなっています。制度を知っていたかた、知らなかったかたのいずれでも今後の利用意向は低くなっています。



(3) 医療費の助成

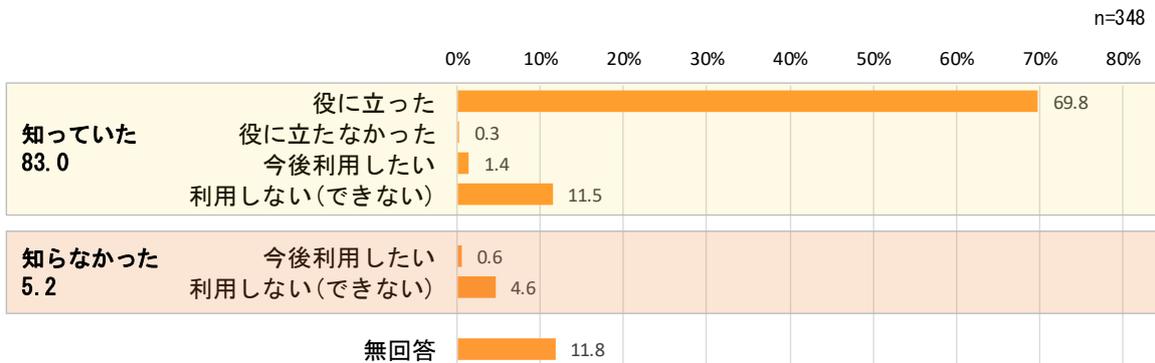
⑯ひとり親家庭等医療費助成制度(マル親)

「知っていた」が84.1%で、認知度が高くなっています。知っていたかたでは「役に立った」が74.4%で高くなっています。



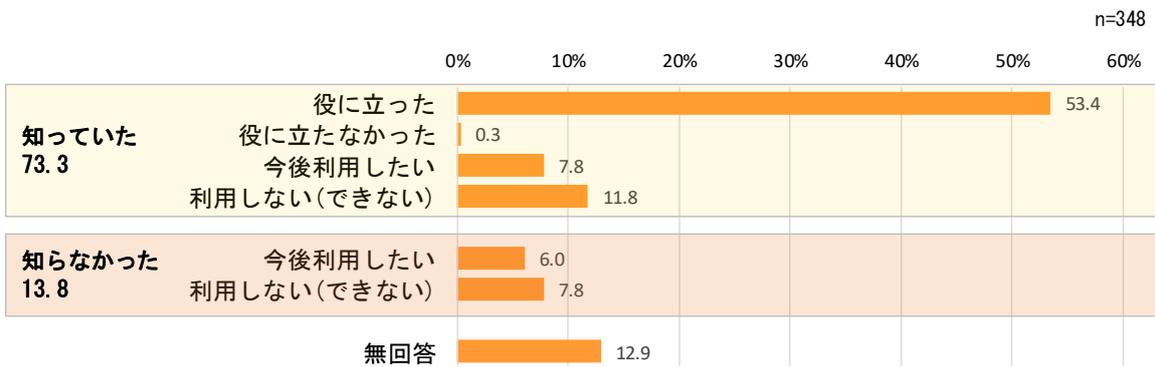
⑰乳幼児医療費助成制度（マル乳）

「知っていた」が83.0%で、認知度が高くなっています。知っていたかたでは「役に立った」が69.8%で高くなっています。



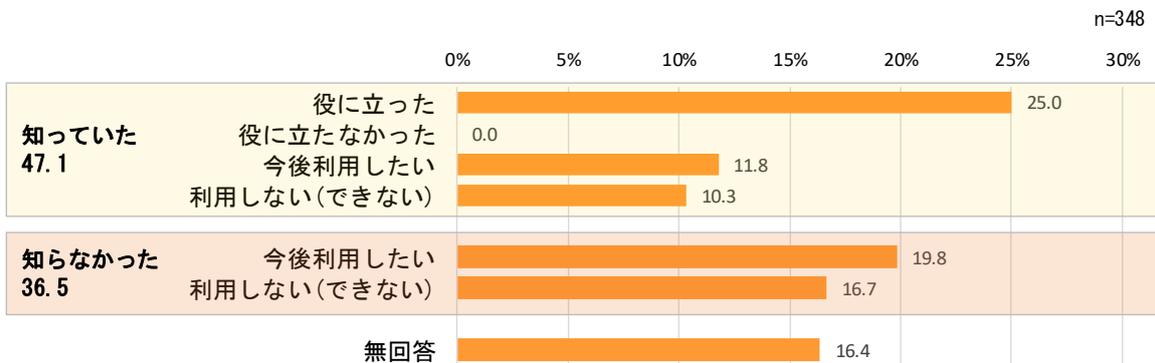
⑱義務教育就学児医療費助成制度（マル子）

「知っていた」が73.3%で、認知度が高くなっていますが、「⑰ひとり親家庭等医療費助成制度」、「⑰乳幼児医療費助成制度」と比較するとわずかに低くなっています。知っていたかたでは53.4%が「役に立った」と回答しています。



⑱ その他の医療費制度

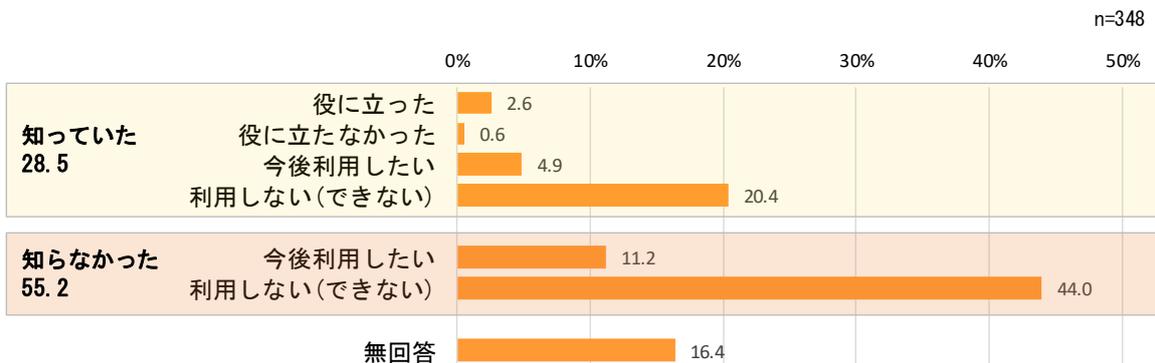
「知っていた」が47.1%で、認知度は50%を割っています。知らなかったかたで「今後利用したい」が19.8%となっています。



(4) 子育て支援事業

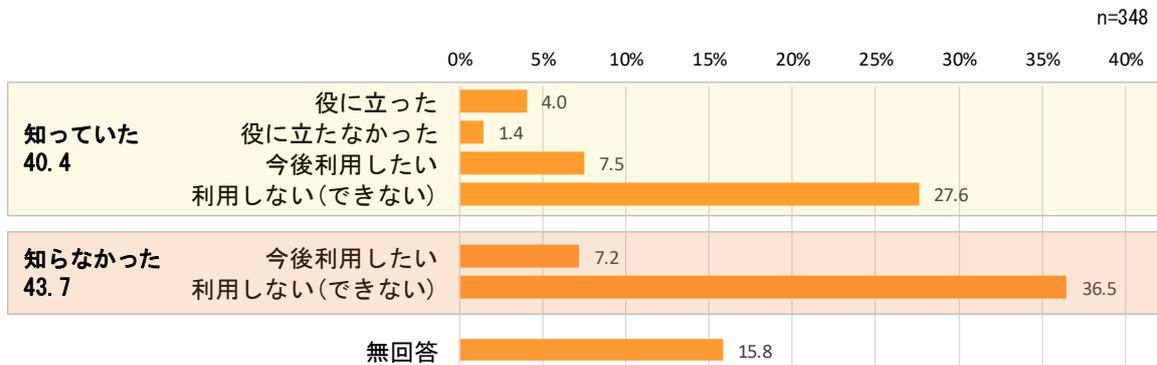
⑳ 子どもショートステイ事業

「知っていた」が28.5%で、認知度が低くなっており、「今後利用したい」も4.9%と低くなっています。この事業は、保護者に代わり一時的に子どもを預かる事業であり、市報やホームページ等で周知を行っているものの、認知度は低くなっています。



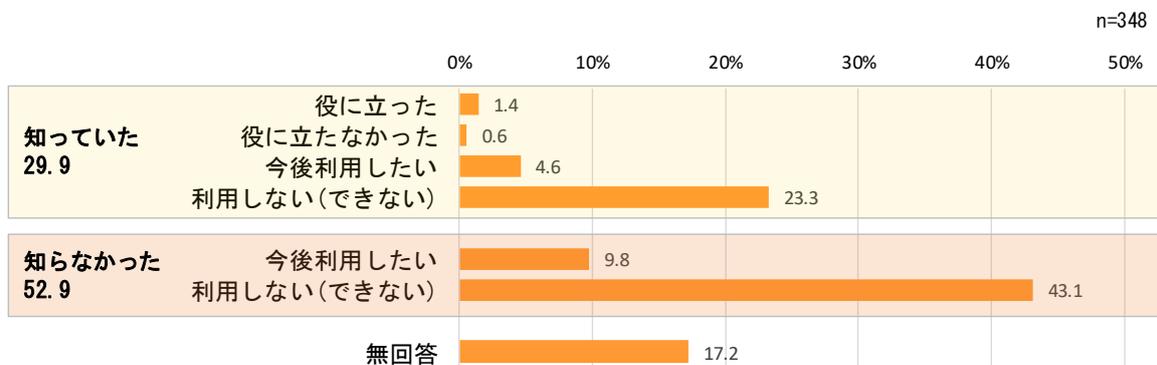
②①病児・病後児保育事業

「知っていた」が40.4%で、認知度が低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで7.5%、知らなかったかたで7.2%となっています。この事業は、子どもが病期中や病気の回復期で保育施設等に通所できない場合に、一時的に病児・病後児保育室で預かる事業であり、市報やホームページ等で周知を行っているものの、認知度は低くなっています。



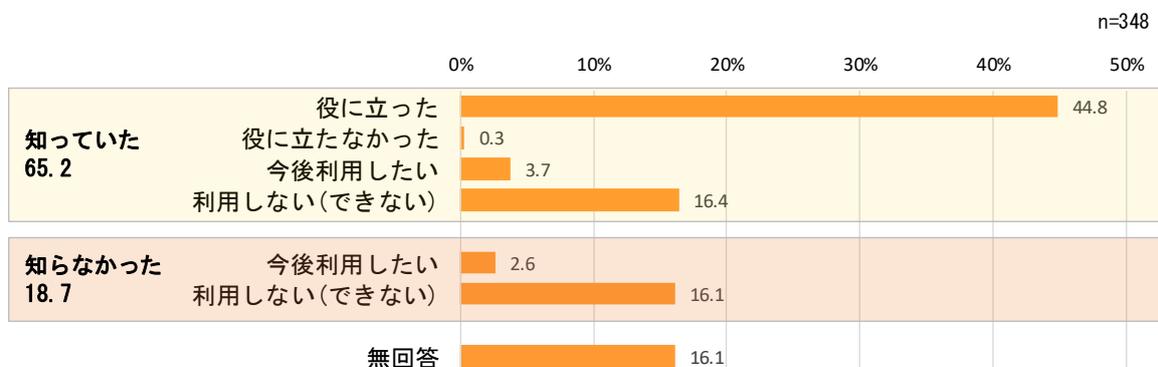
②②育児支援ヘルパー事業

「知っていた」が29.9%で、認知度が低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで4.5%、知らなかったかたで9.8%となっています。この事業は、産婦の出産後において育児、家事の支援を必要とする家庭にヘルパー支援を行う事業であり、市報やホームページ等で周知を行っているものの、認知度は低くなっています。



②③ 保育所

「知っていた」が65.2%で、認知度は高くなっていますが、回答者のうち小学校入学前のお子さんとの同居は23.9%（問3）となっていることから、「利用しない(できない)」が、知っていたかたで16.4%、知らなかったかたで16.1%となっています。



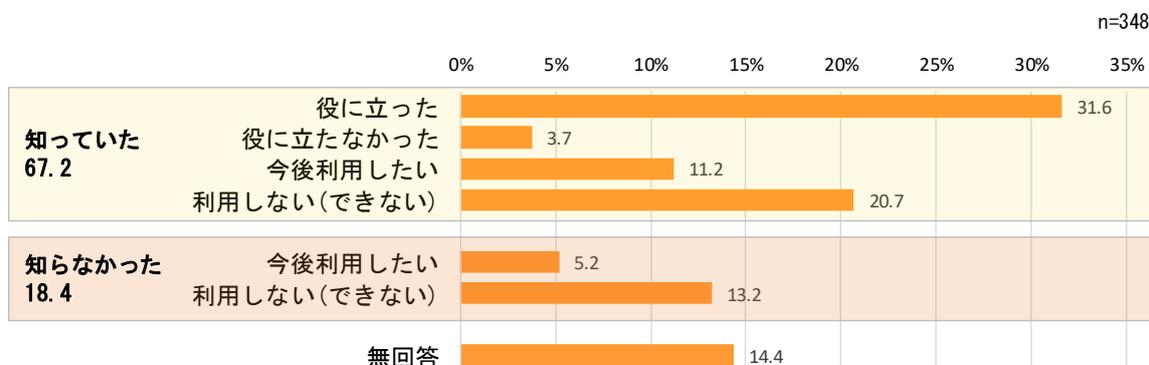
②④ 学童クラブ・児童館

「知っていた」が73.8%で、認知度が高くなっています。知っていたかたでは「役に立った」が45.1%、「役に立たなかった」が4.0%となっています。



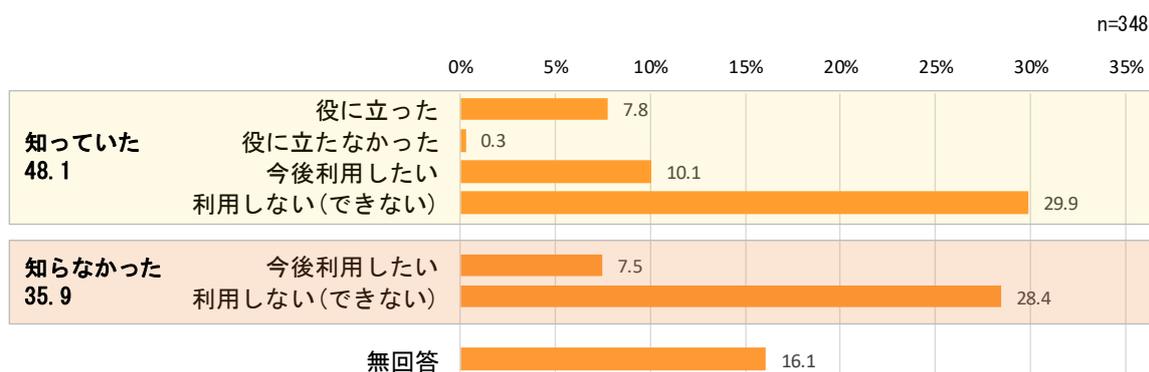
②⑤放課後子ども教室

「知っていた」が67.2%で、認知度は高くなっていますが、「②④学童クラブ・児童館」よりは低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで11.2%、知らなかったかたで5.2%となっており、いずれも「②④学童クラブ・児童館」より多くなっています。



②⑥ファミリー・サポート・センター

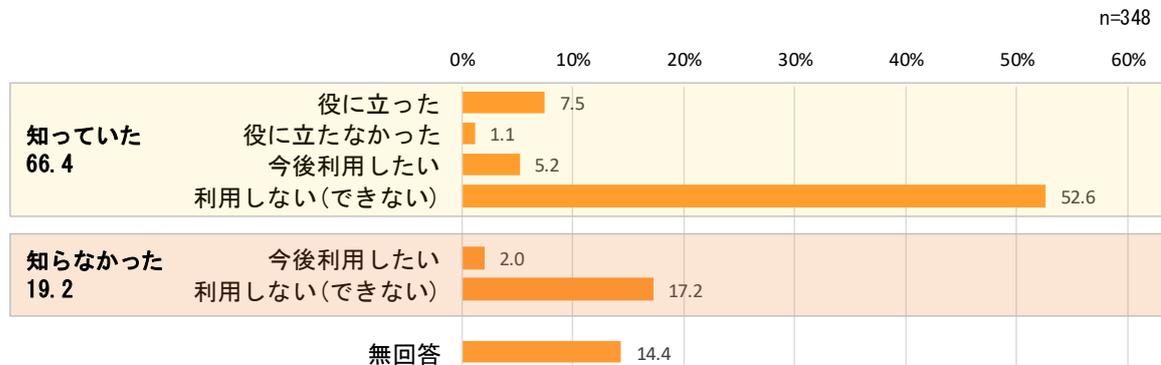
「知っていた」が48.1%で、認知度は50%を割っています。知っていたかた、知らなかったかたのいずれにおいても今後の利用意向は低くなっています。



(5) 生活

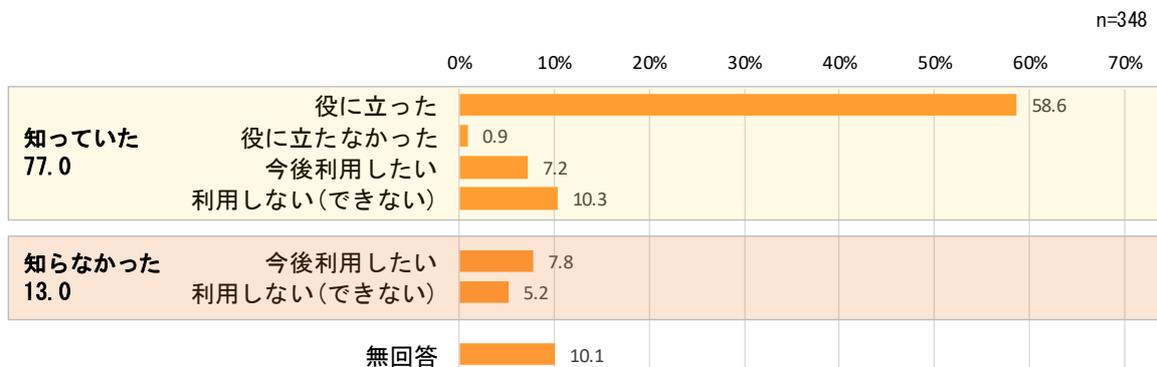
㉗生活保護

「知っていた」が66.4%で、認知度は高くなっています。知っていたかたでも「利用しない(できない)」が52.6%と多くなっています。



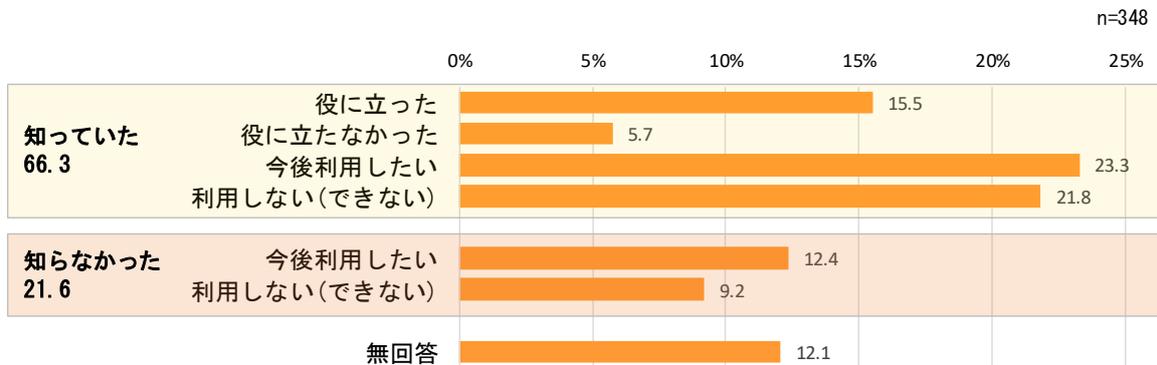
㉘水道・下水道料金の免除

「知っていた」が77.0%で、認知度が高くなっています。知っていたかたで「役に立った」は58.6%となっており、知らなかったかたでは「今後利用したい」が7.8%となっています。



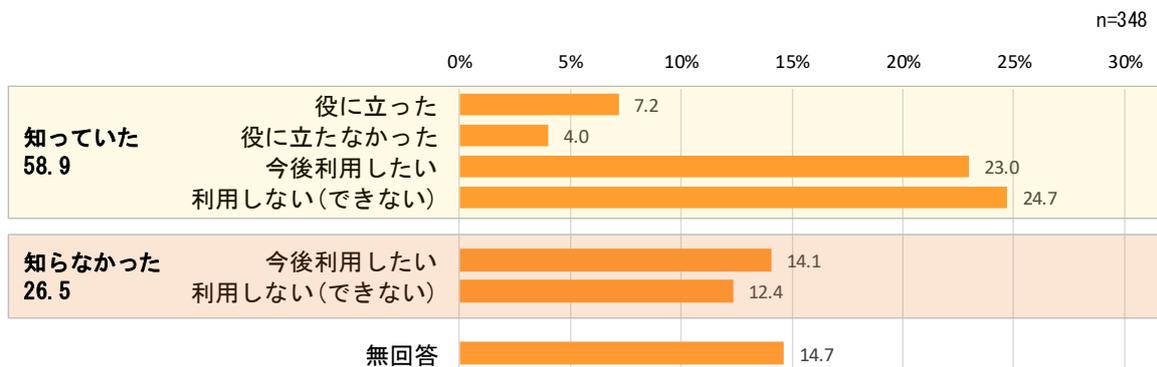
⑳都営交通無料乗車券（都電・都バス・都営地下鉄）

「知っていた」が66.3%で、認知度は高くなっています。知っていたかた、知らなかったかたのいずれでも「今後利用したい」が多くなっています。



㉑JR 通勤定期乗車券の割引

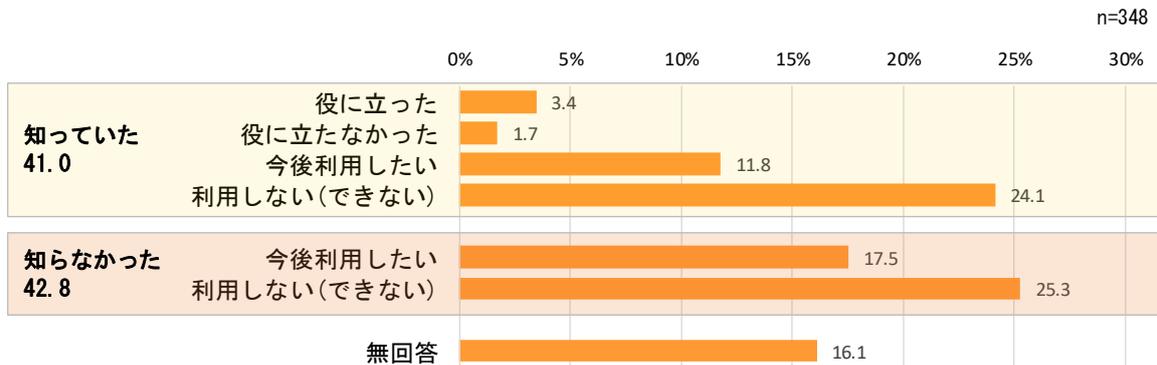
「知っていた」が58.9%で、認知度は高くなっています。今回の調査は児童育成手当受給者を対象としていますが、この制度は、児童扶養手当の受給者のかたまたはそのかたと同一世帯のかたを対象としており、JR 通勤定期乗車券を利用できる場所へ通勤している場合は、申請して利用している可能性があります。



(6) 仕事

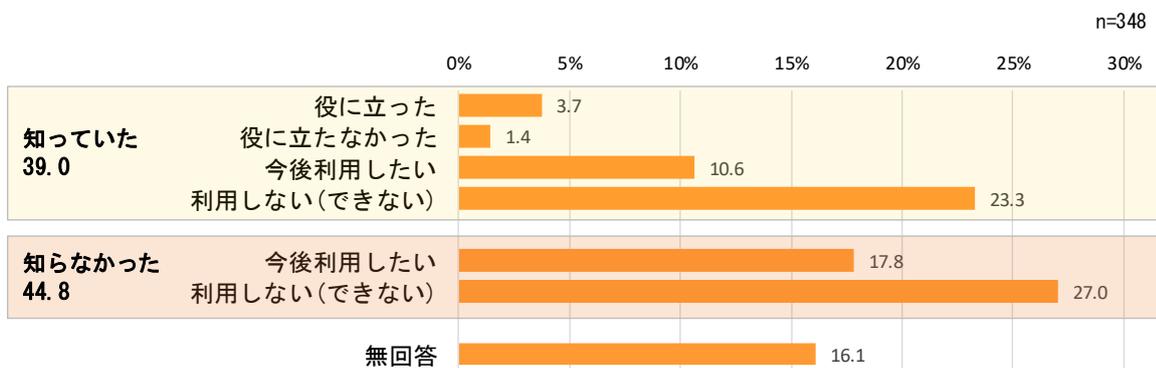
⑳母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業

「知っていた」が41.0%で、認知度は低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで11.8%、知らなかったかたで17.5%となっており、知らなかったかたの割合が高くなっています。資格をとるにあたっての悩みや困りごと（問17-1）では、「費用がかかる」が65.9%で最も多かったことから、より多くのかたに知っていただくためにも、事業の周知が課題と考えられます。



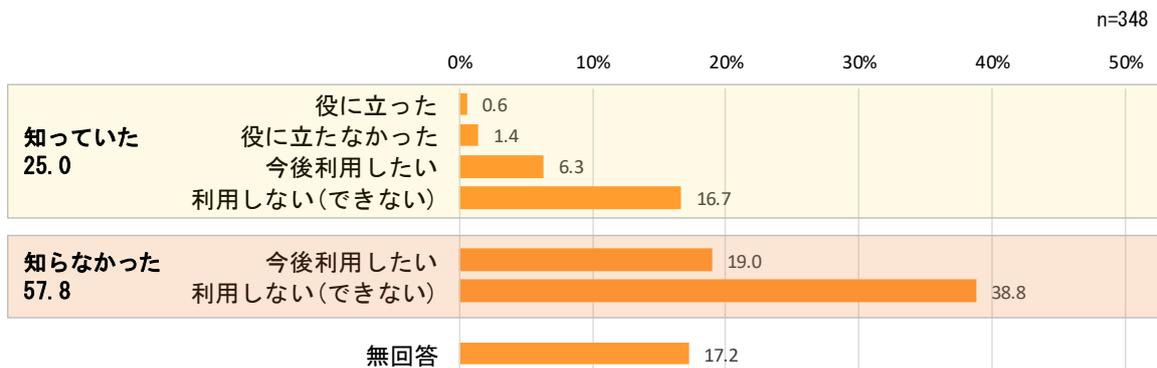
㉑母子家庭等高等職業訓練促進給付金事業

「知っていた」が39.0%で、認知度は低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで10.6%、知らなかったかたで17.8%となっており、知らなかったかたの方で割合が高くなっています。今後とりたい資格（問17）では、看護師、介護福祉士、保育士などに一定の要望がみられ、事業の周知が課題と考えられます。



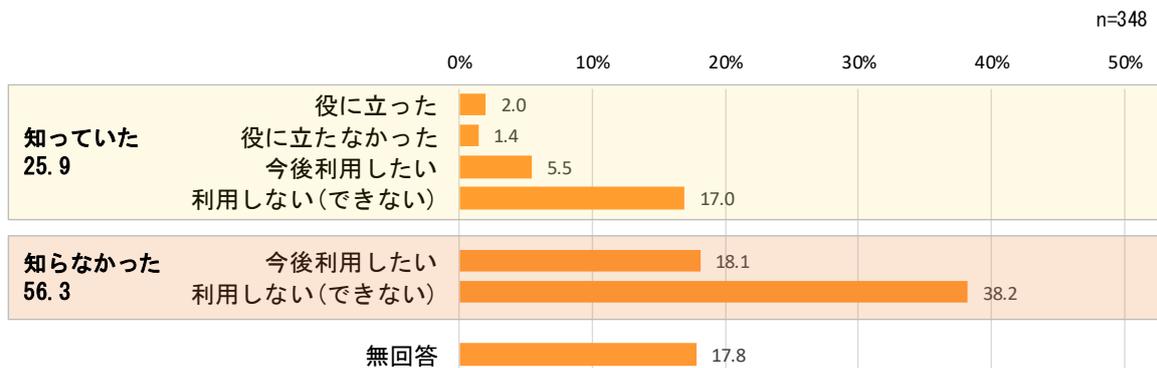
③③東京しごとセンター

「知っていた」が25.0%で、認知度が低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで6.3%、知らなかったかたで19.0%となっており、知らなかったかたの方で割合が高くなっています。現在困っていること（問24）で「仕事のこと」と回答したかたを年代別にみると、年代が低いほど困っている割合が高くなっており、年代ごとにきめ細かな就業相談等を行っている本センターの周知が仕事の困りごとへの対応として有効であることが考えられます。



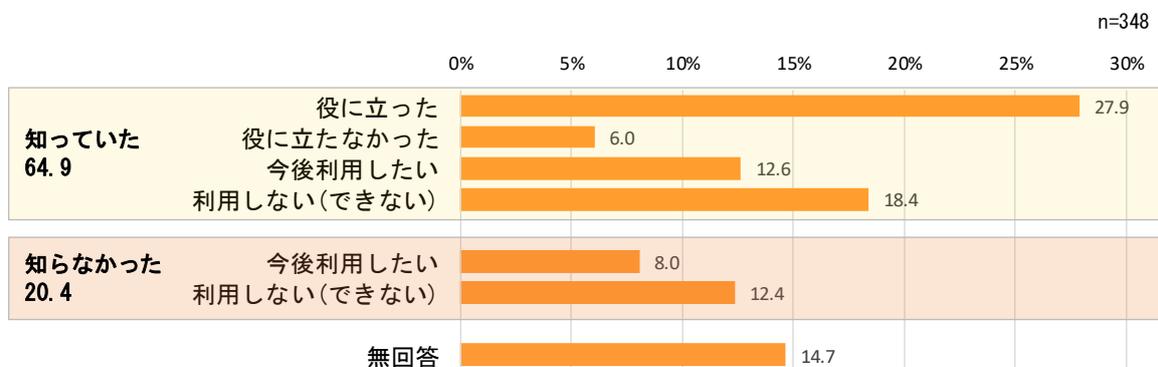
③④東京都ひとり親家庭支援センターはあと

「知っていた」が25.9%で、認知度が低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで5.5%、知らなかったかたで18.1%となっており、知らなかったかたの方で割合が高くなっています。「③③東京しごとセンター」と同様、市外拠点のサービスについての周知が課題と考えられます。



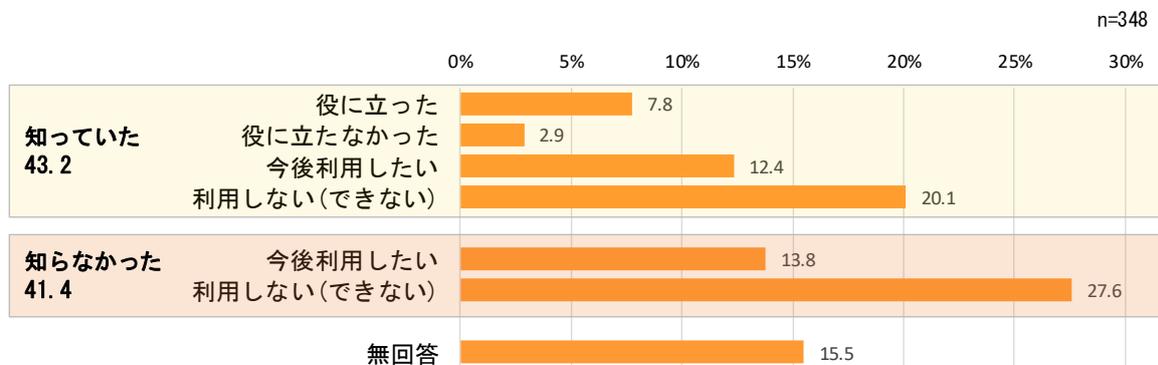
③⑤ハローワーク立川

「知っていた」が64.9%で、認知度は高くなっています。知っていたかたでは「役に立った」が27.9%で最も多くなっています。ハローワーク自体は、歴史があるにも関わらず、「知らなかった」が20.4%みられることから、周知が課題と考えられます。



③⑥マザーズハローワーク立川

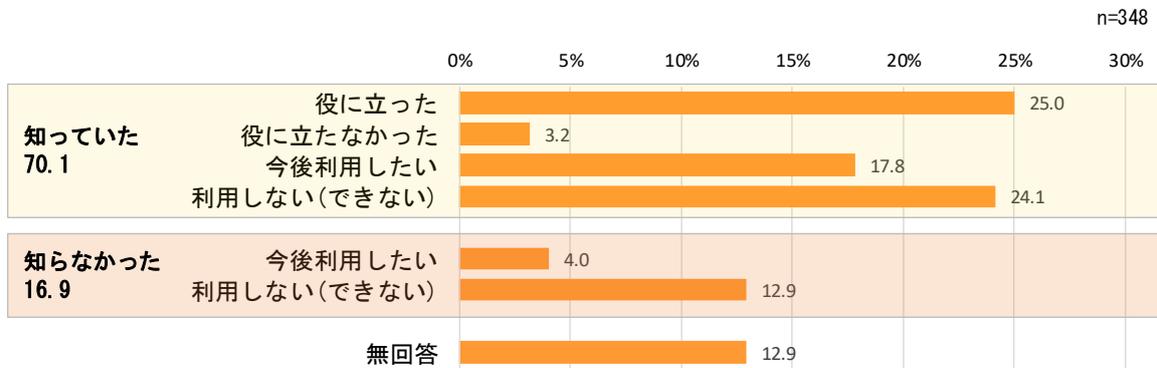
「知っていた」が43.2%で、認知度が低くなっています。「今後利用したい」は、知っていたかたで12.4%、知らなかったかたで13.8%となっています。マザーズハローワークは、子育てをしながら就職を希望する女性を対象とした機関ですが、周知が課題と考えられます。



(7) 公営住宅

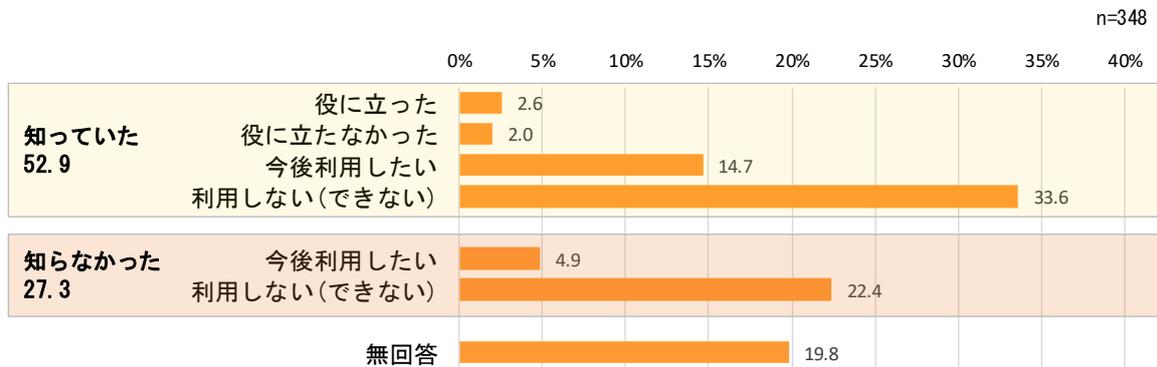
㊸都営住宅

「知っていた」が70.1%で、認知度は高くなっています。知っていたかたのうち「利用しない(できない)」が24.1%となっていますが、自由意見では、子どもの通っている学校(学区)との関係で申し込まないという意見もみられます。



㊹市営住宅

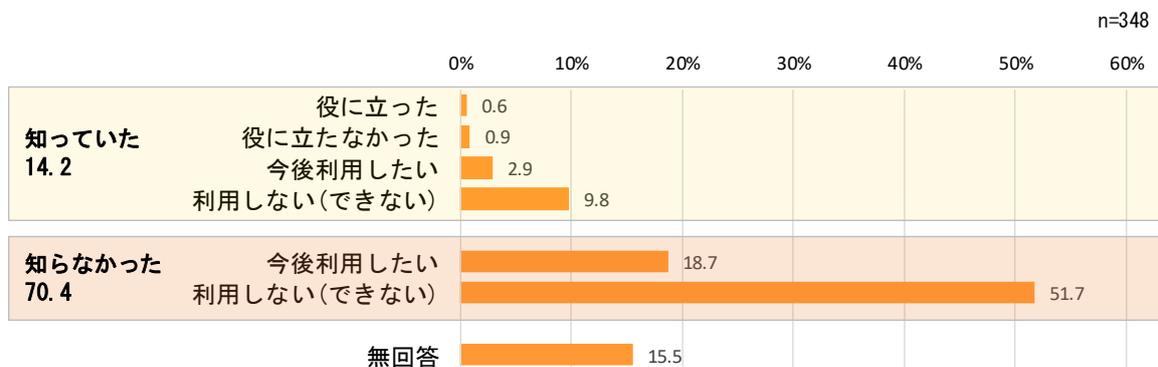
「知っていた」が52.9%で、認知度は高くなっています。「利用しない(できない)」をみると、知っていたかたでは33.6%、知らなかったかたでは22.4%となっています。



(8) マイナポータル

③9 ぴったりサービス(子育てワンストップサービス)

「知っていた」が14.2%で、「知らなかった」が70.4%であり、認知度が低くなっています。ぴったりサービスについては、平成29年11月13日から運用され、マイナンバーを利用して、児童手当の認定請求等についてオンラインの申請が行えるものですが、認知度は低い状況です。



【「仕事のこと」で困っているかた】の、相談窓口の認知と利用意向

問 24 で「仕事のこと」で困っているかたについて、問 28 の「(1) 相談・窓口」のうち子育て全般に関する相談窓口の認知度と利用意向を確認しました。確認したところ、仕事のことですべて困っているかたの各種相談窓口の認知度は困りごと全体と比べて高くなっています。

上段：回答者数 下段：%	合計	役に 立った	役に立た なかった	今後利用 したい	利用しない (できない)	今後利用 したい	利用しない (できない)	無回答
①ひとり親家庭相談(子育て支援課窓口)								
困っていること 【全体】	知っていた 61.4%					知らなかった 27.0%		
	348	93	21	32	68	37	57	40
	100.0	26.7	6.0	9.2	19.5	10.6	16.4	11.5
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 64.3%					知らなかった 24.4%		
	123	29	10	12	28	14	16	14
	100.0	23.6	8.1	9.8	22.8	11.4	13.0	11.4
②市民なやみごと相談(地域福祉課窓口)								
困っていること 【全体】	知っていた 38.7%					知らなかった 46.5%		
	348	22	13	32	68	54	108	51
	100.0	6.3	3.7	9.2	19.5	15.5	31.0	14.7
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 43.1%					知らなかった 43.1%		
	123	8	7	12	26	22	31	17
	100.0	6.5	5.7	9.8	21.1	17.9	25.2	13.8
③子ども家庭支援センター(市民総合センター2階)								
困っていること 【全体】	知っていた 52.8%					知らなかった 34.5%		
	348	70	13	31	70	47	73	44
	100.0	20.1	3.7	8.9	20.1	13.5	21.0	12.6
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 55.3%					知らなかった 31.7%		
	123	24	4	17	23	17	22	16
	100.0	19.5	3.3	13.8	18.7	13.8	17.9	13.0

【「仕事のこと」で困っているかた】の、仕事に関する機関の認知と利用意向

問 24 で「仕事のこと」で困っているかたについて、問 28 の「(6) 仕事」のうち各種支援機関の認知度と利用意向を確認しました。確認したところ、仕事のこと困っているかたの認知度は困りごと全体と比べて高くなっており、仕事のこと困っているかたは、各種支援機関を知っていたと考えられます。

問 27-1 の相談しない理由では、25.6%が「時間がない」と回答しています。より身近な場所にある市の相談窓口で、各機関の活用方法やインターネットサービスを案内するなど、周知が課題となっています。

上段：回答者数 下段：%	合計	役に 立った	役に立たな かった	今後利用 したい	利用しない (できない)	今後利用 したい	利用しない (できない)	無回答
㉓東京しごとセンター								
困っていること 【全体】	知っていた 25.0%				知らなかった 57.8%			
	348	2	5	22	58	66	135	60
	100.0	0.6	1.4	6.3	16.7	19.0	38.8	17.2
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 28.4%				知らなかった 56.1%			
	123	1	3	14	17	34	35	19
	100.0	0.8	2.4	11.4	13.8	27.6	28.5	15.4
㉔東京都ひとり親家庭支援センターはあと								
困っていること 【全体】	知っていた 25.9%				知らなかった 56.3%			
	348	7	5	19	59	63	133	62
	100.0	2.0	1.4	5.5	17.0	18.1	38.2	17.8
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 26.8%				知らなかった 56.1%			
	123	4	3	10	16	32	37	21
	100.0	3.3	2.4	8.1	13.0	26.0	30.1	17.1
㉕ハローワーク立川								
困っていること 【全体】	知っていた 64.9%				知らなかった 20.4%			
	348	97	21	44	64	28	43	51
	100.0	27.9	6.0	12.6	18.4	8.0	12.4	14.7
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 73.3%				知らなかった 13.8%			
	123	38	13	27	12	11	6	16
	100.0	30.9	10.6	22.0	9.8	8.9	4.9	13.0
㉖マザーズハローワーク立川								
困っていること 【全体】	知っていた 43.2%				知らなかった 41.4%			
	348	27	10	43	70	48	96	54
	100.0	7.8	2.9	12.4	20.1	13.8	27.6	15.5
困っていること 【仕事のこと】	知っていた 52.9%				知らなかった 34.2%			
	123	14	6	24	21	20	22	16
	100.0	11.4	4.9	19.5	17.1	16.3	17.9	13.0

パート・アルバイトで就労

【「仕事のこと」で困っているかた】の、仕事に関する機関の認知と利用意向

就労形態がパート・アルバイトのかたでは、家計のことで困っているケースも多いと考えられるため、問 15-1「どのような形で働いていますか」で「パート・アルバイト」と回答したかたに絞り込んで、問 24「仕事のこと」で困っているかたと、問 28「(6) 仕事」の各種支援機関の認知度の関連性を確認しました。確認したところ、前項でみた 4 機関とも、パート・アルバイトで就労しているかたの認知度のほうが、仕事のこと困っているかた全体の認知度よりも低くなっています。

【問15-1 就労形態／3. パート・アルバイトと回答した方】

上段：回答者数 下段：%	合計	役に 立った	役に立たな かった	今後利用 したい	利用しない (できない)	今後利用 したい	利用しない (できない)	無回答
㊸東京しごとセンター								
困っていること 【全体】		知っていた 23.9%				知らなかった 58.9%		
	134	0	2	10	20	29	50	23
	100.0	0.0	1.5	7.5	14.9	21.6	37.3	17.2
困っていること 【仕事のこと】		知っていた 28.0%				知らなかった 50.0%		
	50	0	2	6	6	14	11	11
	100.0	0.0	4.0	12.0	12.0	28.0	22.0	22.0
㊹東京都ひとり親家庭支援センターはあと								
困っていること 【全体】		知っていた 24.6%				知らなかった 56.7%		
	134	3	2	7	21	24	52	25
	100.0	2.2	1.5	5.2	15.7	17.9	38.8	18.7
困っていること 【仕事のこと】		知っていた 26.0%				知らなかった 50.0%		
	50	2	2	3	6	13	12	12
	100.0	4.0	4.0	6.0	12.0	26.0	24.0	24.0
㊺ハローワーク立川								
困っていること 【全体】		知っていた 63.5%				知らなかった 21.6%		
	134	36	8	17	24	15	14	20
	100.0	26.9	6.0	12.7	17.9	11.2	10.4	14.9
困っていること 【仕事のこと】		知っていた 68.0%				知らなかった 12.0%		
	50	15	5	10	4	5	1	10
	100.0	30.0	10.0	20.0	8.0	10.0	2.0	20.0
㊻マザーズハローワーク立川								
困っていること 【全体】		知っていた 45.4%				知らなかった 38.1%		
	134	11	3	20	27	17	34	22
	100.0	8.2	2.2	14.9	20.1	12.7	25.4	16.4
困っていること 【仕事のこと】		知っていた 58.0%				知らなかった 24.0%		
	50	7	3	10	9	6	6	9
	100.0	14.0	6.0	20.0	18.0	12.0	12.0	18.0

パート・アルバイトで就労

【困っていること別】 就職・転職で利用した公的な相談窓口

前項で、パート・アルバイトで就労し、仕事のことで困っているかたの各種支援機関の認知度をみていますが、ここでは、前項同様パート・アルバイトで就労しているかたに絞り込み、問 24 の困っていること別に実際の就職・転職で利用した相談窓口（問 15-1）について確認します。

パート・アルバイト」と回答したかたで、「仕事のことで困っている層をみると、利用した相談窓口は「㉔ハローワーク立川」が 38.7%、「㉕マザーズハローワーク立川」が 16.1%で、「公的な相談窓口は利用しなかった」は 35.5%となっています。公的な窓口の利用と「パート・アルバイト」という就労形態の因果関係はここでは読み取ることができません。

次項において、就労の形態（問 15-1）別に、仕事を選ぶときに大事だと思う条件（問 16）をみることにします。

【問15-1 就労形態／3. パート・アルバイトと回答した方】

上段：回答者数 下段：%	合計	ハロー ワーク 立川	マザーズ ハロー ワーク立 川	東京しご とセン ター	東京都ひ とり親家 庭支援セ ンターは あと	その他	公的な相 談窓口は 利用しな かった	無回答
全体	76 100.0	20 26.3	7 9.2	0 0.0	2 2.6	14 18.4	34 44.7	6 7.9
住まいのこと	21 100.0	9 42.9	3 14.3	0 0.0	1 4.8	4 19.0	6 28.6	0 0.0
仕事のことで	31 100.0	12 38.7	5 16.1	0 0.0	1 3.2	5 16.1	11 35.5	1 3.2
家計のこと	51 100.0	14 27.5	4 7.8	0 0.0	2 3.9	11 21.6	23 45.1	2 3.9
家事のこと	10 100.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0
自分の健康のこと	27 100.0	7 25.9	3 11.1	0 0.0	1 3.7	6 22.2	13 48.1	0 0.0
親族の健康・介護のこと	18 100.0	3 16.7	1 5.6	0 0.0	2 11.1	4 22.2	11 61.1	0 0.0
その他	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
困っていることは特にな	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	5 50.0	2 20.0

【就労形態別】 仕事を選ぶときに大事だと思っている条件

「収入の額」はどの就労形態のかたでも高い割合を示していますが、パート・アルバイトのかたは、「仕事の場所が自宅に近い」「勤務時間」「休みが取りやすい」「子育てに理解がある」で、正社員・正職員よりも高い割合を示しています。これらを優先したい事情から、収入が低いと考えられるパート・アルバイトの就労形態での就労を続けているという側面も考えられます。

収入を得るための仕事と生活の時間などとのバランス（問18）では「子どもと過ごす時間が少ない」「子どもとの関わりが十分にもてない」「家事や家の用事が十分にできない」「自分の自由な時間がもてない」のいずれも、7割程度が「ある（よくある＋ときどきある）」と回答しています。

多くの保護者が、仕事の時間の長さや疲れなどから子どもとの関わりが希薄になることを懸念していることがうかがえます。

上段：回答者数 下段：%	合計	収入の額	仕事の場所が自宅に近い	仕事の内容に興味・関心がある	職場の環境がよい	勤務時間	社会保険等がある
全体	348	221	132	58	72	152	95
	100.0	63.5	37.9	16.7	20.7	43.7	27.3
正社員・正職員	125	89	45	20	29	49	43
	100.0	71.2	36.0	16.0	23.2	39.2	34.4
契約社員・派遣社員	22	16	7	6	6	7	5
	100.0	72.7	31.8	27.3	27.3	31.8	22.7
パート・アルバイト	134	82	54	17	28	65	36
	100.0	61.2	40.3	12.7	20.9	48.5	26.9
自営業	8	5	3	3	1	3	0
	100.0	62.5	37.5	37.5	12.5	37.5	0.0
その他	8	6	0	2	1	6	2
	100.0	75.0	0.0	25.0	12.5	75.0	25.0

上段：回答者数 下段：%	休みが取りやすい	身分が安定している	技術や資格を生かせる	子育てに理解がある	経験のある仕事である	その他	無回答
全体	118	16	30	135	18	3	11
	33.9	4.6	8.6	38.8	5.2	0.9	3.2
正社員・正職員	36	6	18	44	7	0	4
	28.8	4.8	14.4	35.2	5.6	0.0	3.2
契約社員・派遣社員	7	2	0	4	0	0	1
	31.8	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	4.5
パート・アルバイト	53	6	10	59	6	1	2
	39.6	4.5	7.5	44.0	4.5	0.7	1.5
自営業	3	0	2	1	2	0	0
	37.5	0.0	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0
その他	2	0	0	3	0	0	0
	25.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0

(9) 情報の入手方法

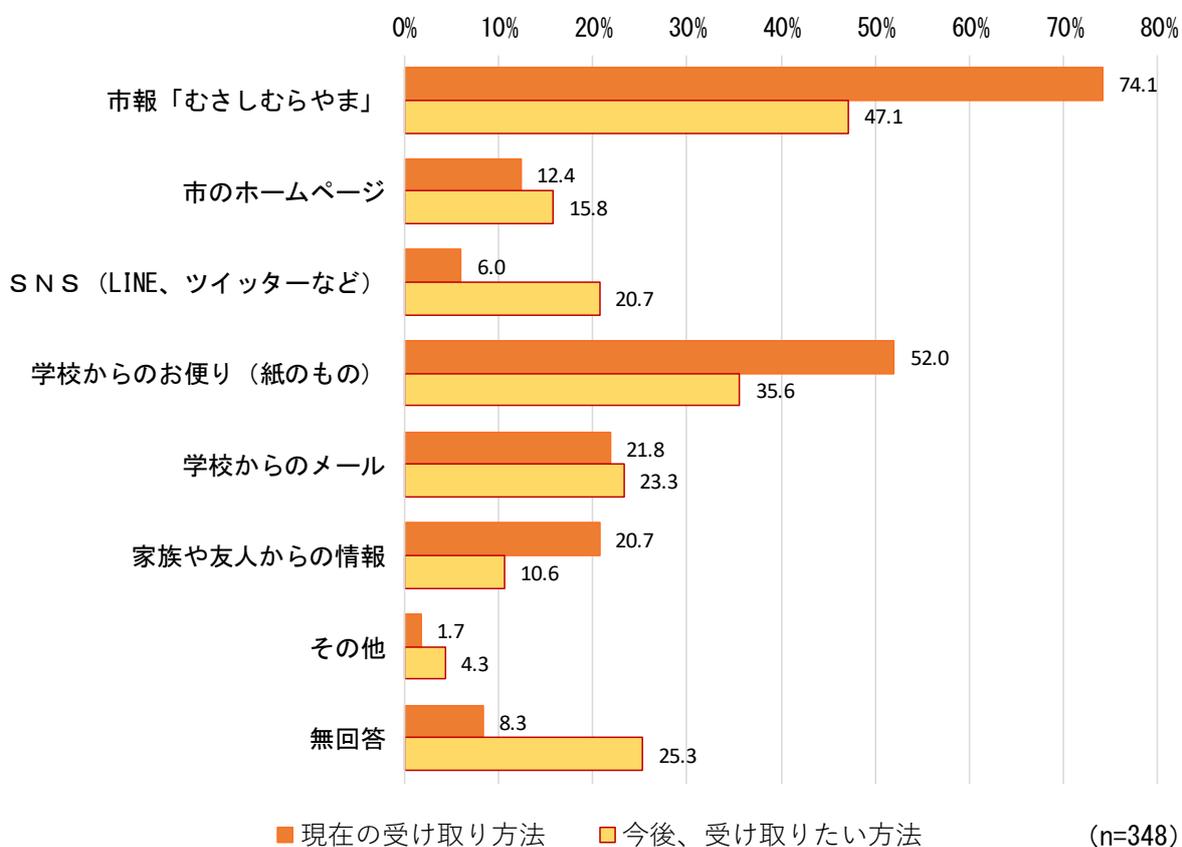
問 29 A 子どもに関する市の施策や行事などの情報について

A 現在の受け取り方法/B 今後、受け取りたい方法【複数回答】

現在の受け取り方法では、「市報「むさしむらやま」」が74.1%と最も多く、次いで「学校からのお便り（紙のもの）」が52.0%、「学校からのメール」が21.8%、「家族や友人からの情報」が20.7%、「市のホームページ」が12.4%となっています。

今後、受け取りたい方法では、「市報「むさしむらやま」」が47.1%と最も多く、次いで「学校からのお便り（紙のもの）」が35.6%、「学校からのメール」が23.3%、「SNS（LINE、ツイッターなど）」が20.7%、「市のホームページ」が15.8%となっています。

今後受け取りたい方法について、ホームページ、SNS、メールといったネット利用による方法を望む傾向がわかります。



9. 主な自由意見

問 30 その他、悩みや不安、必要と感じる支援、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。【自由記入】

(1) 事業・制度全般

- 来年から小学校に進学するので、病児保育が利用できなくなるが、低学年の子を1人で寝かせておくのが非常に心配。
- 援制度の手当はとてもありがたい。様々な制度を知る上で、定期的に母子・父子家庭などが郵便で情報を得られたら利用しやすくなると思う。
- 子どもが高校3年生なので、ひとり親家庭の制度のお世話になるのもあとわずかになったが、いろいろな制度のおかげで本当に助かった。長い間ありがとうございました。
- 児童扶養手当の算定のときに、家賃だと支払に含むのに住宅ローンは含まれないのはおかしいのでは？ ローンの他に固定資産税も払っているので算定に含めてほしい。
- ひとり親世帯でも、自立して収入を得るのは大切だと思う。自立していく上で期限をつけて支援をしていかないと努力しない人が出てくるのではないかとも思う。
- 知らない制度が多く、情報が少ない。

(2) 窓口・相談・手続き

- 1年9ヶ月前から父子家庭になった。妻の死別もあり、子どもたちや自分の精神状態が不安定。仕事は土、日休みで、市役所の相談窓口などに行けない。土、日もやっている相談窓口があったら、ぜひ教えていただきたい。
- 知らない制度もたくさんあった。子どもは17歳になるが外との接触が苦手これからを心配している。大きい子どもだと相談する所がなく行きづらい。
- 突然離婚が決まったときは市の子育て支援課や法律相談などたくさん利用させていただいた。丁寧に優しく対応してくださり励まされて大変感謝する。知らない情報も教えてもらった。木曜日に19:00まで手続きできるのも非常に助かる。仕事時間を削らずにすむので収入にも響かないから。
- 情報については今の郵送の手紙だと助かる。ホームページも便利だがチェックする時間があまりなくて漏れてしまうことが多い。子どもも大きくなり中学を卒業してしまうと学校からのお便りもなく、直接手紙で受け取る方が漏れなくてよいかと思う。

(3) 就労・仕事と子育て

- 東京都ひとり親家庭支援センターはあとの前のT-hopのときにお仕事を紹介してもらったが、働いて最初の1年くらいしか働きやすい環境ではなかった。時給も全く昇給しない、有給も取りづらい、正社員登用も頑張っても母子だからと言って査定が減点材料とされ差別を感じた。
- 子どもが小さいときは病気になると仕事を休まなくてはならず、正職員で働いている立場では肩身が狭かった。小さい子どもを抱えての仕事は本当に大変。病中・病後保育、なかなか難しいとは思いますが、働くひとり親にとってこれは本当に助かることなので検討してほしい。

- 収入を増やしたいと思いパートから社員へ転職（パートのときは日数を増やしたり）しても、手当を減額されてしまい変わらなくなってしまう。余裕があるほどの収入ならばそれも仕方ないが、母子という1人だけの収入なので、減額するにせよラインの幅を広くしてほしい。

（４）諸手当・諸費用・経済的問題

- 病院代が安くて助かるのだが無料だともっと助かる。子どもはよく病院に行くので。予防接種（インフルエンザなど）も無料だと嬉しい。6,000円なので結局受けられなかったりする。
- 子どもが大きくなれば部活などで小さい頃よりも費用もかさみ、応援や学校行事などに顔を出すために仕事を休むことになり収入や時間にシワ寄せが来る。母1人で父役、母役をしなければ子どもに淋しい思いをさせてしまうので、いつも負のスパイラル（金銭的に）状態になる。中・高生の一番お金がかかる時期の手当をもう少し手厚くしてほしい。母子家庭だからと部活をやらせないわけにもいかない。
- 資格や学校に入学したくても、今、お金がない。入学前に支給してほしい。後から返ってくるにしても『今』必要な場合がある。手当も、まとめてではなく、毎月にしてほしい。手当は大変助かってますし、ありがたいと思っている。
- 子どもとの時間を削って頑張っているのに、働いているせいで収入がオーバーして児童扶養手当やひとり親家庭等医療費助成制度が受けられなくなるのは納得できない。働いている母子・父子家庭にも優しい社会になってほしい。
- 進学するときにかかる費用が心配。大学に入ったときに子どもが借金を抱えなくてはいいののかと思うと申し訳ないしそれを返金できるのか心配。

（５）住宅・地域の環境

- 今住んでいるのは民間の賃貸で、都営の方が安いのはわかっているが、子どもに学校が変わるのが嫌と言われてしまったので都営には申し込んでいない。家賃の補助があれば助かる。
- 子どもが思い切り遊べる場がほしい。友達と遊ぶ所がなく、結局家でゲームをして過ごすことも多くなってしまふ。公園は小さい子もいるし、スポーツが思い切りできる整備されたスペースがほしい。
- 子どもが小学生のため学区内の市営住宅に応募したが落選してしまった。都営住宅では転校しなければならないためできない。民間の賃貸住宅の家賃補助等があるとよいなと思う。

（６）子ども・子育て・教育

- 生活や、子どもと自分の将来のことを考えるとお金は必要だから働かないと、少しでも貯金していかないと…と思っているが、子どもが子どもでいられるのは今だけと思うと時間は取り戻すことができないという思いで複雑。子どもたちと接する時間をもっと作りたい。
- 塾の支援が少しでもあると助かる。子どもの望む将来を実現させてあげたい。

- 義務教育の小・中学校よりも、高校の方がお金もかかるのに、児童手当が中学で終わってしまうのできつい。母子家庭には進学が厳しい現状だと思う。
- 今の収入で子どもたちをちゃんと大学まで通わせることができるのか不安。あまり学校の親参加のイベント（授業参観や保護者会等）にも行けず、同じクラスの友達や親との関わりがないのも不安。
- 子どもが小さい頃、熱を出しても、車がないので困った。例えば、タクシーを利用して、半額は市が払ってくれるなど（回数制限ありでもよいので）はどうか。皆が車を持っているとは限らないので。
- 子どもが中学まで不登校だった。高校は登校型の通信制に入学できたが、授業料（年間）が高く、これから先の学校（大学等）に行かせることに不安がある。

（7）生活全般・健康

- 低額の収入で、今後の生活が不安。親の介護もあるだろうから。
- 子どもを優先すると生活が厳しくなり、仕事（生活）を優先すると子どもが犠牲になり、なかなかうまくいかない。
- 働かなければ生活できないというプレッシャーで体をこわしてしまった。それでも、働かなければいけないので、たまにどうしていいかわからなくなる。体がこわれたら生活そのものがないのに、病院に行く時間ももったいなく感じてしまう。

武蔵村山市ひとり親家庭等ニーズ調査 ご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、武蔵村山市では、このたび、ひとり親家庭等の生活状況やご意見などをうかがい、総合的な支援を検討していくため「武蔵村山市ひとり親家庭等ニーズ調査」を実施することといたしました。

この調査は、平成30年9月時点で児童育成手当受給資格をお持ちの方にご協力をお願いするものです。

お答えいただいた内容は、ひとり親家庭への支援など、市の子どもに関する計画づくりの参考とするため、統計的に処理をします。答えた人が特定されたり、目的以外に利用されたりすることは一切ありません。

お忙しいところを恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月
武蔵村山市

【ご記入にあたってのお願い】

1. 封筒のあて名の方ご本人に回答をお願いします。年齢や年数をはじめ、質問には平成30年10月1日現在の状況でお答えください。お名前を書いていただく必要はありません。
2. 黒の鉛筆又はボールペンでご記入ください。
3. あてはまる番号を○（1つに○・あてはまるものすべてに○）で囲んでください。数字を記入する質問では、枠内に数字を記入してください。
4. ところどころ、ある番号に○をつけた方だけにお答えいただく質問があります。→の線や説明に沿ってお答えください。
5. 記入が済みましたら、お手数ですが切手を貼らずに同封の返信用封筒に入れ、以下の期限までに郵便ポストに投函してください（住所・氏名は書かなくて結構です）。

11月9日（金）までにお願いいたします。

調査に関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

〈お問い合わせ先〉

武蔵村山市役所 健康福祉部 子育て支援課 手当・医療係
電話番号：042-565-1111（内線185）
受付時間：8：30～12：00 / 13：00～17：15（土日祝日を除く）
住 所：〒208-8501 東京都武蔵村山市本町一丁目1番地の1

問6 ひとり親家庭になってから何年くらいになりますか。(枠内に数字を記入)

※何度かご経験の場合は、最後にひとり親家庭になってからの年月(例:1年5か月)を書いてください。

		年			か月
--	--	---	--	--	----

問7 ひとり親家庭になった理由を教えてください。(1つに○)

1. 離婚	2. 死別
3. 未婚	4. その他 ()

問7-1 問7で「1. 離婚」又は「3. 未婚」を選んだ方にうかがいます。

養育費は、支払われていますか。(1つに○)

※「養育費」とは、子どもが自立するまでに必要な費用で、生活の経費、教育費、医療費などです。離婚などで別れて暮らしている親でも、子どもに対する義務として支払わなければいけません。
※養育費が支払われている場合は、一年間のおおよその金額を()に書いてください。

1. 定期的支払われている (年間 _____ 円)	2. 不定期だが支払われている (年間 _____ 円)
3. 取り決めをしているが、支払われていない	4. 取り決めをしていない
5. 請求できることを知らなかった	6. その他 ()

問7-2 面会交流の取り決めをしていますか。(1つに○)

※「面会交流」とは、離れて生活している父や母と、子どもが定期的・継続的に交流することです。

1. している(文書あり)	2. している(文書なし)	3. していない
---------------	---------------	----------

問8 すべての方にうかがいます。お住まいは次のうちのどちらですか。(1つに○)

1. 自分の持ち家	2. 親など親族の持ち家	3. 都営住宅・市営住宅
4. 民間の賃貸住宅	5. 社宅・会社の寮	6. その他 ()

問9 お住まいの間取りを教えてください。(1つに○)

※部屋やキッチンなどの分け方はさまざまなので、下のうち近いと思うものに○をしてください。

1. 1K	2. 1DK	3. 1LDK	4. 2DK
5. 2LDK	6. 3DK	7. 3LDK	8. その他 ()

問10 家賃・住宅ローンなど、お住まいには1か月にどのくらいの費用がかかりますか。(1つに○)

※水道代、電気代などは入れず、住む場所のためにかかる費用をお答えください。

1. 0円(住まいに費用はかかっていない)	2. 1円以上1万円未満
3. 1万円以上2万円未満	4. 2万円以上4万円未満
5. 4万円以上6万円未満	6. 6万円以上8万円未満
7. 8万円以上10万円未満	8. 10万円以上

2. 仕事（就労）について

問 11 すべての方にうかがいます。

ひとり親家庭になったときの仕事の状況を教えてください。(1つに○)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 働いていた | 2. 働いていなかった |
|----------|-------------|

問 12 ひとり親家庭になったことで、仕事の状況は変わりましたか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|---------|---------|------------|
| 1. 働き始めた | 2. 転職した | 3. 退職した | 4. 変わっていない |
|----------|---------|---------|------------|

問 12-1 問 12 で「1. 働き始めた」「2. 転職した」と答えた方にうかがいます。

就職・転職活動を始めてから仕事が決まるまでどのくらいかかりましたか。(1つに○)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 1か月以内 | 2. 1か月～2か月以内 |
| 3. 2か月～3か月以内 | 4. 3か月～6か月以内 |
| 5. 6か月（半年）以上かかった | |

問 12-2 就職・転職で利用した公的な相談窓口はどちらですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. ハローワーク立川 | 2. マザーズハローワーク立川 |
| 3. 東京しごとセンター | 4. 東京都ひとり親家庭支援センターはあと |
| 5. その他 () | 6. 公的な相談窓口は利用しなかった |

問 13 すべての方にうかがいます。現在の仕事の状況を教えてください。(1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 働いている | 2. 働いていない |
|----------|-----------|

問 14 問 13 で「2. 働いていない」と答えた方にうかがいます。働いていない理由は何ですか。

(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 求職中のため（今、仕事を探している） | 2. 家事・育児のため |
| 3. 介護のため | 4. 自分の健康に不安があるため |
| 5. 収入・労働時間の条件があわないため | 6. 職業訓練・通学のため |
| 7. 仕事につくことは考えていないため | 8. その他 () |

ここからは、問 13 で「1. 働いている」と答えた方にうかがいます。

問 15 働いている場所はどちらですか。(1つに○)

- | | | | |
|-----------|---------|-------------|------------|
| 1. 武蔵村山市内 | 2. 多摩地区 | 3. 東京 23 区内 | 4. その他 () |
|-----------|---------|-------------|------------|

問 15-1 どのような形で働いていますか。(1つに○)

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|--------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. 契約社員・派遣社員 | 3. パート・アルバイト | 4. 自営業 |
| 5. その他 () | | | |

問 15-2 今の仕事の、出勤時間と帰宅時間を教えてください。また、仕事のある日に、子どもと一緒にいられる時間はどのくらいですか。(枠内に数字を記入)

※出勤時間及び帰宅時間が日によって変わる場合は、一番多い時刻を書いてください。

※子どもと一緒にいる時間については、お子さんが2人以上いる場合は、一番多い状況で書いてください。

出勤時間 (家を出る時刻) (例: 7時 30分)		帰宅時間 (家に帰ってくる時刻) (例: 18時 30分)		子どもと一緒にいる時間 (睡眠時間は除く)	
時	分	時	分	時間くらい	

問 15-3 今の仕事の、一週間あたりの平均就業時間を教えてください。(1つに○)

※一週間の間に仕事をしている時間の合計をおおまかでよいので計算し、下から選んでください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 10時間以下 | 2. 11時間～20時間 |
| 3. 21時間～30時間 | 4. 31時間～40時間 |
| 5. 40時間～50時間 | 6. 51時間以上 |

問 15-4 今の仕事から転職する希望がありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 今の仕事を続けたい | 2. 仕事を変えたい |
| 3. 仕事を辞めたい | |

問 15-5 問 15-4で「2. 仕事を変えたい」と答えた方にうかがいます。

仕事を変えたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 収入がよくない | 2. 仕事の場所が自宅から遠い |
| 3. 仕事の内容がよくない | 4. 職場の環境になじめない |
| 5. 仕事の時間が自分の生活にあわない | 6. 社会保険等がない又は不十分 |
| 7. 休みが少ない | 8. 身分が安定していない |
| 9. 経験や能力が発揮できない | 10. 自分の健康状態がわるくなる |
| 11. その他 () | |

問 15-6 問 15-4で「2. 仕事を変えたい」と答えた方にうかがいます。

希望する仕事の形は何ですか。(1つに○)

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|--------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. 契約社員・派遣社員 | 3. パート・アルバイト | 4. 自営業 |
| 5. その他 () | | | |

すべての方にかがいます。

問 16 仕事を選ぶときはどんな条件が大事だと思っていますか。(3つまで○)

1. 収入の額	2. 仕事の場所が自宅に近い
3. 仕事の内容に興味・関心がある	4. 職場の環境がよい
5. 勤務時間	6. 社会保険等がある
7. 休みが取りやすい	8. 身分が安定している
9. 技術や資格を生かせる	10. 子育てに理解がある
11. 経験のある仕事である	12. その他 ()

問 17 (1) あなたがもっている資格はありますか。(2) 今後、とりたい資格はありますか。(あてはまるものすべてに○)

※「※」のついている資格は「母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業」の対象です。この事業は、ひとり親家庭の父又は母が自立するために、就業に必要な教育訓練のための講座の受講に要する費用の一部を訓練給付金として支給します。

(1) もっている資格の番号に○、資格が役立った場合は □にチェック✓をいれてください。

1. 看護師 [※] <input type="checkbox"/>	2. 准看護師 [※] <input type="checkbox"/>	3. 理学療法士 [※] <input type="checkbox"/>
4. 作業療法士 [※] <input type="checkbox"/>	5. 介護福祉士 [※] <input type="checkbox"/>	6. 保育士 [※] <input type="checkbox"/>
7. 歯科衛生士 <input type="checkbox"/>	8. 理・美容師 <input type="checkbox"/>	9. 社会福祉士 <input type="checkbox"/>
10. 調理師 <input type="checkbox"/>	11. 保健師 <input type="checkbox"/>	12. 助産師 <input type="checkbox"/>
13. 製菓衛生師 <input type="checkbox"/>	14. 経理・簿記 <input type="checkbox"/>	15. パソコン・OA 関係 <input type="checkbox"/>
16. 医療事務 <input type="checkbox"/>	17. ホームヘルパー <input type="checkbox"/>	18. その他 ()

(2) 今後、とりたい資格に○をしてください。

1. 看護師 [※]	2. 准看護師 [※]	3. 理学療法士 [※]
4. 作業療法士 [※]	5. 介護福祉士 [※]	6. 保育士 [※]
7. 歯科衛生士	8. 理・美容師	9. 社会福祉士
10. 調理師	11. 保健師	12. 助産師
13. 製菓衛生師	14. 経理・簿記	15. パソコン・OA 関係
16. 医療事務	17. ホームヘルパー	18. その他 ()

問 17-1 問 17 (2) 今後、とりたい資格で、いずれかに○をつけた方にかがいます。

資格をとるにあたって、悩みや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 費用がかかる	2. 今よりも収入が減る
3. 職場の理解がない	4. 自分の知識・学歴
5. 資格をとるための時間がない	6. 子どもの預け先がない
7. 情報がない	8. その他 ()
9. 悩みや困りごとは特にない	

問 18 **すべての方にかがいます。** 仕事では収入をえられますが、生活の時間を使うことになりま
す。仕事と生活とのバランスについて、あなたには次の A~D のようなことがありますか。
A~D それぞれについてあてはまる番号（1~4）1 つに○をつけてください。

	よくある	ときどき ある	ほとんど ない	まった くない
A 仕事のため、子どもと過ごす時間が少ない	1	2	3	4
B 仕事の悩みや疲れのため、子どもとの関わりが十分にもてない	1	2	3	4
C 仕事のため、必要な家事や家の用事が十分にできない	1	2	3	4
D 仕事のため、自分の自由な時間がもてない	1	2	3	4

3. 収入について

問 19 あなたの世帯で、以下の A から F の社会保障給付金及び公的年金の 1 回あたりの支給額はい
くらですか。（枠内に数字を記入）

※児童育成手当、児童扶養手当は、所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための補助金です。
※該当する収入がない場合には、0 と書いてください。兄弟姉妹等にかかわる手当等も含まれます。

	1 回に振り込まれる金額（支払月）	
A 児童手当	_____ 円	（2・6・10月）
B 児童育成手当	_____ 円	（2・6・10月）
C 児童扶養手当	_____ 円	（4・8・12月）
D 特別児童扶養手当	_____ 円	（4・8・12月）
E 年金（遺族年金、老齢年金など）	_____ 円	（2か月に1回。偶数月）
F 生活保護	_____ 円	（毎月）

問 20 あなたの世帯の収入についてうかがいます。問 19 で回答いただいた、**社会保障給付金及び
公的年金以外の収入**について、（1）お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の収入源、
（2）年間収入（税込）を教えてください。

（1）世帯全員の収入源（あてはまるものすべてに○）

1. 勤労収入（パート等）	2. 元配偶者等からの養育費	3. 事業収入・不動産収入
4. 親族等からの支援	5. 子どもからの収入	6. その他（ ）

（2）世帯全員の年間収入（税込）（1 つに○）

※問 19 で答えた社会保障給付金、公的年金は除いてください。

1. 収入はない（0 円）	2. 1~50 万円未満	3. 50~100 万円未満
4. 100~200 万円未満	5. 200~300 万円未満	6. 300~400 万円未満
7. 400~500 万円未満	8. 500 万円以上	9. わからない

4. お子さんについて

問 21 **小学校入学前**のお子さんがある方にうかがいます。

日中の保育は主にどなたが行っていますか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|----------|------------|------------|
| 1. あなた自身 | 2. 同居の親族 | 3. 別居の親族 | 4. 保育園 |
| 5. 幼稚園 | 6. 認証保育所 | 7. 事業所内保育所 | 8. その他 () |

問 21-1 仕事などで、夜間(保育所等の終了後)に子どもの世話をできない場合の預け先はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 同居の親族 | 2. 別居の親族 | 3. 子どもショートステイ |
| 4. 友人・知人・近所の人 | 5. 託児所(民間・職場) | 6. その他 () |

問 22 **小・中学生**のお子さんがある方にうかがいます。平日(学校のある日)の放課後を、おさんはどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1. 学童クラブ・児童館 | 2. 放課後子ども教室 | 3. 友だちと遊んでいる |
| 4. 学校のクラブ活動 | 5. 塾や習いごと | 6. 同居の親族と自宅にいる |
| 7. 子どもだけで自宅にいる | 8. 別居の親族の家にいる | 9. その他 () |

問 22-1 土・日曜日(学校が休みの日)や長期休暇中(夏休み・冬休みなど)の日中を、おさんはどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 学童クラブ・児童館 | 2. 友だちと遊んでいる | 3. 学校のクラブ活動 |
| 4. 塾や習いごと | 5. 同居の親族と自宅にいる | 6. 子どもだけで自宅にいる |
| 7. 別居の親族の家にいる | 8. その他 () | |

問 22-2 おさんの学習についてどのような支援が必要だと思いますか。(1つに○)

- | | | | |
|-----------|------|---------|------------|
| 1. 学校での補習 | 2. 塾 | 3. 家庭教師 | 4. その他 () |
|-----------|------|---------|------------|

問 23 **中学校卒業後**のお子さんがある方にうかがいます。おさんの状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------------------|------------|-----------------|
| 1. 進学している | 2. 働いている | 3. 家事・育児を分担している |
| 4. アルバイトをして家計を助けている | 5. その他 () | |

問 23-1 問 23-2 で「2. 働いている」と答えた方にうかがいます。おさんが進学せずに働いている理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 経済的な事情で働く必要があったから | 2. 子ども本人が働くことを希望したから |
| 3. 進学以外の将来の目的があったから | 4. その他 () |

5. お困りのことについて

問 24 現在、あなたが困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 住まいのこと | 2. 仕事のこと |
| 3. 家計のこと | 4. 家事のこと |
| 5. 自分の健康のこと | 6. 親族の健康・介護のこと |
| 7. その他 () | 8. 困っていることは特にな |

問 25 子育てや、お子さんとの関わりについて悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 子どものしつけ・教育 | 2. 子どもと接する・関わる時間がない |
| 3. 勉強を教えてあげられない | 4. 子どもの悩みを聞いてあげられない |
| 5. 子どもにきつくあたってしまうことがある | 6. 他人の子どもの親との関係 |
| 7. その他 () | 8. 悩んでいることは特にな |

問 26 お子さんのことでの悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 子どもの健康・発達・障がい | 2. 子どもの勉強・学力 |
| 3. 子どもの進路 (進学・就職) | 4. 子どもの友人関係・いじめ |
| 5. 子どもの素行 | 6. 不登校・引きこもり |
| 7. その他 () | 8. 悩んでいることは特にな |

問 27 困りごとや悩みごとがあるときに、誰に(どこに)相談をしますか。

(3つまで○)

- | | | |
|--------------|------------------------|------------------|
| 1. 自分の親族 | 2. 自分の兄弟姉妹 | 3. 自分の友人・知人 |
| 4. ママ友・パパ友 | 5. 職場の同僚・上司 | 6. 元配偶者 (子どもの親) |
| 7. 学校 | 8. かかりつけ医 | 9. 保育園・幼稚園・学童クラブ |
| 10. 市役所の相談窓口 | 11. SNS (LINE などの知り合い) | 12. 相談しない |

問 27-1 問 27 で「12. 相談しない」と答えた方にうかがいます。相談しない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------|--------------|----------|
| 1. 相談できる人がいない | 2. 相談する気がしない | 3. 時間がない |
| 4. どこで相談できるかわからない | 5. その他 () | |

6. 支援制度について

問 28 以下の支援制度についてご存知のものはありますか。また利用状況についてあてはまるものを教えてください。(①～⑳それぞれあてはまるもの1つに○)

	制度を知っていた				制度を知らなかった	
	利用したことがある		利用したことがない		利用したことがない	
	役に立った	役に立たなかった	今後利用したい	利用しない(できない)	今後利用したい	利用しない(できない)
相談・窓口						
①ひとり親家庭相談(子育て支援課窓口)	1	2	3	4	5	6
②市民なやみごと相談(地域福祉課窓口)	1	2	3	4	5	6
③子ども家庭支援センター(市民総合センター2階)	1	2	3	4	5	6
④子育て世代包括支援センター ハグはぐ・むらやま(お伊勢の森分室)	1	2	3	4	5	6
⑤消費生活相談(市役所1階)	1	2	3	4	5	6
⑥小平児童相談所	1	2	3	4	5	6
手当・資金						
⑦児童扶養手当	1	2	3	4	5	6
⑧児童育成手当(育成手当)	1	2	3	4	5	6
⑨児童育成手当(障害手当)	1	2	3	4	5	6
⑩児童手当	1	2	3	4	5	6
⑪私立幼稚園等に通園する園児の 保護者に対する補助金	1	2	3	4	5	6
⑫就学援助費	1	2	3	4	5	6
⑬いろいろな奨学金	1	2	3	4	5	6
⑭東京都母子及び父子福祉資金・ 女性福祉資金の貸付	1	2	3	4	5	6
⑮生活福祉資金等貸付事業	1	2	3	4	5	6
医療費の助成						
⑯ひとり親家庭等医療費助成制度(マル親)	1	2	3	4	5	6
⑰乳幼児医療費助成制度(マル乳)	1	2	3	4	5	6
⑱義務教育就学児医療費助成制度(マル子)	1	2	3	4	5	6
⑲その他の医療費制度	1	2	3	4	5	6

	制度を知っていた				制度を知らなかった	
	利用したことがある		利用したことがない		利用したことがない	
	役に立った	役に立たなかった	今後利用したい	利用しない(できない)	今後利用したい	利用しない(できない)
子育て支援事業						
㉔ 子どもショートステイ事業	1	2	3	4	5	6
㉕ 病児・病後児保育事業	1	2	3	4	5	6
㉖ 育児支援ヘルパー事業	1	2	3	4	5	6
㉗ 保育所	1	2	3	4	5	6
㉘ 学童クラブ・児童館	1	2	3	4	5	6
㉙ 放課後子ども教室	1	2	3	4	5	6
㉚ ファミリー・サポート・センター	1	2	3	4	5	6
生活						
㉛ 生活保護	1	2	3	4	5	6
㉜ 水道・下水道料金の免除	1	2	3	4	5	6
㉝ 都営交通無料乗車券 (都電・都バス・都営地下鉄)	1	2	3	4	5	6
㉞ JR 通勤定期乗車券の割引	1	2	3	4	5	6
仕事						
㉟ 母子家庭等自立支援教育訓練 給付金事業	1	2	3	4	5	6
㊱ 母子家庭等高等職業訓練促進 給付金事業	1	2	3	4	5	6
㊲ 東京しごとセンター	1	2	3	4	5	6
㊳ 東京都ひとり親家庭支援センターはあと	1	2	3	4	5	6
㊴ ハローワーク立川	1	2	3	4	5	6
㊵ マザーズハローワーク立川	1	2	3	4	5	6
公営住宅						
㊶ 都営住宅	1	2	3	4	5	6
㊷ 市営住宅(現在空き家はありません)	1	2	3	4	5	6
マイナポータル						
㊸ ぴったりサービス(子育てワンストップサービス) [※]	1	2	3	4	5	6

※ぴったりサービス(子育てワンストップサービス)とは、マイナポータルにログインすることで子育てサービスの検索や申請手続きの際にマイナンバーが利用され、オンラインでの申請手続きや、必要な添付書類の一部を省略できる制度です。

問 29 子どもに関する市の施策や行事などの情報をどのような方法で受け取っていますか。また、今後、どのような方法で受け取りたいですか。

(A、B それぞれあてはまるものすべてに○)

A 現在の受け取り方法	B 今後、受け取りたい方法
1. 市報「むさしむらやま」	1. 市報「むさしむらやま」
2. 市のホームページ	2. 市のホームページ
3. SNS (LINE、ツイッターなど)	3. SNS (LINE、ツイッターなど)
4. 学校からのお便り (紙のもの)	4. 学校からのお便り (紙のもの)
5. 学校からのメール	5. 学校からのメール
6. 家族や友人からの情報	6. 家族や友人からの情報
7. その他 ()	7. その他 ()

問 30 その他、悩みや不安、必要と感じる支援、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。お忙しいところ、回答にご協力いただき、ありがとうございました。

なお、本調査の結果は、集計後に市ホームページなどで公表いたします。

11月9日(金)までに郵便ポストに投函してください。



市広報キャラクター
「Mジロ」

武蔵村山市ひとり親家庭等ニーズ調査 報告書

発行年月：平成 31 年 3 月

発 行：武蔵村山市 健康福祉部 子育て支援課

住 所：〒208-8501

東京都武蔵村山市本町一丁目 1 番地の 1

電話番号：042-565-1111（内線 185）